
文京区障害者(児)実態・意向調査報告書

概要版

令和5年3月



文京区



目次

目次 - 1 -

◆ 調査の概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査の対象と調査方法	3
◆ 量的調査(アンケート調査)	3
1. 調査の種類	3
2. 調査方法	4
3. 調査期間	4
4. 回収結果	4
5. 概要版の見方	4
○ 在宅の方を対象にした調査	5
○ 18歳未満の方を対象にした調査	43
○ 施設に入所している方を対象にした調査	61
○ サービス事業所の方を対象にした調査	71
○ 長期入院施設を対象にした調査	79
◆ 質的調査(インタビュー調査)	81

◆ 調査の概要

1. 調査の目的

文京区では障害者及び障害児がいきいきと自分らしく、健康で自立した生活を営めるよう、「文の京^{ふみ みやこ}ハートフルプラン 文京区地域福祉保健計画 障害者・児計画」に基づき、様々な障害福祉施策を推進しています。

令和5年度に次期障害者・児計画（令和6年度～令和8年度）を改定するに当たり、その基礎資料を得るとともに、障害者・児の方々の日常生活の実態、サービスの利用状況や希望等を把握するため、実態・意向調査を実施しました。また、区内の障害福祉サービス事業所等を対象に、事業所の概要や福祉人材の現状を把握するとともに、都内の医療機関における区民の長期入院患者の状況を把握することで、今後の障害福祉サービス等の基盤整備に資するための基礎資料とします。

2. 調査の対象と調査方法

本調査では、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、18歳未満の方、区内障害福祉サービス等事業所及び都内長期入院施設を対象とした量的調査（アンケート調査）並びに区内施設等を利用する知的障害者及び精神障害者を対象とした質的調査（インタビュー調査）の2種類を実施しました。

◆ 量的調査(アンケート調査)

1. 調査の種類

調査の種類	対象者
在宅の方	文京区内に居住し、以下に該当する18歳以上の方 ・身体障害者手帳をお持ちの方 (肢体不自由、内部障害については無作為抽出、その他の障害については全数) ・愛の手帳をお持ちの方（全数） ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方（全数） ・難病医療券をお持ちの方（全数）
18歳未満の方	文京区内に居住し、以下に該当する18歳未満の方 ・身体障害者手帳をお持ちの方 ・愛の手帳をお持ちの方 ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方 ・難病医療券をお持ちの方 ・障害児通所支援受給者証をお持ちの方
施設に入所している方	・身体障害者手帳、愛の手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちで、文京区が支給決定した施設入所支援及び療養介護のサービスをご利用中の18歳以上の方
サービス事業所の方	・文京区内の指定障害福祉サービス等事業所
長期入院施設	・東京都内の精神科長期入院施設(医療機関)

2. 調査方法

調査票を郵送配付し、郵送又はインターネットにより回収する方式で実施しました。

3. 調査期間

令和4年10月3日～10月31日

4. 回収結果

種類	配付数	回収数	有効回答数		有効回答率	
				内インターネット		内インターネット
在宅の方	5,087	2,003	2,000	381	39.3%	7.5%
18歳未満の方	878	351	350	138	39.9%	15.7%
施設に入所している方	143	86	85	5	59.4%	3.5%
サービス事業所	95	73	73	25	76.8%	26.3%
長期入院施設	65	53	53		81.5%	
合計	6,268	2,566	2,561	549	40.9%	

※ インターネットによる有効回答率は、配付数におけるインターネット回答の割合です。

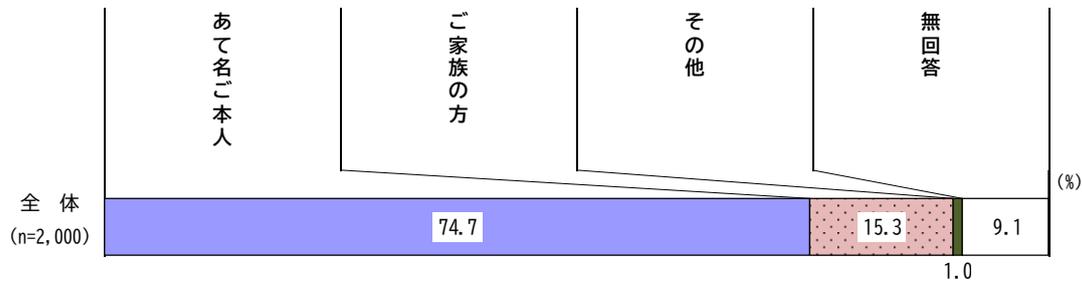
5. 概要版の見方

- ・各設問の回答者の総数はn(Number of case)と表記しています。
- ・集計した数値(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。このため、単数回答であっても、合計値が100%にならない場合もあります。
- ・回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。
- ・クロス集計表において、その表頭の設問中、「その他」、「特になし」等、「無回答」を除く最も高い割合に網掛けをしています。また、表側の回答者の総数(n)が10未満の場合、1つの回答による割合の変動が大きいため、原則コメントをしていません。
- ・「長期入院施設」の調査については、65か所の病院に対して、調査票を配付し、53か所の病院から回答がありました。分析では、長期入院患者がいない病院を除き、48人の長期入院患者の情報を集計しています。

○ 在宅の方を対象にした調査

(1) 対象者特性

(1-1) 回答者(問1)



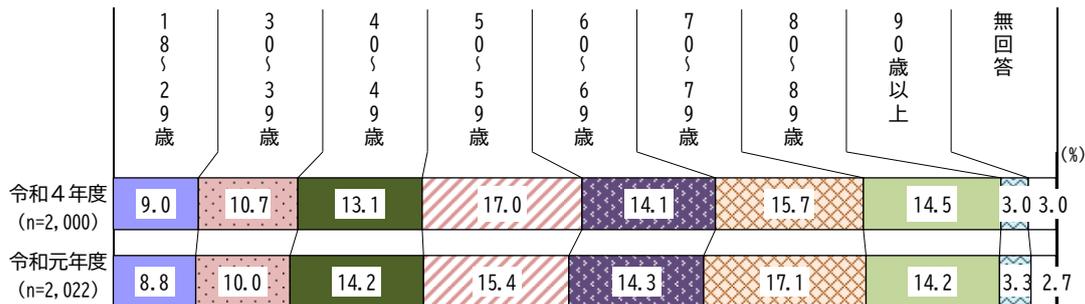
調査の回答者は、「あて名ご本人」が74.7%と7割半ばを占めており、「ご家族の方」は15.3%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	あて名ご本人	ご家族の方	その他	無回答
全体	2,000	74.7	15.3	1.0	9.1
肢体不自由	283	66.1	20.1	1.1	12.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	45.5	44.2	0.0	10.4
視覚障害	144	65.3	24.3	2.1	8.3
聴覚・平衡機能障害	146	69.9	19.9	0.7	9.6
内部障害	278	75.9	11.5	0.0	12.6
知的障害	231	32.5	55.0	3.9	8.7
発達障害	187	66.8	25.7	0.5	7.0
精神障害	464	80.2	9.3	0.4	10.1
高次脳機能障害	44	47.7	36.4	2.3	13.6
難病(特定疾病)	632	83.4	8.7	0.8	7.1
その他	35	77.1	17.1	2.9	2.9

障害別にみると、“知的障害”を除くいずれの障害も「あて名ご本人」が最も高くなっています。“知的障害”では「ご家族の方」が55.0%と5割半ばを占め、他の障害よりも高くなっています。

(1-2)年齢(問2)



障害者本人の年齢は、「50～59歳」が17.0%と最も高く、次いで「70～79歳」が15.7%、「80～89歳」が14.5%、「60～69歳」が14.1%と続いています。

令和元年度と比較すると、60歳以上の割合が、1.3ポイント低下していますが、全体的な傾向については大きな変化はありません。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	無回答
全体	2,000	9.0	10.7	13.1	17.0	14.1	15.7	14.5	3.0	3.0
肢体不自由	283	2.1	4.9	6.0	12.4	12.7	26.1	26.9	6.7	2.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	9.1	1.3	3.9	14.3	14.3	28.6	23.4	1.3	3.9
視覚障害	144	6.9	6.3	13.2	10.4	16.7	17.4	20.1	6.9	2.1
聴覚・平衡機能障害	146	4.8	6.2	7.5	2.7	13.7	11.6	36.3	13.7	3.4
内部障害	278	2.5	3.6	6.1	12.6	14.0	22.7	29.5	6.1	2.9
知的障害	231	36.4	21.6	14.7	14.7	4.8	3.0	1.3	0.4	3.0
発達障害	187	38.0	26.7	15.0	9.1	6.4	0.5	0.0	0.0	4.3
精神障害	464	8.2	15.7	20.9	28.7	15.3	5.6	1.9	0.0	3.7
高次脳機能障害	44	4.5	4.5	13.6	22.7	13.6	13.6	15.9	2.3	9.1
難病(特定疾病)	632	4.0	7.6	12.7	21.4	17.9	18.8	13.9	1.6	2.2
その他	35	11.4	14.3	5.7	17.1	8.6	22.9	14.3	2.9	2.9

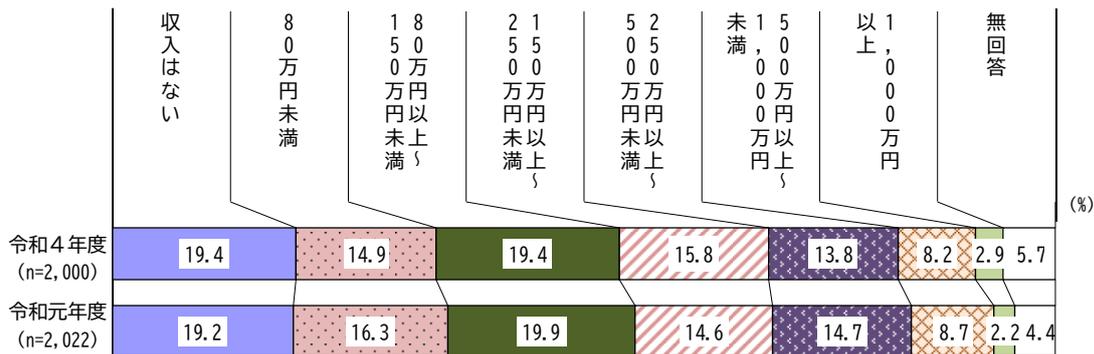
障害別にみると、“知的障害”と“発達障害”では「18～29歳」の若年層が3割半ばを超えて最も高くなっています。

“精神障害”、“高次脳機能障害”、“難病(特定疾病)”では「50～59歳」が2割台で最も高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”では「70～79歳」が2割台で最も高くなっています。

それ以外の障害では「80～89歳」の年齢で最も高くなっています。

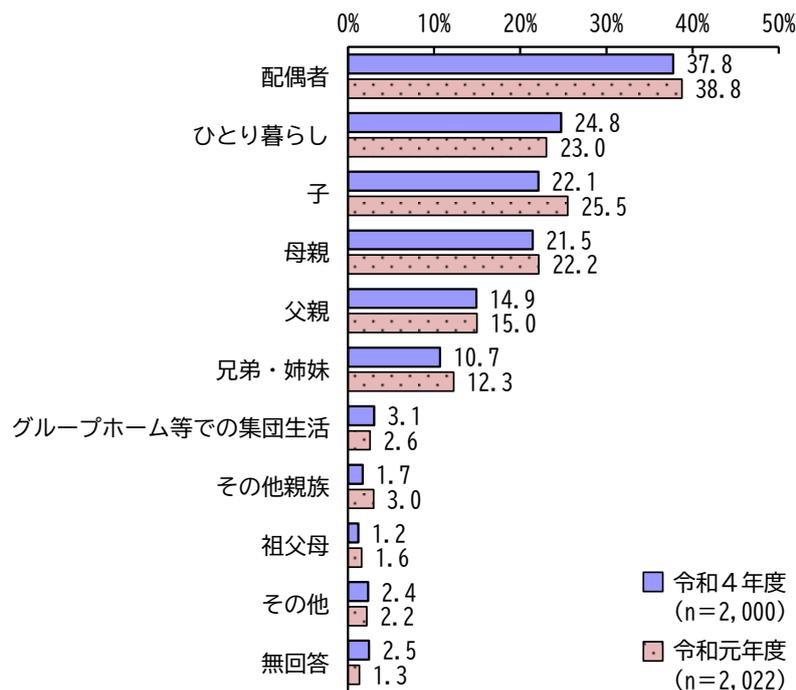
(1-3)年収(問3)



障害者本人の年収は、「80万円以上～150万円未満」と「収入はない」がともに19.4%と最も高く、次いで「150万円以上～250万円未満」が15.8%と1割半ばを超えています。

令和元年度と比較すると、全体的にあまり変化はありません。

(1-4)同居家族(問5)



同居している家族は、「配偶者」が37.8%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「ひとり暮らし」が24.8%、「子」が22.1%、「母親」が21.5%と2割台で続いています。

令和元年度と比較すると、前回2番目の「子」が3.4ポイント下がっており、前回3番目の「ひとり暮らし」と順位が入れ替わっていますが、全体の傾向に大きな変化はありません。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	父親	母親	配偶者	子	兄弟・姉妹	祖父母
年代別	全体	2,000	14.9	21.5	37.8	22.1	10.7	1.2
	18歳以上40歳未満	393	48.3	59.0	14.5	7.6	30.8	5.1
	40歳以上65歳未満	752	13.6	23.9	37.6	23.4	7.8	0.5
	65歳以上75歳未満	297	0.7	4.0	51.5	19.5	6.4	0.0
	75歳以上	499	0.2	0.2	51.1	34.7	2.2	0.0
障害別	肢体不自由	283	9.9	13.1	42.8	29.0	4.9	1.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	77	16.9	20.8	40.3	16.9	18.2	1.3
	視覚障害	144	10.4	14.6	41.7	21.5	7.6	1.4
	聴覚・平衡機能障害	146	7.5	10.3	37.7	29.5	4.8	0.0
	内部障害	278	4.3	7.6	50.7	30.2	4.0	0.4
	知的障害	231	56.3	74.5	3.0	1.3	39.4	3.9
	発達障害	187	43.9	55.6	8.0	4.8	28.9	3.7
	精神障害	464	19.2	26.9	23.9	14.0	11.0	1.3
	高次脳機能障害	44	18.2	27.3	43.2	20.5	9.1	2.3
	難病（特定疾病）	632	6.6	11.2	53.0	28.2	6.5	0.3
	その他	35	11.4	14.3	40.0	20.0	2.9	2.9

(単位:%)		n	その他親族	ひとり暮らし	グループホーム等での集団生活	その他	無回答
年代別	全体	2,000	1.7	24.8	3.1	2.4	2.5
	18歳以上40歳未満	393	1.5	20.1	2.3	2.0	0.8
	40歳以上65歳未満	752	0.8	27.3	4.0	2.4	0.8
	65歳以上75歳未満	297	0.3	32.3	1.7	1.7	0.3
	75歳以上	499	4.2	21.4	3.2	3.2	0.6
障害別	肢体不自由	283	2.5	24.7	3.5	1.4	1.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	77	3.9	15.6	7.8	5.2	2.6
	視覚障害	144	1.4	27.1	3.5	4.2	1.4
	聴覚・平衡機能障害	146	6.2	27.4	2.1	2.1	2.7
	内部障害	278	2.5	24.8	1.1	2.9	2.9
	知的障害	231	1.3	3.0	14.3	1.3	2.2
	発達障害	187	1.1	23.5	3.2	3.2	4.3
	精神障害	464	1.1	33.0	2.8	2.6	3.0
	高次脳機能障害	44	2.3	15.9	0.0	4.5	6.8
	難病（特定疾病）	632	0.6	25.3	0.8	2.4	1.6
	その他	35	2.9	28.6	5.7	2.9	5.7

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”では「母親」が59.0%と6割近くで最も高く、「父親」(48.3%)、「兄弟姉妹」(30.8%)といった近親者も、他の年代より高くなっています。

それ以外の年代ではいずれも「配偶者」が最も高くなっています。

また、いずれの年代も「ひとり暮らし」が2割以上を占めています。

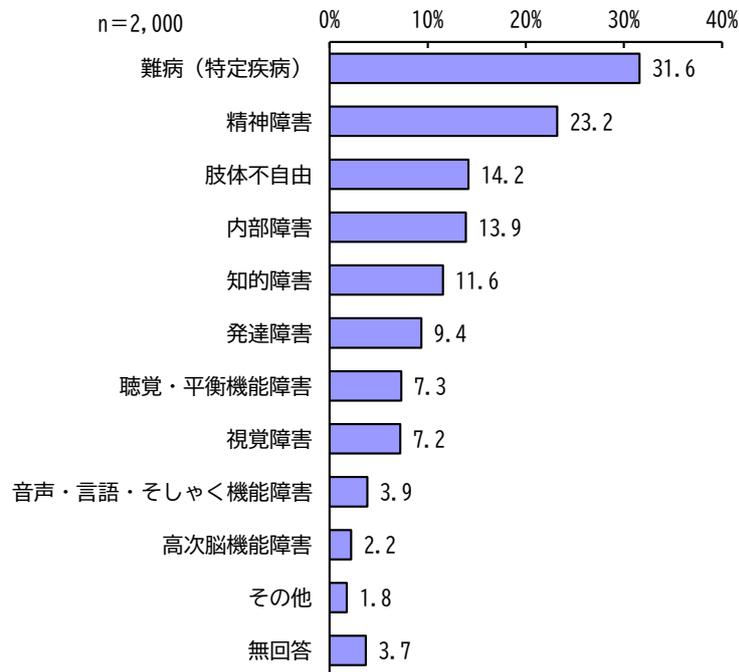
障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”では「母親」が最も高く、特に“知的障害”では74.5%で7割半ばに達し高くなっています。

それ以外の障害では「配偶者」が最も高くなっています。

また、“知的障害”は他の障害に比べ「グループホーム等での集団生活」が14.3%と高く、反対に「ひとり暮らし」は3.0%と低くなっています。

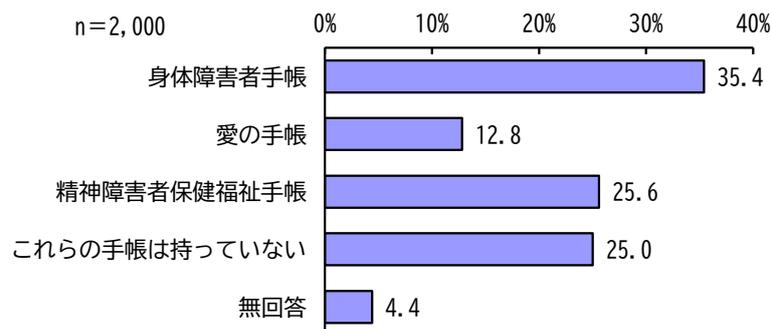
(2) 障害と健康について

(2-1) 障害の種類(問6)



障害の種類は、「難病(特定疾病)」が31.6%と3割を超えて最も高く、次いで「精神障害」が23.2%、「肢体不自由」が14.2%、「内部障害」が13.9%、「知的障害」が11.6%と続いています。

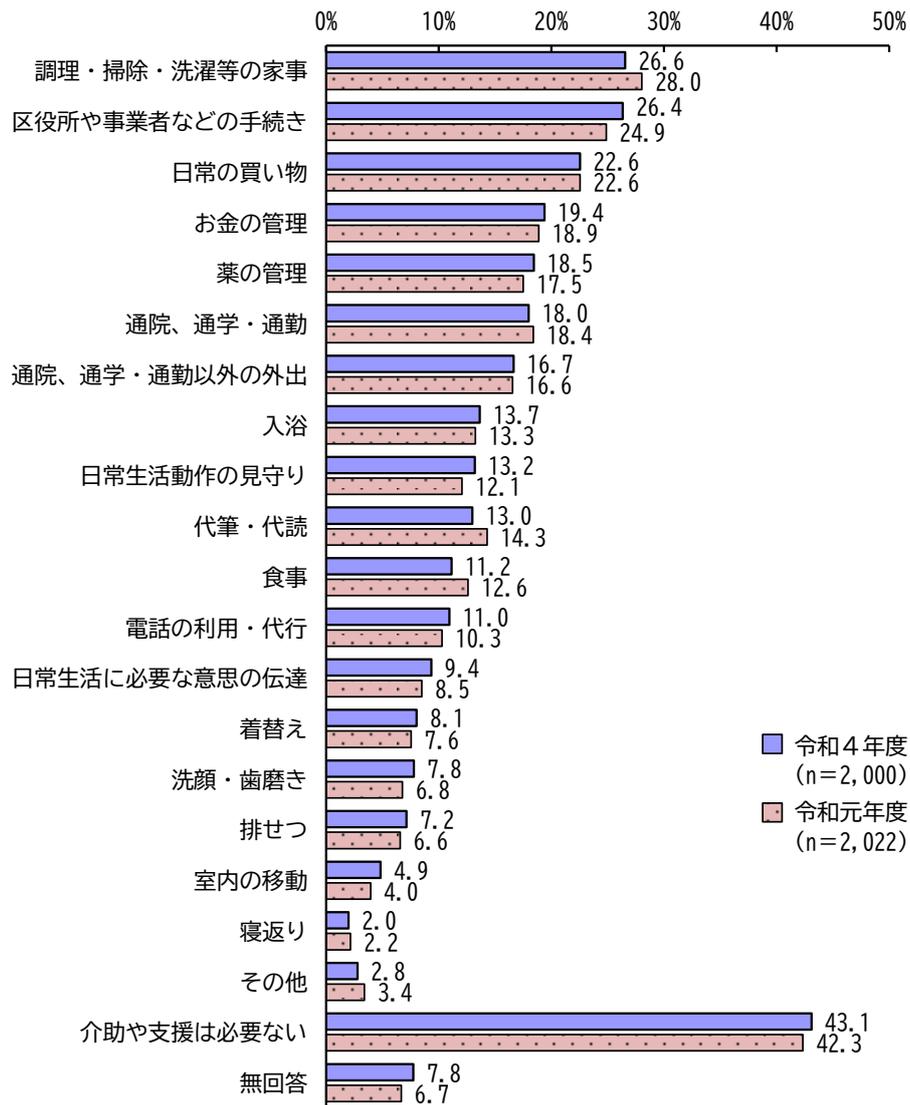
(2-2) 手帳の所持状況(問7)



手帳の所持状況は、「身体障害者手帳」が35.4%と3割半ばで最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が25.6%、「愛の手帳」が12.8%と続いています。

一方、「これらの手帳は持っていない」は25.0%と全体の4分の1を占めています。

(2-3)日常生活に必要な介助や支援(問12)



日常生活に必要な介助や支援は、「調理・掃除・洗濯等の家事」が26.6%と最も高く、次いで「区役所や事業者などの手続き」が26.4%、「日常の買い物」が22.6%と2割台が続いています。

一方、「介助や支援は必要ない」は43.1%と4割を超えています。

令和元年度と比較すると、項目によって割合が上下しているものの、全体的な傾向については、大きな変化はありません。

【クロス集計】障害別

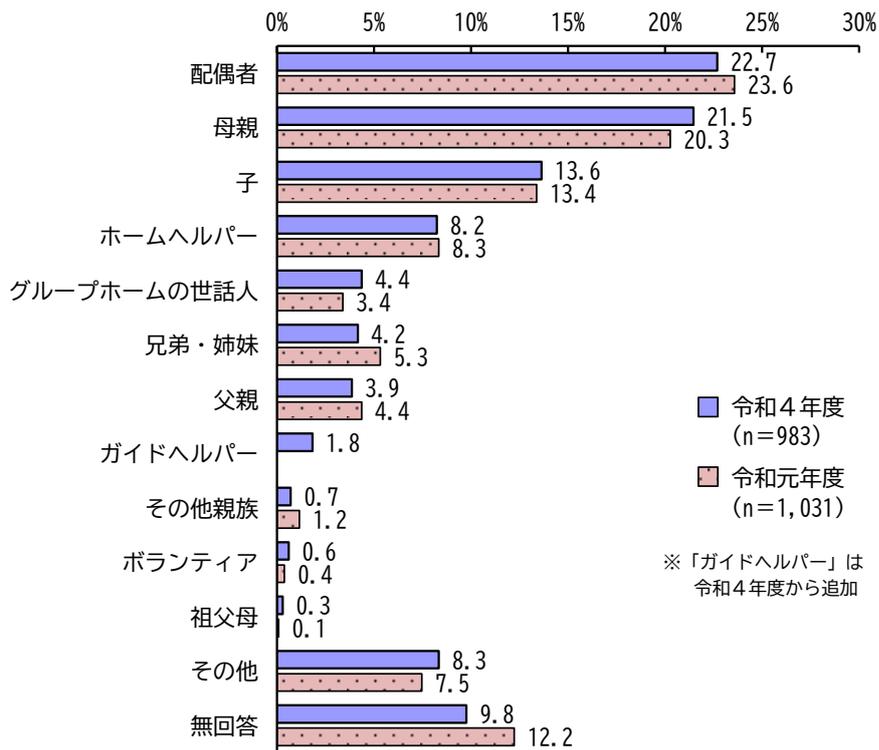
(単位:%)	n	食事	排せつ	入浴	寝返り	着替え	調理・掃除・洗濯等の家事	室内の移動
全体	2,000	11.2	7.2	13.7	2.0	8.1	26.6	4.9
障害別								
肢体不自由	283	21.6	21.2	32.5	7.8	20.8	44.2	14.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	31.2	36.4	46.8	15.6	33.8	45.5	26.0
視覚障害	144	13.9	9.0	14.6	3.5	11.8	25.7	7.6
聴覚・平衡機能障害	146	11.0	8.2	17.8	2.7	8.9	27.4	8.9
内部障害	278	11.2	7.9	15.1	2.2	7.9	25.2	6.8
知的障害	231	28.1	21.6	31.2	2.6	20.8	60.2	6.1
発達障害	187	12.8	7.0	15.5	0.5	6.4	40.6	1.6
精神障害	464	9.9	3.7	8.4	0.4	3.7	29.1	1.7
高次脳機能障害	44	25.0	18.2	34.1	4.5	20.5	54.5	15.9
難病（特定疾病）	632	7.8	6.2	11.1	2.8	6.6	16.9	6.3
その他	35	17.1	11.4	20.0	2.9	11.4	31.4	14.3

(単位:%)	n	洗顔・歯磨き	代筆・代読	電話の利用・代行	お金の管理	日常の買い物	通院、通学・通勤	通院、通学・通勤以外の外出
全体	2,000	7.8	13.0	11.0	19.4	22.6	18.0	16.7
障害別								
肢体不自由	283	13.8	18.0	14.5	22.3	38.9	30.4	29.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	33.8	41.6	45.5	42.9	44.2	40.3	37.7
視覚障害	144	7.6	42.4	13.9	22.2	38.2	29.2	29.9
聴覚・平衡機能障害	146	6.8	14.4	32.2	17.1	25.3	18.5	11.6
内部障害	278	4.0	8.6	5.8	11.2	22.3	15.1	10.8
知的障害	231	31.2	43.3	38.1	71.0	51.9	48.1	51.1
発達障害	187	14.4	19.3	18.2	44.4	29.4	22.5	28.9
精神障害	464	6.5	5.4	5.4	19.0	19.2	14.4	14.4
高次脳機能障害	44	18.2	31.8	27.3	45.5	43.2	34.1	38.6
難病（特定疾病）	632	4.9	7.8	4.6	8.9	16.3	13.1	10.4
その他	35	11.4	20.0	11.4	25.7	31.4	25.7	20.0

(単位:%)	n	日常生活に必要な意思の伝達	日常生活動作の見守り	薬の管理	区役所や事業者などの手続き	その他	介助や支援は必要ない	無回答
全体	2,000	9.4	13.2	18.5	26.4	2.8	43.1	7.8
障害別								
肢体不自由	283	9.9	18.7	25.1	36.0	1.4	25.1	8.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	31.2	40.3	39.0	54.5	1.3	13.0	5.2
視覚障害	144	7.6	13.2	17.4	41.7	4.9	25.7	10.4
聴覚・平衡機能障害	146	13.0	14.4	18.5	33.6	4.1	28.8	8.9
内部障害	278	4.3	12.9	14.4	20.1	2.9	47.5	9.0
知的障害	231	39.8	42.0	56.3	74.9	1.7	10.8	5.2
発達障害	187	23.5	27.3	28.9	46.5	4.3	28.9	4.3
精神障害	464	8.0	10.6	19.4	22.8	5.0	37.1	6.9
高次脳機能障害	44	27.3	36.4	34.1	61.4	2.3	13.6	2.3
難病（特定疾病）	632	2.8	8.5	11.1	15.3	1.7	62.3	7.6
その他	35	25.7	22.9	25.7	34.3	8.6	28.6	5.7

障害別では、“介助や支援は必要ない”を除くと、“肢体不自由”、“内部障害”、“精神障害”、“難病（特定疾病）”では「調理・掃除・洗濯等の家事」、「視覚障害」では「代読・代筆」が最も高く、それ以外の障害ではいずれも「区役所や事業者などの手続き」が最も高くなっています。

(2-4)主な介助者・支援者(問 13)



主な介助者・支援者は、「配偶者」が 22.7%と2割を超えて最も高く、次いで「母親」が 21.5%、「子」が 13.6%と続いています。

令和元年度と比較すると、全体的に差はなく、大きな変化は見られません。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	父親	母親	配偶者	子	兄弟・姉妹	祖父母	その他親族
全体		983	3.9	21.5	22.7	13.6	4.2	0.3	0.7
年代別	18歳以上40歳未満	215	10.7	63.3	6.0	0.0	1.4	1.4	0.0
	40歳以上65歳未満	307	4.6	22.8	19.2	3.9	7.2	0.0	0.3
	65歳以上75歳未満	126	0.0	0.0	37.3	9.5	5.6	0.0	0.0
	75歳以上	304	0.0	0.0	32.6	34.9	2.3	0.0	1.3
障害別	肢体不自由	188	2.7	10.1	26.6	21.8	3.7	0.0	1.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	63	3.2	15.9	33.3	14.3	3.2	0.0	0.0
	視覚障害	92	2.2	9.8	31.5	15.2	1.1	0.0	1.1
	聴覚・平衡機能障害	91	0.0	5.5	23.1	33.0	3.3	0.0	1.1
	内部障害	121	1.7	5.8	33.1	28.9	2.5	0.0	0.0
	知的障害	194	9.3	60.3	1.0	0.5	4.6	0.5	0.5
	発達障害	125	9.6	53.6	4.0	1.6	4.0	0.8	0.0
	精神障害	260	5.8	22.7	21.5	3.8	4.2	0.4	0.8
	高次脳機能障害	37	5.4	27.0	35.1	8.1	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	190	1.1	6.8	35.3	23.2	3.7	0.0	0.5
	その他	23	0.0	13.0	21.7	4.3	13.0	0.0	0.0

(単位:%)		n	ホームヘルパー	ガイドヘルパー	ボランティア	グループホームの世話人	その他	無回答
全体		983	8.2	1.8	0.6	4.4	8.3	9.8
年代別	18歳以上40歳未満	215	0.5	1.9	0.9	3.3	6.5	4.2
	40歳以上65歳未満	307	7.5	2.3	1.0	7.8	10.7	12.7
	65歳以上75歳未満	126	16.7	0.8	0.0	2.4	11.1	16.7
	75歳以上	304	10.9	2.0	0.3	2.6	5.9	7.2
障害別	肢体不自由	188	17.6	1.1	0.0	2.7	5.9	6.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	63	11.1	0.0	1.6	4.8	4.8	7.9
	視覚障害	92	5.4	12.0	1.1	1.1	6.5	13.0
	聴覚・平衡機能障害	91	7.7	0.0	2.2	0.0	13.2	11.0
	内部障害	121	9.9	0.8	0.8	1.7	7.4	7.4
	知的障害	194	0.5	1.0	0.0	14.4	2.6	4.6
	発達障害	125	5.6	0.8	1.6	4.0	8.8	5.6
	精神障害	260	7.7	0.4	0.4	4.2	13.5	14.6
	高次脳機能障害	37	5.4	2.7	0.0	0.0	10.8	5.4
	難病（特定疾病）	190	11.1	0.0	0.0	1.1	8.4	8.9
	その他	23	13.0	4.3	0.0	4.3	21.7	4.3

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”と“40～65歳未満”では「母親」が最も高く、特に“18歳以上～40歳未満”では63.3%と6割を超えています。

“65歳以上～75歳未満”では「配偶者」が37.3%と最も高くなっています。

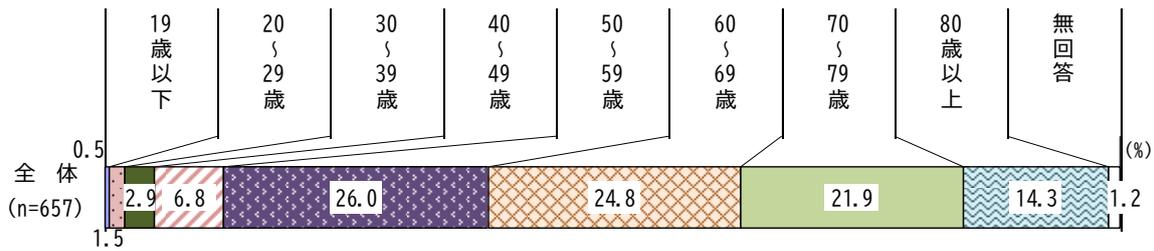
“75歳以上”では「配偶者」と「子」が3割を超えて高くなっています。

障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”では「母親」が最も高く、特に“知的障害”では6割、“発達障害”では5割を超えています。

“聴覚・平衡機能障害”では「子」が33.0%と最も高くなっています。

それ以外の障害では「配偶者」が最も高くなっています。

(2-5)主な介助者・支援者の年代(問 13-1)



主な介助者・支援者の年代は、「50～59歳」が26.0%と最も高く、次いで「60～69歳」が24.8%、「70～79歳」が21.9%と2割を超えて続いています。また、60歳以上の占める割合は61%となっています。

【クロス集計】介助者別・障害別

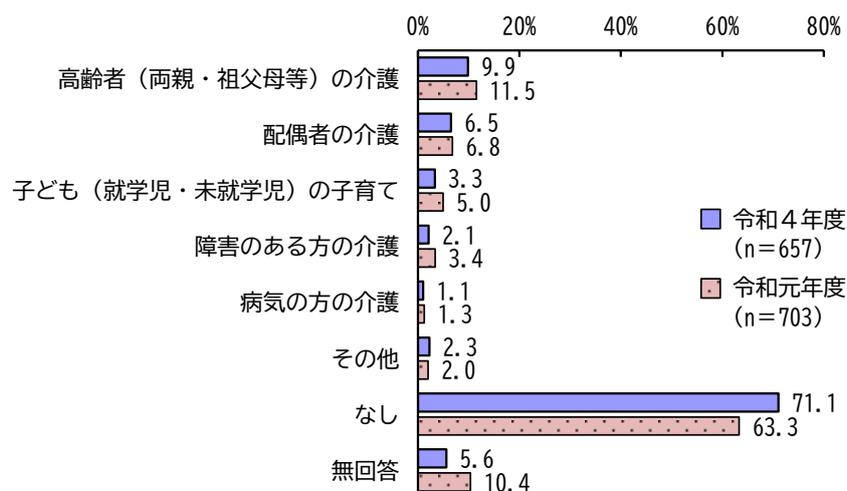
(単位:%)	n	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答
全体	657	0.5	1.5	2.9	6.8	26.0	24.8	21.9	14.3	1.2
介助者別										
父親	38	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	34.2	28.9	23.7	2.6
母親	211	0.0	0.5	0.9	2.4	32.2	29.4	20.9	13.3	0.5
配偶者	223	0.0	1.8	5.4	9.0	12.6	15.7	33.2	21.5	0.9
子	134	2.2	3.7	3.7	13.4	41.8	27.6	3.0	2.2	2.2
兄弟・姉妹	41	0.0	0.0	0.0	2.4	29.3	31.7	22.0	12.2	2.4
祖父母	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
その他親族	7	0.0	0.0	0.0	14.3	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0
障害別										
肢体不自由	125	0.0	0.0	3.2	5.6	29.6	23.2	21.6	16.0	0.8
音声・言語・そしゃく機能障害	44	0.0	0.0	2.3	6.8	34.1	13.6	29.5	11.4	2.3
視覚障害	56	1.8	1.8	1.8	3.6	14.3	21.4	30.4	21.4	3.6
聴覚・平衡機能障害	60	1.7	1.7	0.0	13.3	25.0	23.3	18.3	16.7	0.0
内部障害	87	1.1	1.1	1.1	10.3	21.8	20.7	26.4	16.1	1.1
知的障害	149	0.0	0.7	0.7	2.7	38.3	34.9	12.1	9.4	1.3
発達障害	92	0.0	2.2	1.1	4.3	45.7	29.3	7.6	9.8	0.0
精神障害	154	0.0	3.2	5.8	9.1	22.7	23.4	21.4	14.3	0.0
高次脳機能障害	28	0.0	0.0	3.6	7.1	21.4	17.9	25.0	25.0	0.0
難病(特定疾病)	134	0.7	1.5	5.2	8.2	20.9	14.2	28.4	18.7	2.2
その他	12	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	41.7	25.0	8.3	0.0

介助者別にみると、いずれの介助者も50歳以上の年代が最も高く、「母親」と「子」では「50～59歳」、「父親」と「兄弟・姉妹」では「60～69歳」、「配偶者」では「70～79歳」が3割を超えて最も高くなっています。

障害別にみると、「肢体不自由」、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「聴覚・平衡機能障害」、「知的障害」、「発達障害」では「50～59歳」、「精神障害」では「60～69歳」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「70～79歳」の高齢者層で最も高く、「高次脳機能障害」では70歳以上で5割を占めています。

(2-6)主な介助者による介助状況(問 14)

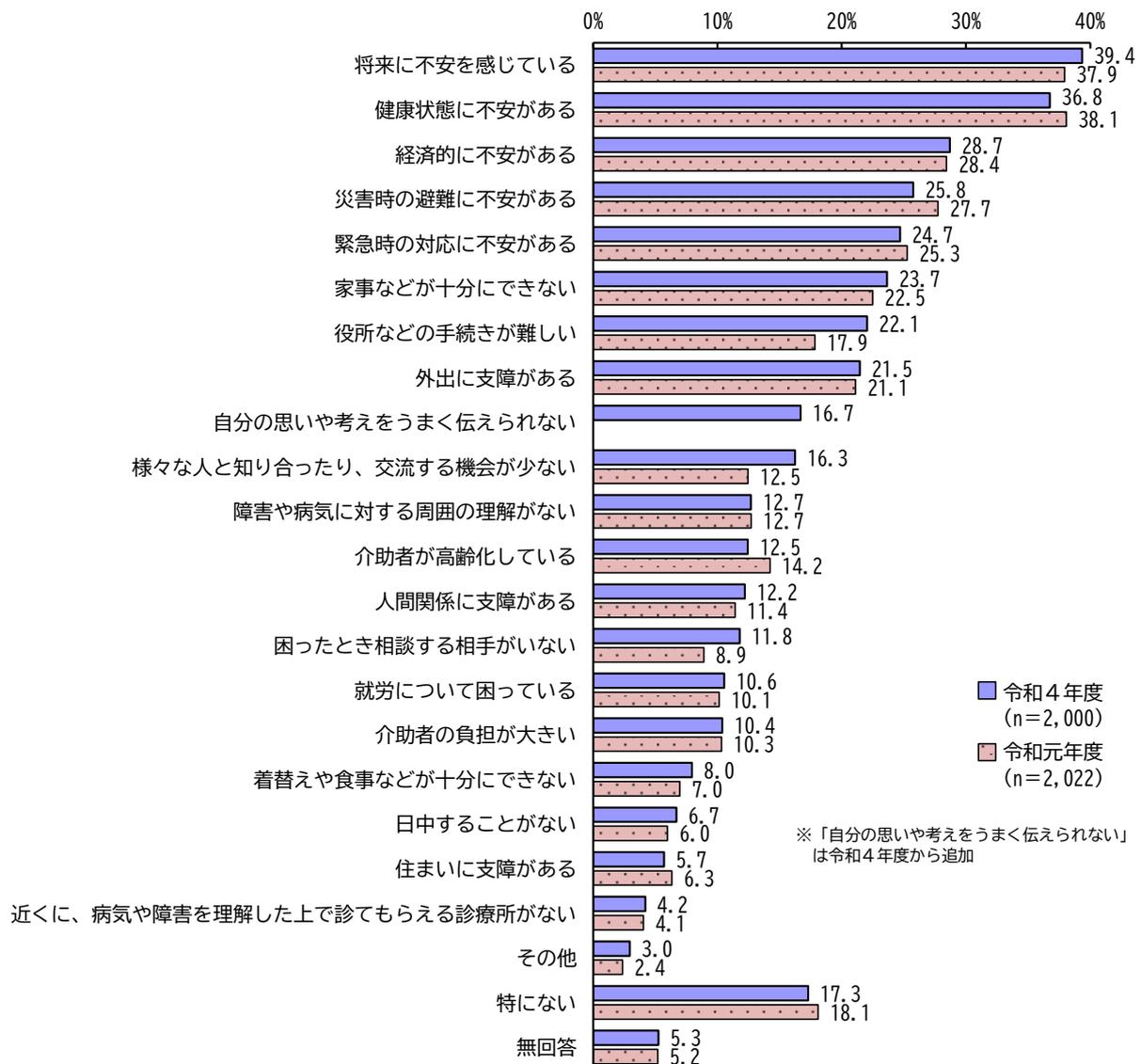


主な介助者のその他の介護状況は、「高齢者(両親・祖父母等)の介護」が9.9%と1割で最も高く、次いで「配偶者の介護」が6.5%、「子ども(就学児・未就学児)の子育て」が3.3%と続いています。一方、「なし」が71.1%と7割を超えています。

令和元年度と比較すると、介護状況に大きな差はありませんが、全体的な割合がやや下がっており、反対に「なし」は令和元年度を7.8ポイント上回っています。

(3) 相談や福祉の情報について

(3-1)日常生活で困っていること(問16)



日常生活で困っていることは、「将来に不安を感じている」が39.4%と約4割で最も高く、次いで「健康状態に不安がある」が36.8%、「経済的に不安がある」が28.7%、「災害時の避難に不安がある」が25.8%と続いています。

令和元年度と比較すると、「将来に不安を感じている」と「健康状態に不安がある」は順位が入れ替わっていますが、ともに3割半ばを超えて高い値を維持しています。

「役所などの手続きが難しい」が4.2ポイント、「様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない」が3.8ポイント、「困ったとき相談する相手がいない」が2.9ポイント、令和元年度よりも上がっています。

【クロス集計】年代別

(単位:%)	n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある	住まいに支障がある	就労について困っている
全体	2,000	36.8	8.0	23.7	10.4	12.5	21.5	5.7	10.6
18～29歳	180	24.4	12.2	34.4	17.8	12.8	28.9	6.1	22.2
30～39歳	213	38.0	8.9	24.9	9.4	12.2	18.8	4.7	22.1
40～49歳	262	37.0	4.6	19.1	6.5	11.5	13.0	5.7	18.7
50～59歳	340	43.5	4.7	18.8	6.2	9.7	17.4	5.9	14.1
60～69歳	282	40.4	3.5	17.4	5.0	5.0	19.1	6.4	5.7
70～79歳	314	30.3	6.4	21.0	9.2	12.7	18.8	3.5	1.9
80～89歳	290	38.6	12.8	29.0	18.3	20.7	31.4	6.6	0.3
90歳以上	60	33.3	33.3	45.0	26.7	20.0	45.0	11.7	0.0

(単位:%)	n	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない	困ったとき相談する相手がいない	自分の思いや考えをうまく伝えられない	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない
全体	2,000	24.7	25.8	12.2	12.7	11.8	16.7	22.1	4.2
18～29歳	180	36.1	32.8	32.2	21.1	20.0	45.6	45.6	8.9
30～39歳	213	23.9	23.0	23.9	20.7	19.7	29.6	24.9	3.3
40～49歳	262	23.3	21.0	13.0	19.8	13.0	16.8	20.6	6.1
50～59歳	340	21.8	21.5	16.2	18.2	15.6	16.2	20.3	5.6
60～69歳	282	22.3	25.5	6.4	11.0	10.6	7.8	16.3	2.5
70～79歳	314	18.8	22.3	1.9	1.6	5.4	6.7	13.7	3.2
80～89歳	290	28.6	33.8	3.1	4.1	5.2	10.0	21.7	1.7
90歳以上	60	38.3	36.7	1.7	1.7	3.3	11.7	28.3	1.7

(単位:%)	n	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特になし	無回答
全体	2,000	28.7	39.4	6.7	16.3	3.0	17.3	5.3
18～29歳	180	39.4	55.0	13.3	32.8	1.7	10.0	0.6
30～39歳	213	37.6	54.9	7.0	20.7	3.8	14.6	1.4
40～49歳	262	34.0	48.5	4.6	17.2	4.2	14.5	3.1
50～59歳	340	37.9	44.1	6.2	17.6	4.1	21.2	2.6
60～69歳	282	29.4	36.9	4.6	12.8	3.2	16.7	4.3
70～79歳	314	17.5	28.0	4.8	10.8	1.9	22.0	9.6
80～89歳	290	17.2	24.8	6.9	10.0	1.7	21.4	7.9
90歳以上	60	11.7	16.7	15.0	20.0	1.7	6.7	11.7

年代別にみると、「将来に不安を感じている」は年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、59歳以下で4割を超えて最も高く、特に39歳以下の若年層では5割半ばに達しています。また、「経済的に不安がある」も年代が下がるほど高くなっており、59歳以下の年代で3割を超えています。

30歳以上の年代では、「健康状態に不安がある」が3割を超えており、特に“50～59歳”と“60～69歳”では4割台となっています。

“18～29歳”では「自分の思いや考えをうまく伝えられない」や「役所などの手続きが難しい」が、90歳以上では「家事などが十分にできない」と「外出に支障がある」が4割半ばとなっており、他の年代よりも高くなっています。

【クロス集計】障害別

	n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある	住まいに支障がある	就労について困っている
(単位:%)									
全体	2,000	36.8	8.0	23.7	10.4	12.5	21.5	5.7	10.6
障害別									
肢体不自由	283	42.0	15.5	35.0	21.2	21.9	34.3	10.6	4.6
音声・言語・そしゃく機能障害	77	42.9	22.1	37.7	26.0	23.4	37.7	9.1	9.1
視覚障害	144	31.3	11.1	29.9	13.2	18.1	38.9	3.5	6.3
聴覚・平衡機能障害	146	34.9	9.6	20.5	14.4	15.1	21.9	8.2	2.7
内部障害	278	45.0	8.3	20.9	9.4	10.8	20.9	6.5	6.5
知的障害	231	19.9	16.0	42.9	22.9	26.8	32.9	6.5	9.5
発達障害	187	31.6	12.3	35.3	13.9	13.4	21.4	10.2	27.8
精神障害	464	49.1	7.8	29.3	8.2	12.7	21.6	6.7	23.3
高次脳機能障害	44	40.9	15.9	50.0	38.6	36.4	45.5	2.3	13.6
難病（特定疾病）	632	41.8	6.8	17.9	9.2	9.5	19.0	5.1	7.6
その他	35	42.9	11.4	25.7	17.1	11.4	28.6	20.0	20.0

	n	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない	困ったとき相談する相手がいない	自分の思いや考えをうまく伝えられない	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない
(単位:%)									
全体	2,000	24.7	25.8	12.2	12.7	11.8	16.7	22.1	4.2
障害別									
肢体不自由	283	32.9	39.2	3.5	6.7	8.5	11.0	23.0	4.9
音声・言語・そしゃく機能障害	77	42.9	51.9	6.5	11.7	13.0	41.6	33.8	10.4
視覚障害	144	31.3	37.5	4.9	9.7	9.7	11.8	29.9	3.5
聴覚・平衡機能障害	146	42.5	44.5	8.2	13.0	7.5	12.3	23.3	4.1
内部障害	278	23.7	25.5	4.0	7.9	7.2	6.5	14.4	2.2
知的障害	231	44.6	42.0	26.8	15.2	16.5	51.5	52.4	9.5
発達障害	187	35.3	29.4	39.6	33.2	27.8	52.4	39.6	8.0
精神障害	464	25.4	22.0	28.4	26.7	24.1	24.1	24.8	7.8
高次脳機能障害	44	38.6	40.9	11.4	11.4	18.2	45.5	52.3	4.5
難病（特定疾病）	632	19.3	22.5	1.7	8.2	7.1	5.2	14.7	2.8
その他	35	31.4	31.4	22.9	28.6	25.7	25.7	34.3	14.3

	n	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特になし	無回答
(単位:%)								
全体	2,000	28.7	39.4	6.7	16.3	3.0	17.3	5.3
障害別								
肢体不自由	283	23.3	39.6	7.4	13.8	3.5	11.7	6.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	28.6	40.3	11.7	18.2	3.9	10.4	6.5
視覚障害	144	20.8	41.7	6.3	16.7	3.5	9.0	9.7
聴覚・平衡機能障害	146	23.3	32.9	8.9	17.8	2.1	14.4	8.2
内部障害	278	20.1	30.2	6.1	10.4	1.1	23.0	6.5
知的障害	231	28.6	45.5	8.2	24.7	2.2	10.0	5.6
発達障害	187	43.9	57.8	12.3	32.1	3.2	8.6	1.1
精神障害	464	53.2	58.2	12.5	28.0	4.3	6.9	2.4
高次脳機能障害	44	38.6	47.7	15.9	22.7	2.3	9.1	0.0
難病（特定疾病）	632	22.8	33.2	4.4	9.0	2.8	23.1	4.6
その他	35	42.9	54.3	14.3	20.0	8.6	17.1	5.7

障害別にみると、“肢体不自由”、“内部障害”、“難病（特定疾病）”では「健康状態に不安がある」が最も高く、また“知的障害”を除くいずれの障害でも3割を超えて高くなっています。

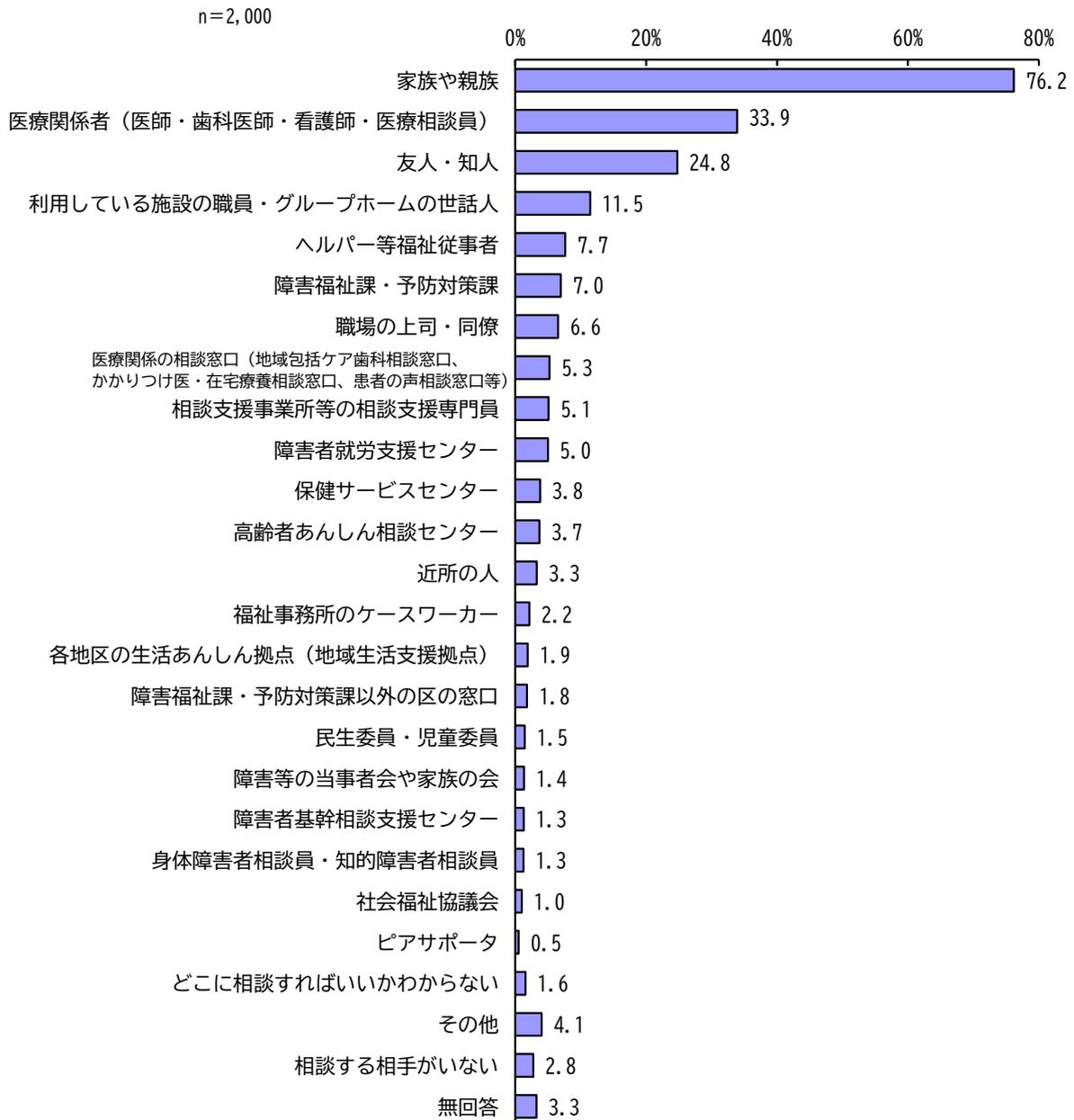
“音声・言語・そしゃく機能障害”と“聴覚・平衡機能障害”では「災害時の避難に不安がある」が4割を超えて最も高くなっています。

“知的障害”と“高次脳機能障害”では「役所などの手続きが難しい」が5割を超えて最も高くなっています。また、どちらも「災害時の避難に不安がある」が4割を超えて高くなっています。

“知的障害”と“発達障害”では、「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が5割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

“視覚障害”、“発達障害”、“精神障害”では「将来に不安を感じている」が最も高く、特に“視覚障害”以外は5割を超えています。

(3-2)困ったときの相談相手(問 17)



困ったときの相談相手は、「家族や親族」が76.2%と7割半ばを超えて突出して高く、次いで「医療関係者 (医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」が33.9%、「友人・知人」が24.8%、「利用している施設の職員・グループホームの世話人」が11.5%と続いており、それ以外の項目は1割を下回っています。

一方、「どこに相談すればいいかわからない」は1.6%、「相談する相手がない」は2.8%となっています。

【クロス集計】年代別

	n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	職場の上司・同僚	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	身体障害者相談員・知的障害者相談員	ヘルパー等福祉従事者
(単位:%)										
全体	2,000	76.2	3.3	24.8	0.5	6.6	1.5	1.4	1.3	7.7
年代別										
18～29歳	180	86.1	0.6	23.9	0.6	15.6	0.0	1.1	1.1	2.8
30～39歳	213	81.7	1.4	29.1	0.5	13.1	0.0	3.8	2.8	1.4
40～49歳	262	76.0	3.8	30.5	0.8	13.4	1.1	2.3	0.8	2.3
50～59歳	340	71.8	1.2	25.9	0.6	7.1	0.3	1.5	0.3	5.9
60～69歳	282	69.5	5.0	30.9	0.4	3.2	1.8	1.1	1.1	8.2
70～79歳	314	73.2	3.5	22.9	0.6	0.6	1.3	0.6	0.6	10.5
80～89歳	290	79.0	6.6	15.5	0.3	0.0	3.4	0.0	2.8	16.2
90歳以上	60	90.0	5.0	3.3	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	18.3

	n	利用している施設の職員・グループホームの世話人	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者	医療関係者の相談窓口	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター	各地区の生活あんしん拠点(地域生活支援拠点)
(単位:%)										
全体	2,000	11.5	5.1	33.9	5.3	7.0	1.8	3.8	1.3	1.9
年代別										
18～29歳	180	23.3	13.9	32.2	2.8	7.2	1.7	1.7	2.8	0.6
30～39歳	213	16.9	9.4	37.6	5.2	14.6	5.6	6.1	2.8	1.4
40～49歳	262	13.7	5.0	37.8	2.7	7.3	1.5	4.6	1.9	2.7
50～59歳	340	10.0	6.2	40.0	5.0	7.4	1.8	5.3	1.8	1.2
60～69歳	282	6.7	1.8	34.8	5.0	7.1	1.4	5.0	0.7	1.1
70～79歳	314	5.4	1.6	27.1	5.7	4.1	1.0	2.5	0.3	1.6
80～89歳	290	8.6	3.8	30.7	8.6	4.1	1.0	1.4	0.0	3.4
90歳以上	60	20.0	1.7	26.7	6.7	1.7	0.0	1.7	0.0	5.0

	n	福祉事務所のケースワーカー	障害者就労支援センター	社会福祉協議会	高齢者あんしん相談センター	どこに相談すればいいかわからない	その他	相談する相手がない	無回答
(単位:%)									
全体	2,000	2.2	5.0	1.0	3.7	1.6	4.1	2.8	3.3
年代別									
18～29歳	180	1.7	12.8	0.6	0.0	0.6	3.9	1.1	1.7
30～39歳	213	0.9	13.1	0.5	0.0	2.3	3.8	3.8	0.9
40～49歳	262	1.9	5.7	1.5	0.0	1.9	6.1	3.4	2.7
50～59歳	340	3.8	7.1	1.8	0.0	1.5	3.8	3.5	2.1
60～69歳	282	2.5	2.8	0.4	1.4	1.4	4.3	3.9	2.8
70～79歳	314	2.2	0.0	1.0	8.6	1.3	2.2	2.5	6.1
80～89歳	290	1.0	0.0	1.0	12.4	1.4	5.2	1.4	4.8
90歳以上	60	1.7	0.0	1.7	8.3	5.0	3.3	0.0	1.7

年代別にみると、いずれの年代も「家族や親族」が6割半ばを超えて最も高く、特に“18～29歳”、“30～39歳”、“90歳以上”では8割を超えています。次いで、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」が2割半ばを超えています。

79歳以下の年齢では、「友人・知人」が2割を超えています。80歳以上の年齢では「ヘルパー等福祉従事者」が1割半ばを超えて、他の年代よりも高くなっています。

また、“18～29歳”と“90歳以上”では、「利用している施設の職員・グループホームの世話人」が2割以上と、他の年代よりも高くなっています。

【クロス集計】障害別

	n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	職場の上 司・同僚	民生委員・児童 委員	障害等の 当事者会 や家族の 会	身体障害 者相談 員・知的 障害者相 談員	ヘルパー 等福祉従 事者
(単位:%)										
全体	2,000	76.2	3.3	24.8	0.5	6.6	1.5	1.4	1.3	7.7
障害別										
肢体不自由	283	76.3	5.3	22.3	0.4	3.9	2.8	0.4	2.1	15.2
音声・言語・そしゃく機能障害	77	79.2	3.9	14.3	1.3	3.9	2.6	0.0	2.6	15.6
視覚障害	144	75.0	4.2	28.5	1.4	6.3	2.8	2.1	2.1	11.8
聴覚・平衡機能障害	146	80.8	6.2	22.6	0.0	3.4	5.5	2.7	2.1	14.4
内部障害	278	77.7	4.3	27.3	0.7	1.8	3.2	0.7	0.0	8.3
知的障害	231	83.5	1.3	10.8	0.0	13.9	0.4	2.6	3.9	4.3
発達障害	187	76.5	2.7	19.3	1.1	17.6	1.6	3.2	2.7	3.7
精神障害	464	65.1	1.1	26.7	0.9	6.7	0.9	1.9	0.2	6.9
高次脳機能障害	44	84.1	0.0	20.5	2.3	6.8	2.3	0.0	4.5	22.7
難病（特定疾病）	632	80.1	3.5	26.9	0.6	6.0	0.3	0.5	0.8	8.9
その他	35	57.1	5.7	17.1	0.0	5.7	8.6	0.0	0.0	8.6

	n	利用して いる施設 の職員・ グループ ホームの 世話人	相談支援 事業所等 の相談支 援専門員	医療関係 者	医療関係 者の相談窓 口	障害福祉 課・予防 対策課	障害福祉 課・予防 対策課以 外の区 の窓口	保健サー ビスセン ター	障害者基 幹相談支 援セン ター	各地区の 生活あん しん拠点 (地域生 活支援拠 点)
(単位:%)										
全体	2,000	11.5	5.1	33.9	5.3	7.0	1.8	3.8	1.3	1.9
障害別										
肢体不自由	283	12.7	3.9	31.4	4.6	4.9	1.1	1.4	0.7	2.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	27.3	10.4	33.8	5.2	5.2	2.6	2.6	3.9	1.3
視覚障害	144	6.9	2.8	19.4	2.8	9.7	2.1	1.4	2.8	1.4
聴覚・平衡機能障害	146	8.9	4.8	26.7	8.9	8.9	2.7	2.1	1.4	3.4
内部障害	278	4.0	2.9	34.5	7.6	6.1	0.7	0.7	1.1	3.2
知的障害	231	48.9	14.3	16.5	4.3	12.6	4.8	1.7	6.1	3.0
発達障害	187	22.5	13.4	39.0	5.3	12.8	3.7	3.2	4.8	2.1
精神障害	464	12.3	9.3	46.3	5.6	10.1	3.2	9.9	2.4	2.8
高次脳機能障害	44	20.5	9.1	29.5	6.8	11.4	2.3	2.3	2.3	4.5
難病（特定疾病）	632	4.1	2.1	40.7	5.9	3.2	0.5	4.0	0.6	1.1
その他	35	11.4	17.1	31.4	5.7	11.4	2.9	5.7	5.7	5.7

	n	福祉事務 所のケー スワー カー	障害者就 労支援セ ンター	社会福祉 協議会	高齢者あ んしん相 談セン ター	どこに相 談すれば いいかわ からない	その他	相談する 相手が ない	無回答
(単位:%)									
全体	2,000	2.2	5.0	1.0	3.7	1.6	4.1	2.8	3.3
障害別									
肢体不自由	283	1.8	1.4	0.7	6.4	2.5	5.7	1.1	3.9
音声・言語・そしゃく機能障害	77	0.0	1.3	1.3	3.9	2.6	7.8	2.6	2.6
視覚障害	144	0.7	2.8	1.4	4.9	0.7	4.9	4.9	4.2
聴覚・平衡機能障害	146	2.1	4.8	3.4	4.8	2.7	5.5	2.7	2.7
内部障害	278	2.5	1.4	0.7	6.1	0.7	2.9	2.2	4.3
知的障害	231	0.4	10.4	1.7	0.0	1.3	3.5	0.4	1.7
発達障害	187	2.7	21.9	1.6	0.0	1.6	7.0	4.3	0.5
精神障害	464	5.2	10.6	1.7	0.9	1.9	6.3	5.2	1.9
高次脳機能障害	44	0.0	4.5	0.0	4.5	0.0	4.5	2.3	0.0
難病（特定疾病）	632	0.8	0.9	0.6	3.6	1.1	3.0	2.1	3.6
その他	35	5.7	8.6	2.9	14.3	0.0	11.4	5.7	8.6

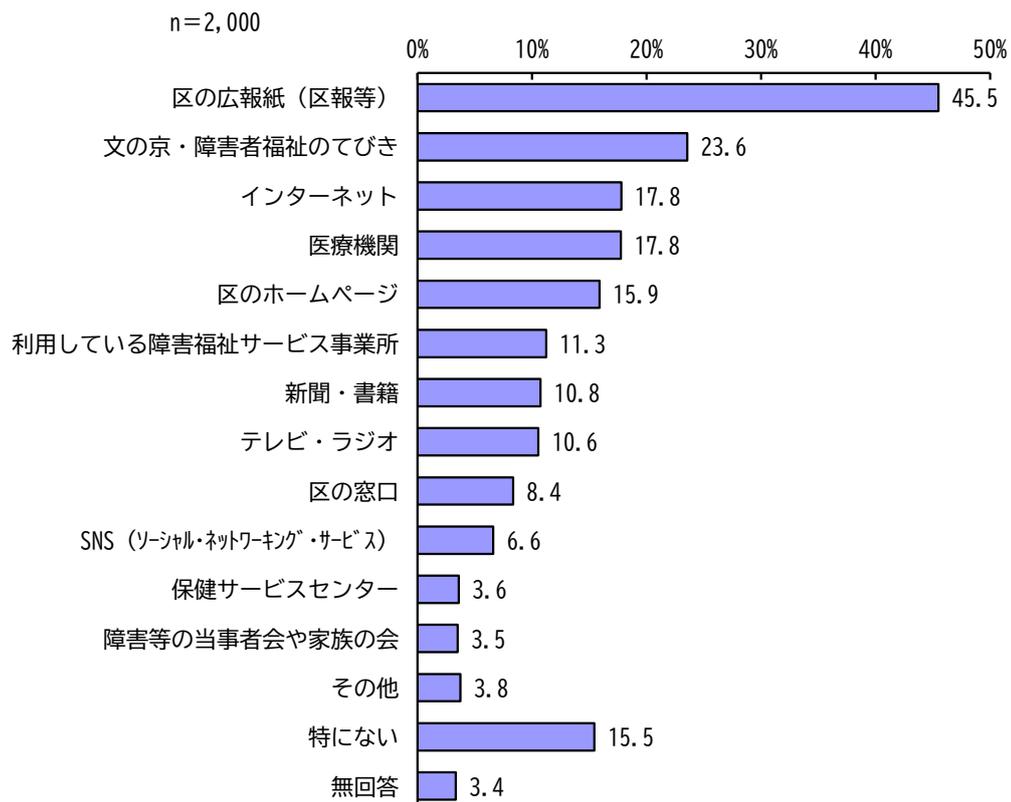
障害別にみると、いずれの障害も「家族や親族」が最も高くなっています。

“知的障害”では「利用している施設の職員・グループホームの世話人」が48.9%と5割近くになっていますが、「友人・知人」や「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」は他の障害に比べ低くなっています。

“精神障害”では「家族や親族」が65.1%と他の障害に比べ低くなっていますが、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」では他の障害よりも高くなっています。

“高次脳機能障害”では「ヘルパー等福祉従事者」が22.7%と他の障害よりも高くなっています。

(3-3)福祉情報の入手先(問18)



福祉情報の入手先は、「区の広報紙 (区報等)」が 45.5%と 4 割半ばを超えて最も高く、次いで「文の京・障害者福祉のてびき」が 23.6%、「インターネット」と「医療機関」がともに 17.8%と続いています。

一方、「特にない」が 15.5%と 1 割半ばを占めています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	区の広報紙(区報等)	区のホームページ	文の京・障害者福祉のてびき	区の窓口	保健サービスセンター	テレビ・ラジオ	インターネット	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)
(単位:%)									
全体	2,000	45.5	15.9	23.6	8.4	3.6	10.6	17.8	6.6
年代別									
18歳以上40歳未満	393	28.2	20.1	23.9	10.2	3.8	4.3	27.5	16.5
40歳以上65歳未満	752	43.8	20.7	19.9	8.6	4.1	9.2	23.9	7.2
65歳以上75歳未満	297	52.5	12.8	22.6	5.4	3.0	12.8	12.1	3.0
75歳以上	499	57.3	7.0	29.9	8.6	3.2	16.2	5.0	0.4
障害別									
肢体不自由	283	54.8	11.0	37.1	7.4	1.8	13.4	12.4	2.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	48.1	9.1	33.8	5.2	2.6	7.8	9.1	1.3
視覚障害	144	36.8	9.7	25.7	6.9	2.1	14.6	18.8	5.6
聴覚・平衡機能障害	146	52.7	12.3	34.9	5.5	0.7	14.4	13.0	8.2
内部障害	278	53.2	15.1	34.9	7.9	2.5	14.4	15.1	7.2
知的障害	231	39.4	9.5	37.7	10.0	1.7	6.5	9.5	2.6
発達障害	187	35.3	18.7	24.6	11.8	3.7	7.0	25.1	13.9
精神障害	464	36.6	15.9	17.5	7.8	6.7	8.2	25.0	11.4
高次脳機能障害	44	34.1	6.8	25.0	11.4	2.3	11.4	18.2	4.5
難病(特定疾病)	632	45.1	20.7	11.2	10.4	5.2	11.7	21.2	6.2
その他	35	37.1	20.0	14.3	14.3	2.9	17.1	34.3	8.6

	n	新聞・書籍	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	利用している障害福祉サービス事業所	その他	特にない	無回答
(単位:%)								
全体	2,000	10.8	3.5	17.8	11.3	3.8	15.5	3.4
年代別								
18歳以上40歳未満	393	4.6	7.4	19.1	15.5	5.1	20.6	0.8
40歳以上65歳未満	752	8.9	3.6	19.5	10.6	3.6	15.8	2.3
65歳以上75歳未満	297	12.8	2.0	17.2	7.7	3.4	13.1	5.1
75歳以上	499	17.0	1.6	14.2	10.4	3.6	13.0	4.6
障害別								
肢体不自由	283	14.5	3.2	14.5	14.8	6.0	10.2	3.2
音声・言語・そしゃく機能障害	77	13.0	5.2	11.7	18.2	9.1	15.6	3.9
視覚障害	144	9.0	6.9	13.2	9.7	9.0	16.0	5.6
聴覚・平衡機能障害	146	20.5	3.4	17.8	7.5	6.2	17.1	2.1
内部障害	278	12.9	2.2	18.7	9.0	2.2	12.9	2.9
知的障害	231	8.2	11.3	7.8	33.8	7.4	18.6	3.0
発達障害	187	7.0	8.0	13.4	16.6	5.9	21.4	1.6
精神障害	464	7.5	3.0	24.1	13.6	4.3	15.5	2.6
高次脳機能障害	44	6.8	2.3	15.9	29.5	11.4	22.7	2.3
難病(特定疾病)	632	10.9	1.9	24.1	5.9	2.8	15.8	3.3
その他	35	17.1	0.0	22.9	14.3	14.3	17.1	5.7

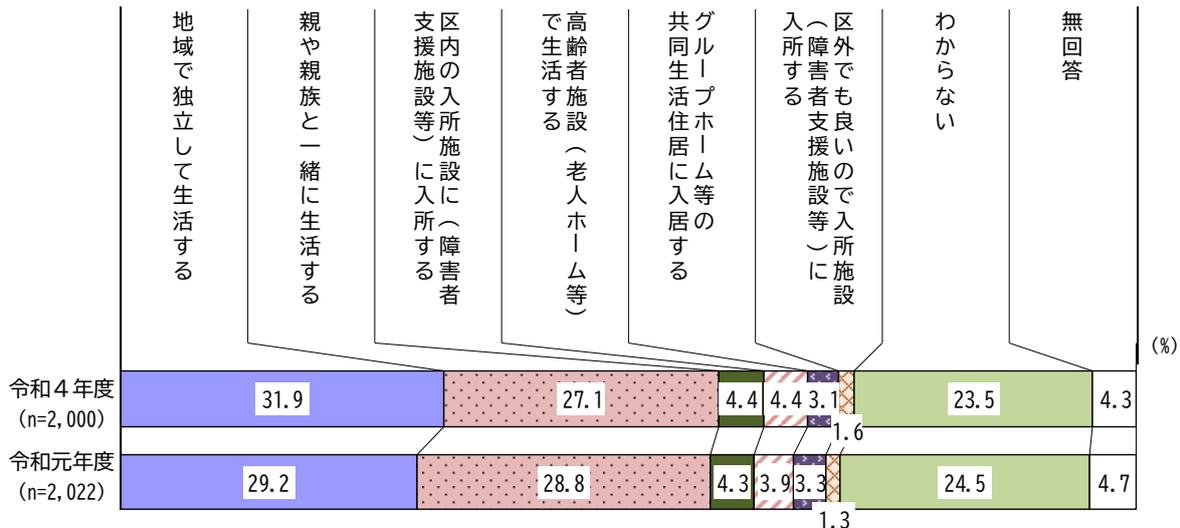
年代別にみると、いずれの年代でも「区の広報紙(区報等)」が最も高く、特に65歳以上の年代で5割を超えています。

「区のホームページ」、「インターネット」、「SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)」は年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、反対に「テレビ・ラジオ」、「新聞・書籍」は、年代が上がるにつれて高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「区の広報紙(区報等)」が最も高く、「発達障害」、「精神障害」、「難病(特定疾病)」、「その他」以外の障害では「文の京・障害者福祉のてびき」が二番目に高くなっています。

「発達障害」と「精神障害」では「インターネット」がともに2割半ばと高くなっています。また、「知的障害」と「高次脳機能障害」では「利用している障害福祉サービス事業所」が3割前後と他の障害よりも高くなっています。

(3-4) 今後希望する生活(問 19)



今後希望する生活は、「地域で独立して生活する」が31.9%と3割を超えて最も高く、次いで「親や親族と一緒に生活する」が27.1%と3割半ばを超えて続き、それ以外の項目は1割を下回っています。

一方、「わからない」は23.5%と2割を超えています。

令和元年度と比較すると、「地域で独立して生活する」が2.7ポイント上がっており、反対に「親や親族と一緒に生活する」が1.7ポイント下がっています。

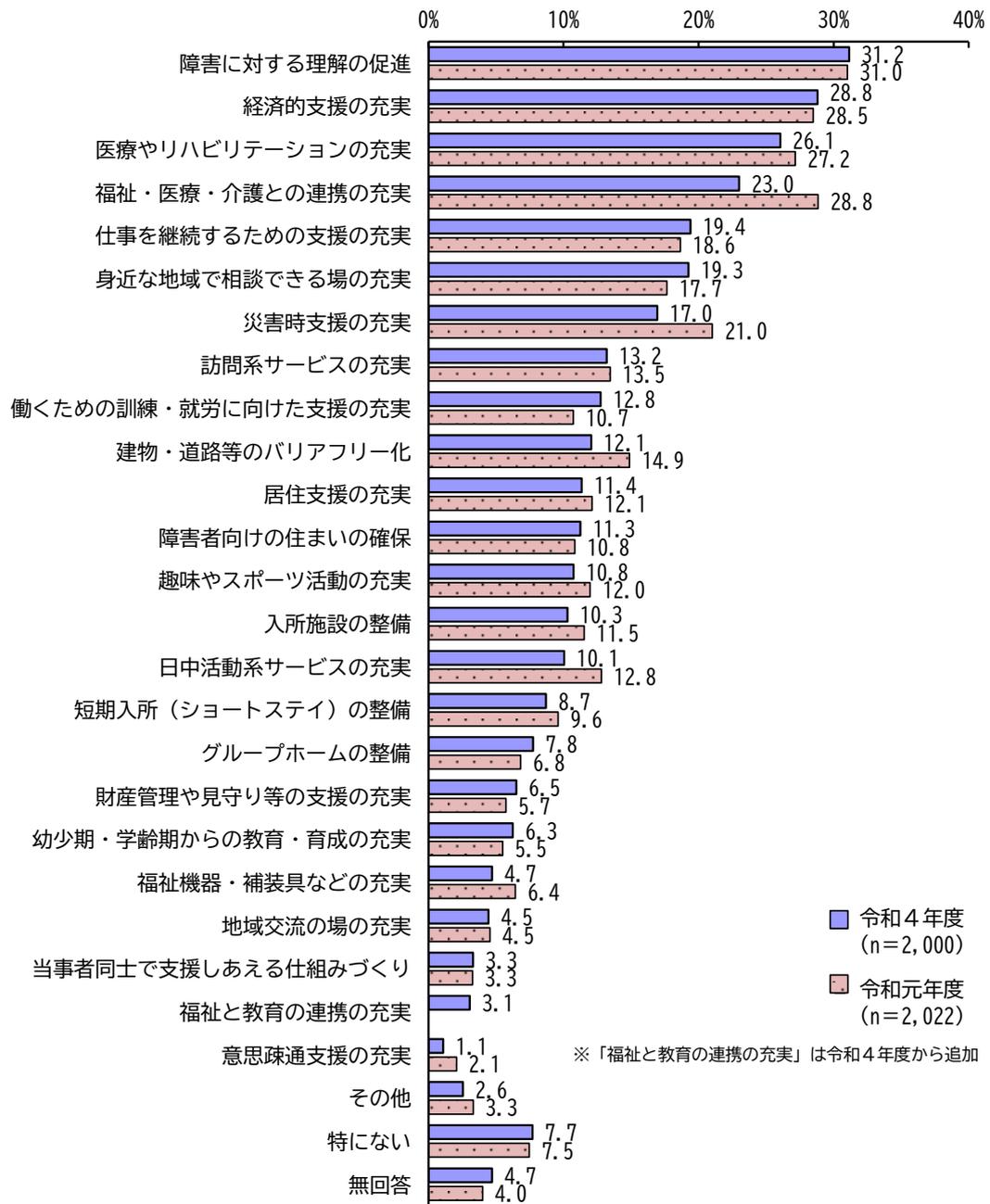
【クロス集計】 障害別

	n	地域で独立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホーム等の共同生活住居に入居する	区内の入所施設(障害者支援施設等)に入所する	区外でも良いので入所施設(障害者支援施設等)に入所する	高齢者施設(老人ホーム等)で生活する	わからない	無回答
(単位:%)									
全体	2,000	31.9	27.1	3.1	4.4	1.6	4.4	23.5	4.3
障害別									
肢体不自由	283	25.4	25.1	3.2	6.7	2.5	8.1	25.1	3.9
音声・言語・そしゃく機能障害	77	19.5	19.5	6.5	6.5	2.6	7.8	31.2	6.5
視覚障害	144	38.2	22.9	0.0	5.6	0.7	5.6	22.2	4.9
聴覚・平衡機能障害	146	30.1	22.6	3.4	4.1	1.4	13.7	20.5	4.1
内部障害	278	30.6	29.9	1.4	5.0	0.4	5.8	22.7	4.3
知的障害	231	7.4	28.1	17.3	16.9	5.2	2.6	18.6	3.9
発達障害	187	34.8	28.9	6.4	5.9	2.1	0.5	20.3	1.1
精神障害	464	39.4	26.5	1.5	1.5	0.4	2.4	24.8	3.4
高次脳機能障害	44	25.0	45.5	2.3	0.0	2.3	6.8	15.9	2.3
難病(特定疾病)	632	34.0	28.6	0.8	2.8	1.3	4.3	23.7	4.4
その他	35	28.6	17.1	5.7	5.7	2.9	2.9	31.4	5.7

障害別にみると、いずれの障害も「地域で独立して生活する」か「親や親族と一緒に生活する」が最も高くなっています。

“知的障害”では「地域で独立して生活する」が7.4%と1割を下回って他の障害よりも低く、「グループホーム等の共同生活住居に入居する」や「区内の入所施設(障害者支援施設等)に入所する」は1割を超えて他の障害よりも高くなっています。

(3-5)地域で安心して暮らすために必要な施策(問 20)



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「障害に対する理解の促進」が31.2%と3割を超えて最も高く、次いで「経済的支援の充実」が28.8%、「医療やリハビリテーションの充実」が26.1%、「福祉・医療・介護との連携の充実」が23.0%と2割を超えて続いています。

令和元年度と比較すると、上位4項目は同じ項目が入っていますが、「福祉・医療・介護との連携の充実」が5.8ポイント下がっています。

また、「災害時支援の充実」は令和元年度より4.0ポイント下がり、2割を下回っています。

【クロス集計】障害別

	n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実
(単位:%)								
全体	2,000	31.2	26.1	6.3	12.8	19.4	19.3	13.2
障害別								
肢体不自由	283	29.3	42.4	6.0	9.2	9.2	18.0	18.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	24.7	33.8	6.5	7.8	5.2	7.8	20.8
視覚障害	144	36.1	19.4	6.3	7.6	12.5	13.2	18.1
聴覚・平衡機能障害	146	37.0	29.5	5.5	6.8	11.0	14.4	16.4
内部障害	278	24.1	30.9	2.9	6.1	10.8	15.8	16.9
知的障害	231	33.8	9.1	5.6	14.7	20.3	16.5	6.9
発達障害	187	48.7	11.8	11.8	27.3	35.8	23.5	8.6
精神障害	464	44.0	17.2	7.3	23.9	33.8	27.6	12.1
高次脳機能障害	44	34.1	45.5	2.3	18.2	13.6	18.2	25.0
難病(特定疾病)	632	20.6	34.3	5.7	8.4	17.4	18.0	14.1
その他	35	31.4	22.9	11.4	11.4	22.9	22.9	17.1

	n	日中活動系サービス(生活介護・自立訓練等・就労移行支援・就労継続支援等)の充実	短期入所(ショートステイ)の整備	意思疎通支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備	障害者向けの住まいの確保
(単位:%)								
全体	2,000	10.1	8.7	1.1	4.7	7.8	10.3	11.3
障害別								
肢体不自由	283	9.9	15.2	0.4	11.0	6.7	15.2	13.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	11.7	20.8	3.9	1.3	14.3	28.6	18.2
視覚障害	144	9.7	6.9	2.1	6.9	4.9	11.1	11.1
聴覚・平衡機能障害	146	6.2	12.3	8.9	17.1	6.2	15.1	11.6
内部障害	278	4.3	10.4	0.4	5.4	2.2	11.5	6.8
知的障害	231	30.3	22.9	0.9	0.9	39.8	28.1	24.7
発達障害	187	18.7	10.7	1.1	2.1	19.3	8.6	23.0
精神障害	464	14.4	4.3	0.2	0.6	6.0	4.3	14.2
高次脳機能障害	44	15.9	22.7	0.0	4.5	4.5	13.6	13.6
難病(特定疾病)	632	6.3	7.9	0.3	4.6	1.7	9.7	4.7
その他	35	0.0	8.6	0.0	0.0	8.6	11.4	22.9

	n	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実	災害時支援の充実
(単位:%)								
全体	2,000	11.4	12.1	3.3	10.8	6.5	28.8	17.0
障害別								
肢体不自由	283	11.7	25.4	1.8	5.7	3.2	22.6	18.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	15.6	14.3	1.3	3.9	6.5	24.7	22.1
視覚障害	144	11.1	25.7	3.5	7.6	7.6	22.2	21.5
聴覚・平衡機能障害	146	11.6	11.6	2.1	6.8	2.7	22.6	24.0
内部障害	278	10.8	15.1	0.4	8.6	4.3	25.2	21.6
知的障害	231	12.6	5.2	3.0	15.6	17.7	19.0	14.3
発達障害	187	13.4	2.1	7.0	13.4	15.0	33.7	11.8
精神障害	464	12.5	3.9	5.2	13.1	7.1	42.5	12.3
高次脳機能障害	44	15.9	20.5	4.5	2.3	4.5	29.5	20.5
難病(特定疾病)	632	11.4	14.9	2.5	10.0	4.4	32.1	19.0
その他	35	11.4	8.6	0.0	14.3	5.7	34.3	8.6

	n	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	その他	特にない	無回答
(単位:%)							
全体	2,000	4.5	23.0	3.1	2.6	7.7	4.7
障害別							
肢体不自由	283	4.6	27.6	3.9	1.8	4.9	5.3
音声・言語・そしゃく機能障害	77	2.6	29.9	2.6	2.6	6.5	5.2
視覚障害	144	5.6	20.1	3.5	0.0	9.0	5.6
聴覚・平衡機能障害	146	2.1	33.6	2.7	2.1	6.8	6.8
内部障害	278	3.6	28.1	3.2	5.0	11.2	6.1
知的障害	231	4.8	16.5	3.5	0.9	6.1	3.5
発達障害	187	5.9	17.1	5.9	4.8	4.3	1.1
精神障害	464	5.2	16.6	4.1	2.6	4.3	3.2
高次脳機能障害	44	2.3	27.3	2.3	4.5	2.3	2.3
難病（特定疾病）	632	4.3	27.2	2.5	2.4	9.5	4.6
その他	35	5.7	25.7	20.0	2.9	8.6	5.7

障害別にみると、「障害に対する理解の促進」はいずれの障害でも2割を超えており、特に“発達障害”と“精神障害”では4割を超えています。

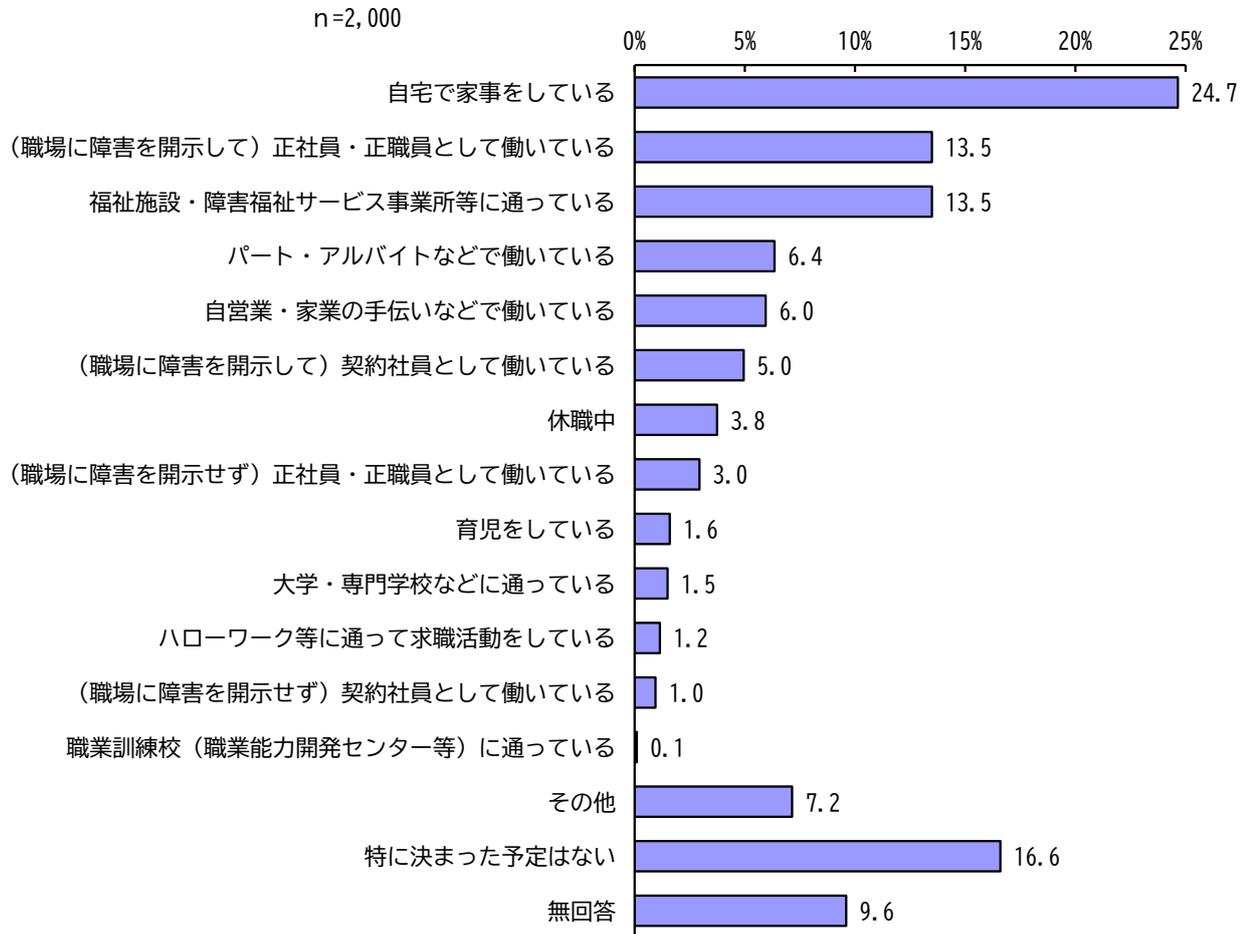
“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“内部障害”、“高次脳機能障害”、“難病（特定疾病）”では「医療やリハビリテーションの充実」が3割を超えて最も高くなっています。

“知的障害”では「グループホームの整備」が約4割、「日中活動系サービス（生活介護・自立訓練等・就労移行支援・就労継続支援等）の充実」が3割を超え、他の障害よりも高くなっています。

“発達障害”と“精神障害”では、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」や「仕事を継続するための支援の充実」、「身近な地域で相談できる場の充実」といった、就労や相談に関する施策が他の障害よりも高くなっています。

(4) 日中活動や外出について

(4-1) 平日の日中の過ごし方(問 26)



平日の日中の過ごし方は、「自宅で家事をしている」が24.7%で最も高く、次いで「(職場に障害を開示して)正社員・正職員として働いている」と「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」がともに13.5%、「パート・アルバイトなどで働いている」が6.4%と続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は16.6%となっています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)	n	(職場に障害を 開示して)正社員・正職員として働いている	(職場に障害を 開示せず)正社員・正職員として働いている	(職場に障害を 開示して)契約社員として働いている	(職場に障害を 開示せず)契約社員として働いている	パート・アルバイトなどで働いている	自営業・家業の手伝いなどで働いている	福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている	大学・専門学校などに通っている
全体	2,000	13.5	3.0	5.0	1.0	6.4	6.0	13.5	1.5
年代別									
18歳以上40歳未満	393	23.9	5.9	10.7	1.5	7.9	3.8	26.5	6.1
40歳以上65歳未満	752	20.6	4.1	6.3	1.3	9.6	6.5	13.7	0.5
65歳以上75歳未満	297	4.0	0.7	2.0	0.7	6.1	9.8	7.4	0.7
75歳以上	499	0.8	0.4	0.0	0.0	0.8	4.8	5.6	0.0
障害別									
肢体不自由	283	10.6	0.0	2.8	0.4	1.4	4.9	12.4	0.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	3.9	0.0	2.6	0.0	1.3	0.0	20.8	1.3
視覚障害	144	15.3	1.4	2.1	0.7	3.5	6.9	9.0	2.8
聴覚・平衡機能障害	146	13.0	0.7	4.8	0.7	4.1	5.5	6.8	0.7
内部障害	278	10.8	2.2	2.5	0.7	5.4	8.3	5.0	1.8
知的障害	231	8.2	0.4	11.7	0.4	3.5	0.9	55.8	0.0
発達障害	187	16.0	4.3	15.0	1.1	8.6	1.6	28.9	3.2
精神障害	464	9.3	3.4	6.9	1.7	9.5	5.8	16.6	1.3
高次脳機能障害	44	11.4	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5	22.7	0.0
難病(特定疾病)	632	18.7	4.3	2.5	0.9	7.3	8.4	4.1	1.4
その他	35	8.6	5.7	8.6	0.0	2.9	5.7	20.0	0.0

(単位:%)	n	職業訓練校(職業能力開発センター等)に通っている	ハローワーク等に通って求職活動をしている	自宅で家事をしている	育児をしている	休職中	その他	特に決まった予定はない	無回答
全体	2,000	0.1	1.2	24.7	1.6	3.8	7.2	16.6	9.6
年代別									
18歳以上40歳未満	393	0.5	1.5	9.9	2.8	3.6	6.6	5.6	2.8
40歳以上65歳未満	752	0.0	1.7	26.1	2.5	5.9	6.1	9.6	4.9
65歳以上75歳未満	297	0.0	1.0	37.7	0.7	3.7	7.4	21.2	9.1
75歳以上	499	0.0	0.2	26.3	0.0	1.0	9.4	32.9	21.8
障害別									
肢体不自由	283	0.0	0.4	23.7	0.4	3.2	8.5	26.1	12.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	0.0	0.0	18.2	0.0	2.6	16.9	23.4	15.6
視覚障害	144	0.7	0.0	18.8	2.1	1.4	11.8	25.7	11.8
聴覚・平衡機能障害	146	0.0	1.4	24.0	0.7	0.0	10.3	26.0	10.3
内部障害	278	0.0	0.7	24.8	0.4	4.0	9.0	24.5	10.8
知的障害	231	0.4	0.4	5.6	0.4	0.4	4.3	4.3	8.7
発達障害	187	0.0	3.7	10.7	0.5	4.3	6.4	8.0	4.3
精神障害	464	0.0	2.4	27.6	1.1	8.6	8.6	15.1	5.6
高次脳機能障害	44	0.0	2.3	11.4	2.3	2.3	11.4	31.8	11.4
難病(特定疾病)	632	0.0	0.6	31.0	3.5	3.0	6.2	14.6	10.3
その他	35	0.0	0.0	11.4	0.0	8.6	22.9	20.0	11.4

年代別にみると、「18歳以上40歳未満」では「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」が、40歳以上の年代では「自宅で家事をしている」が2割半ばを超えて最も高くなっています。

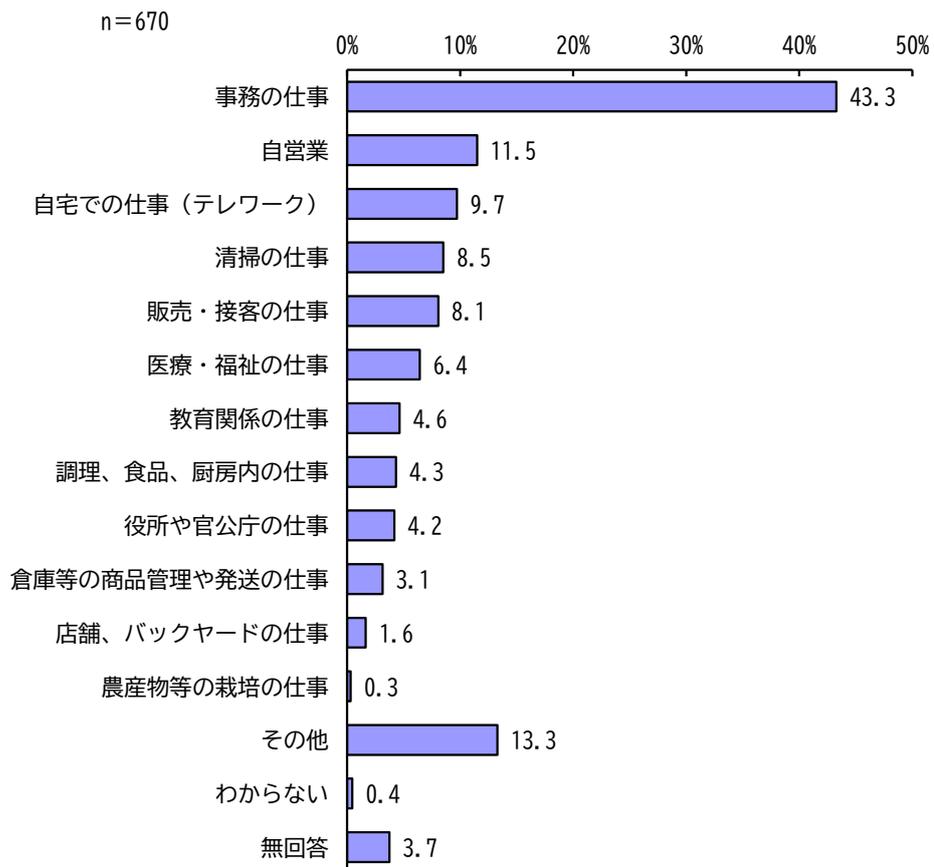
また、65歳未満の年代では「(職場に障害を開示して)正社員・正職員として働いている」が、65歳以上の年代では「特に決まった予定はない」が2割以上で高くなっています。

障害別にみると、「その他」と「特に決まった予定はない」を除くと、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「知的障害」、「発達障害」、「高次脳機能障害」、「その他」では、「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」が最も高く、特に「知的障害」では55.8%と5割半ばを超えています。

それ以外の障害では「自宅で家事をしている」が最も高くなっています。

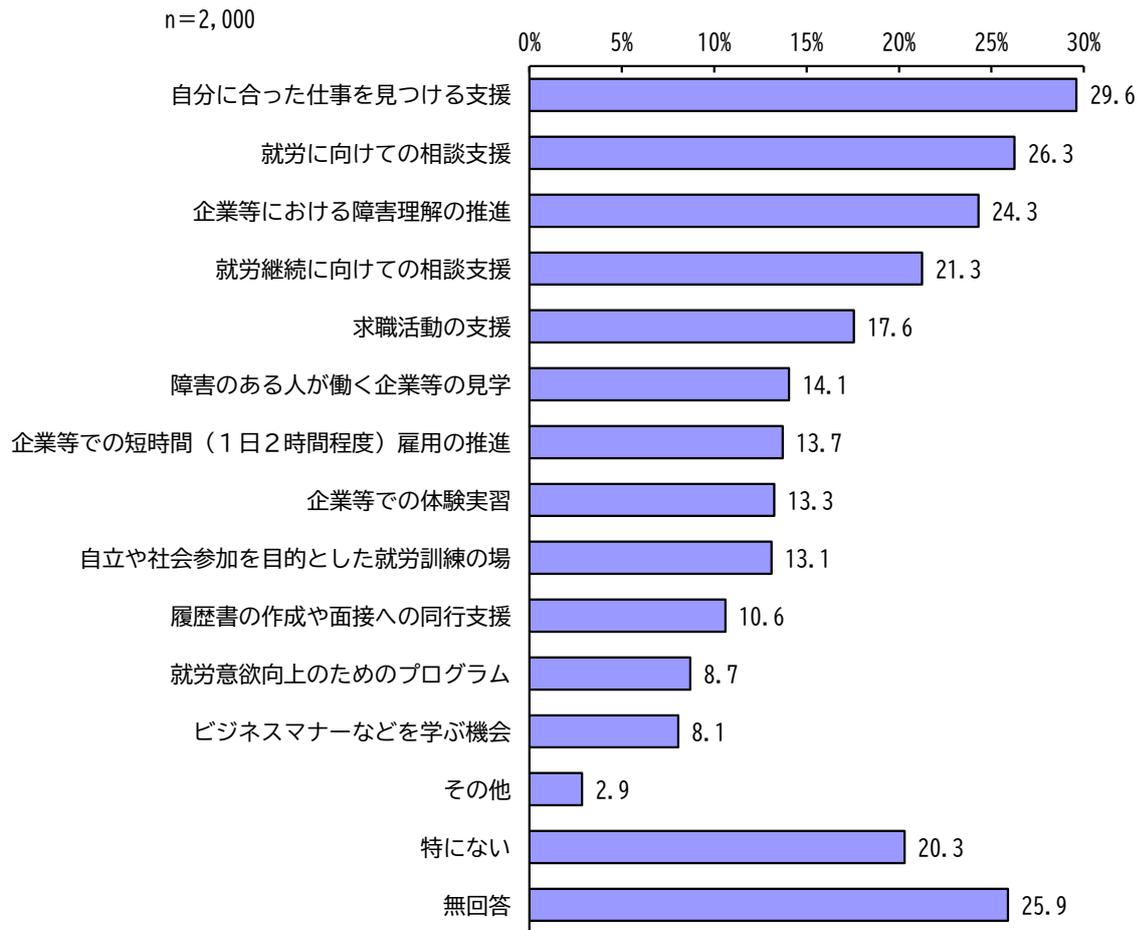
また、「精神障害」、「発達障害」又は「難病」では、職場に障害を開示せずに働いている方が3~4%台の割合を占めています。

(4-2)(仕事をしている方について)仕事の内容(問 26-2)



仕事の内容は、「事務の仕事」が43.3%と4割を超えて最も高く、次いで「自営業」が11.5%、「自宅での仕事 (テレワーク)」が9.7%、「清掃の仕事」が8.5%、「販売・接客の仕事」が8.1%と続いています。

(4-3)一般就労のために希望する支援(問 27)



一般就労のために希望する支援は、「自分に合った仕事を見つける支援」が29.6%と約3割で最も高く、次いで「就労に向けての相談支援」が26.3%、「企業等における障害理解の推進」が24.3%、「就労継続に向けての相談支援」が21.3%と2割を超えて続いています。

一方、「特にない」は20.3%と2割を占めています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	就労に向けての相談支援	就労継続に向けての相談支援	障害のある人が働く企業等の見学	企業等での体験実習	自立や社会参加を目的とした就労訓練の場	就労意欲向上のためのプログラム	求職活動の支援	自分に合った仕事を見つける支援	
(単位:%)										
全体	2,000	26.3	21.3	14.1	13.3	13.1	8.7	17.6	29.6	
年代別	18歳以上40歳未満	393	42.7	40.2	30.3	28.0	22.6	14.8	28.5	46.8
	40歳以上65歳未満	752	31.8	27.3	15.4	15.2	14.8	11.2	22.3	36.8
	65歳以上75歳未満	297	17.8	10.1	6.7	6.1	9.4	3.4	12.8	19.5
	75歳以上	499	10.4	4.0	3.6	3.4	5.2	2.8	4.6	11.8
障害別	肢体不自由	283	21.6	15.9	9.5	7.4	11.0	3.9	12.0	20.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	77	14.3	9.1	7.8	9.1	10.4	6.5	11.7	23.4
	視覚障害	144	22.9	19.4	13.9	11.1	12.5	9.7	16.7	23.6
	聴覚・平衡機能障害	146	17.8	13.7	13.7	11.6	10.3	6.8	11.0	19.9
	内部障害	278	18.7	12.2	10.1	8.3	7.6	5.8	13.7	22.7
	知的障害	231	32.5	33.3	22.9	26.4	20.3	13.9	19.5	41.1
	発達障害	187	49.2	50.3	32.6	35.8	29.9	20.3	34.2	51.3
	精神障害	464	37.9	34.1	20.3	18.1	14.9	14.2	25.4	42.7
	高次脳機能障害	44	18.2	18.2	20.5	20.5	15.9	9.1	27.3	29.5
	難病(特定疾病)	632	23.1	15.3	9.2	9.7	12.2	5.5	16.5	24.8
その他	35	14.3	20.0	17.1	22.9	14.3	11.4	11.4	22.9	

	n	ビジネスマナーなどを学ぶ機会	履歴書の作成や面接への同行支援	企業等での短時間(1日2時間程度)雇用の推進	企業等における障害理解の推進	その他	特になし	無回答	
(単位:%)									
全体	2,000	8.1	10.6	13.7	24.3	2.9	20.3	25.9	
年代別	18歳以上40歳未満	393	18.8	22.9	21.4	45.0	3.1	10.7	8.4
	40歳以上65歳未満	752	9.0	12.6	16.5	28.9	4.3	18.2	14.5
	65歳以上75歳未満	297	2.0	3.4	10.8	12.1	2.0	29.0	32.0
	75歳以上	499	2.0	2.2	4.6	8.6	1.4	26.9	51.9
障害別	肢体不自由	283	3.9	4.9	8.8	16.6	3.5	23.3	37.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	77	3.9	5.2	10.4	20.8	2.6	23.4	40.3
	視覚障害	144	11.1	11.1	8.3	25.7	0.7	22.2	32.6
	聴覚・平衡機能障害	146	2.7	4.8	11.6	19.2	1.4	20.5	38.4
	内部障害	278	5.4	5.0	11.5	15.1	2.5	28.4	31.3
	知的障害	231	10.0	16.0	16.5	36.8	0.9	13.9	19.0
	発達障害	187	22.5	27.8	24.6	49.2	4.3	6.4	10.2
	精神障害	464	12.3	19.4	21.6	34.3	6.9	14.0	13.1
	高次脳機能障害	44	2.3	11.4	18.2	34.1	4.5	29.5	22.7
	難病(特定疾病)	632	6.2	6.2	11.6	18.7	1.7	22.0	29.4
その他	35	17.1	11.4	11.4	28.6	2.9	37.1	20.0	

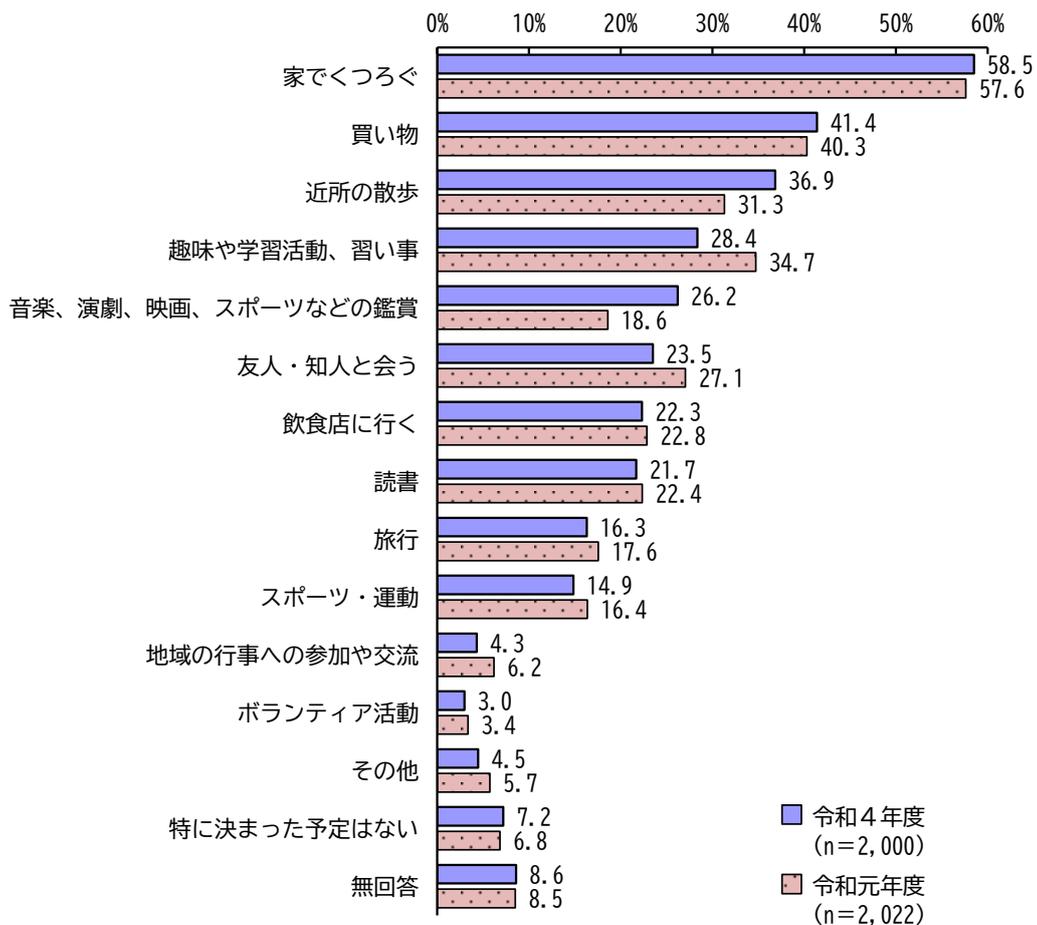
年代別にみると、いずれの年代でも、「自分に合った仕事を見つける支援」が最も高くなっています。
 “18歳以上40歳未満”では、「就労に向けての相談支援」、「就労継続に向けての相談支援」、「企業等における障害理解の推進」が4割を超えて、他の年代よりも高くなっています。

障害別にみると、“肢体不自由”では、「就労に向けての相談支援」が21.6%と最も高くなっています。

“視覚障害”と“高次脳機能障害”では、「企業等における障害理解の推進」が最も高くなっています。
 それ以外の障害ではいずれも「自分に合った仕事を見つける支援」が最も高くなっています。

また、“発達障害”はいずれの支援も希望する割合が2割を超えています。

(4-4) 休日の過ごし方(問 28)

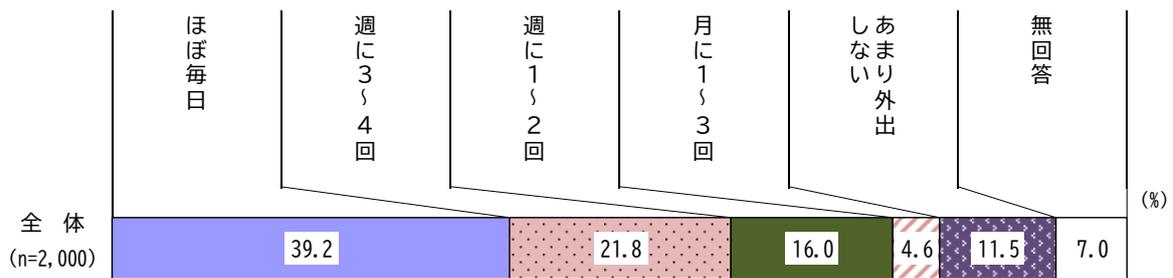


休日の過ごし方は、「家でくつろぐ」が58.5%と6割近くで最も高く、次いで「買い物」が41.4%、「近所の散歩」が36.9%、「趣味や学習活動、習い事」が28.4%と続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は7.2%となっています。

令和元年度と比較すると、「音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞」が7.6ポイント、「近所の散歩」が5.6ポイント上がっており、反対に「趣味や学習活動、習い事」が6.3ポイント、「友人・知人と会う」が3.6ポイント下がっています。

(4-5)外出の頻度(問 29)



外出の頻度は、「ほぼ毎日」が 39.2%と4割近くで最も高く、次いで「週に3～4回」が 21.8%、「週に1～2回」が 16.0%、「あまり外出しない」が 11.5%と続いています。

【クロス集計】障害別

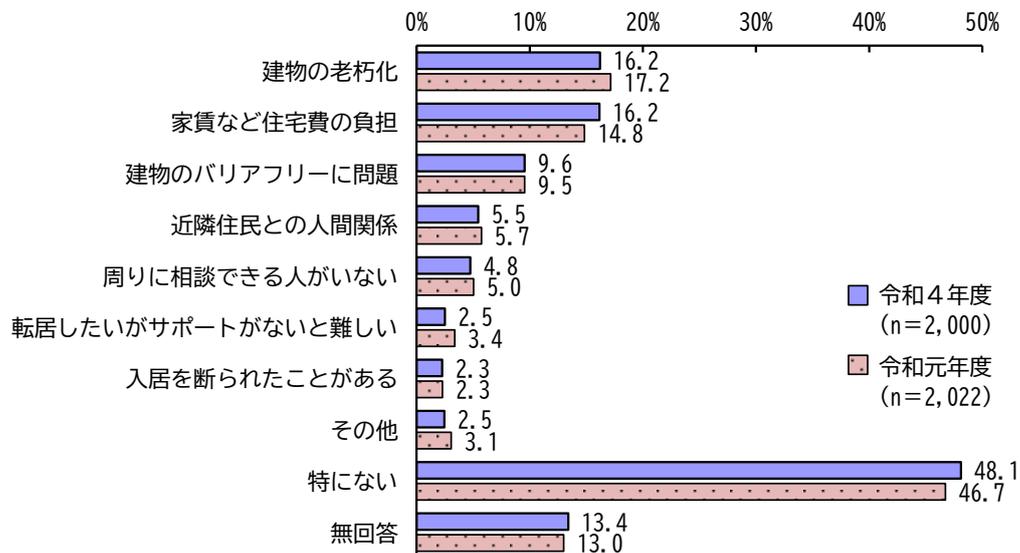
(単位:%)	n	ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	あまり外出しない	無回答
全体	2,000	39.2	21.8	16.0	4.6	11.5	7.0
障害別							
肢体不自由	283	26.5	20.8	17.7	9.2	14.1	11.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	23.4	27.3	11.7	6.5	13.0	18.2
視覚障害	144	35.4	18.1	17.4	6.3	12.5	10.4
聴覚・平衡機能障害	146	32.9	21.2	19.9	3.4	13.0	9.6
内部障害	278	34.5	24.1	15.1	5.8	12.6	7.9
知的障害	231	53.7	8.2	16.9	4.8	11.3	5.2
発達障害	187	52.9	18.7	12.8	3.7	8.6	3.2
精神障害	464	39.4	21.6	15.7	4.5	14.0	4.7
高次脳機能障害	44	27.3	34.1	15.9	6.8	4.5	11.4
難病(特定疾病)	632	38.8	24.5	14.4	3.8	11.6	7.0
その他	35	28.6	20.0	14.3	11.4	17.1	8.6

障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”と“高次脳機能障害”では、「週に3～4回」が最も高くなっています。

それ以外の障害では、「ほぼ毎日」が最も高くなっています。

(5) 住まいについて

(5-1) 住まいでの困りごと(問 31)



住まいでの困りごとは、「建物の老朽化」と「家賃など住宅費の負担」がともに 16.2%で最も高く、次いで「建物のバリアフリーに問題」が 9.6%と続いています。

一方、「特にない」は 48.1%と 4 割半ばを超えています。

令和元年度と比較すると、「建物の老朽化」が 1.0 ポイント下がり、「家賃など住宅費の負担」が 1.4 ポイント上がるなど、項目ごとに増減はありますが、全体的な傾向はあまり変化がありません。

【クロス集計】同居家族別・障害別

(単位:%)	n	建物のバリアフリーに問題	建物の老朽化	家賃など住宅費の負担	近隣住民との人間関係	転居したいがサポートがないと難しい
全体	2,000	9.6	16.2	16.2	5.5	2.5
同居家族別						
家族等と同居	1,368	10.2	14.7	12.4	4.5	1.8
ひとり暮らし	495	9.3	23.0	27.7	8.1	4.0
グループホーム等での集団生活	61	3.3	1.6	3.3	3.3	0.0
その他	47	12.8	14.9	23.4	6.4	6.4
障害別						
肢体不自由	283	17.7	18.7	15.2	2.5	1.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	10.4	15.6	11.7	5.2	1.3
視覚障害	144	13.2	18.1	12.5	4.2	1.4
聴覚・平衡機能障害	146	13.0	22.6	18.5	6.8	2.7
内部障害	278	15.1	17.6	16.2	1.4	0.7
知的障害	231	6.1	8.7	10.8	7.8	3.5
発達障害	187	4.8	17.6	19.8	16.0	9.1
精神障害	464	5.0	22.8	26.5	12.3	4.3
高次脳機能障害	44	9.1	18.2	18.2	4.5	0.0
難病（特定疾病）	632	10.8	14.7	13.0	1.9	1.3
その他	35	14.3	14.3	25.7	14.3	11.4

(単位:%)	n	周りに相談できる人がいない	入居を断られたことがある	その他	特になし	無回答
全体	2,000	4.8	2.3	2.5	48.1	13.4
同居家族別						
家族等と同居	1,368	3.3	0.9	1.8	52.4	13.8
ひとり暮らし	495	9.1	6.3	4.0	37.0	8.1
グループホーム等での集団生活	61	1.6	0.0	3.3	54.1	31.1
その他	47	6.4	2.1	2.1	34.0	19.1
障害別						
肢体不自由	283	3.9	1.4	2.5	40.6	18.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	3.9	1.3	3.9	45.5	27.3
視覚障害	144	4.2	2.8	2.1	45.8	17.4
聴覚・平衡機能障害	146	4.8	2.1	2.1	38.4	16.4
内部障害	278	3.2	1.4	2.2	47.8	16.5
知的障害	231	5.6	1.7	2.6	58.4	14.7
発達障害	187	9.6	7.5	4.3	43.9	11.2
精神障害	464	9.5	4.5	4.3	36.6	8.8
高次脳機能障害	44	4.5	0.0	2.3	43.2	20.5
難病（特定疾病）	632	2.2	0.8	1.6	55.1	11.4
その他	35	17.1	2.9	5.7	28.6	25.7

同居家族別に見ると、“家族と同居”では、「建物の老朽化」が14.7%と最も高くなっています。

それ以外ではいずれも「家賃など住宅費の負担」が最も高くなっています。

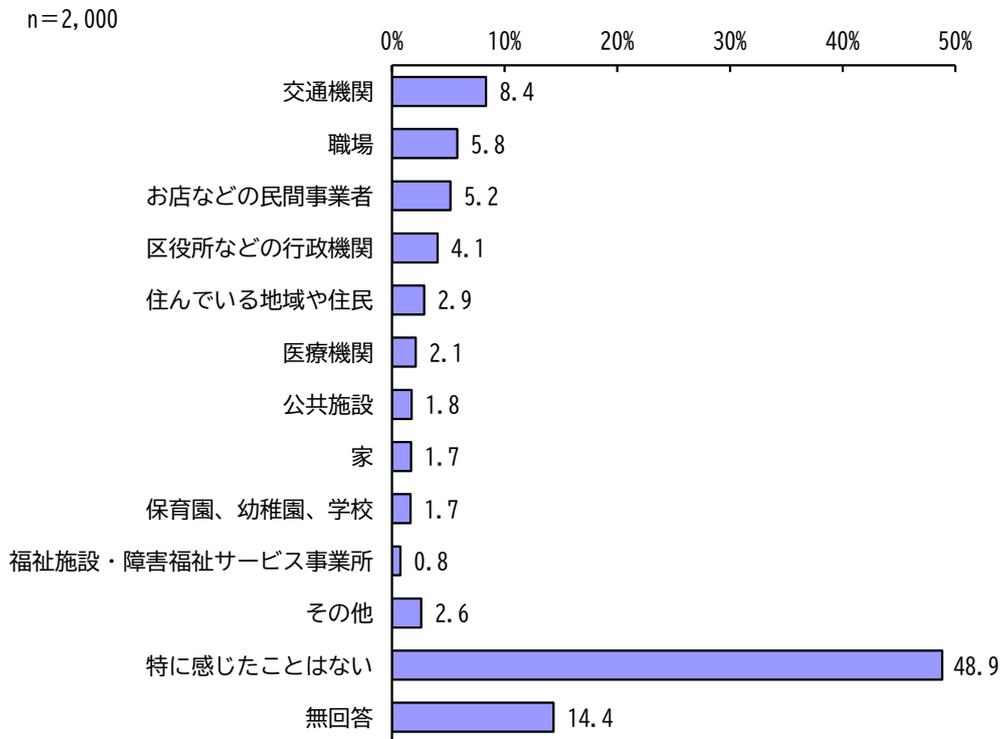
“ひとり暮らし”では、「建物の老朽化」が23.0%と他の住まいの人に比べ高くなっています。

障害別にみると、身体障害や難病（特定疾病）の方では、「建物のバリアフリーに問題」、「建物の老朽化」といった建物に対する問題が高い傾向にあり、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”では、「家賃など住宅費の負担」や「近隣住民との人間関係」といった住まいの条件に関する問題が高い傾向にあります。

“高次脳機能障害”では、「建物の老朽化」と「家賃など住宅費の負担」が最も高くなっています。

(6) 権利擁護・差別解消について

(6-1) 地域で差別や合理的配慮の不提供を感じる場面(問 35)



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「交通機関」が 8.4%と最も高く、次いで「職場」が 5.8%、「お店などの民間事業者」が 5.2%と続いています。

一方、「特に感じたことはない」は 48.9%と 5 割近くを占めています。

【クロス集計】障害別

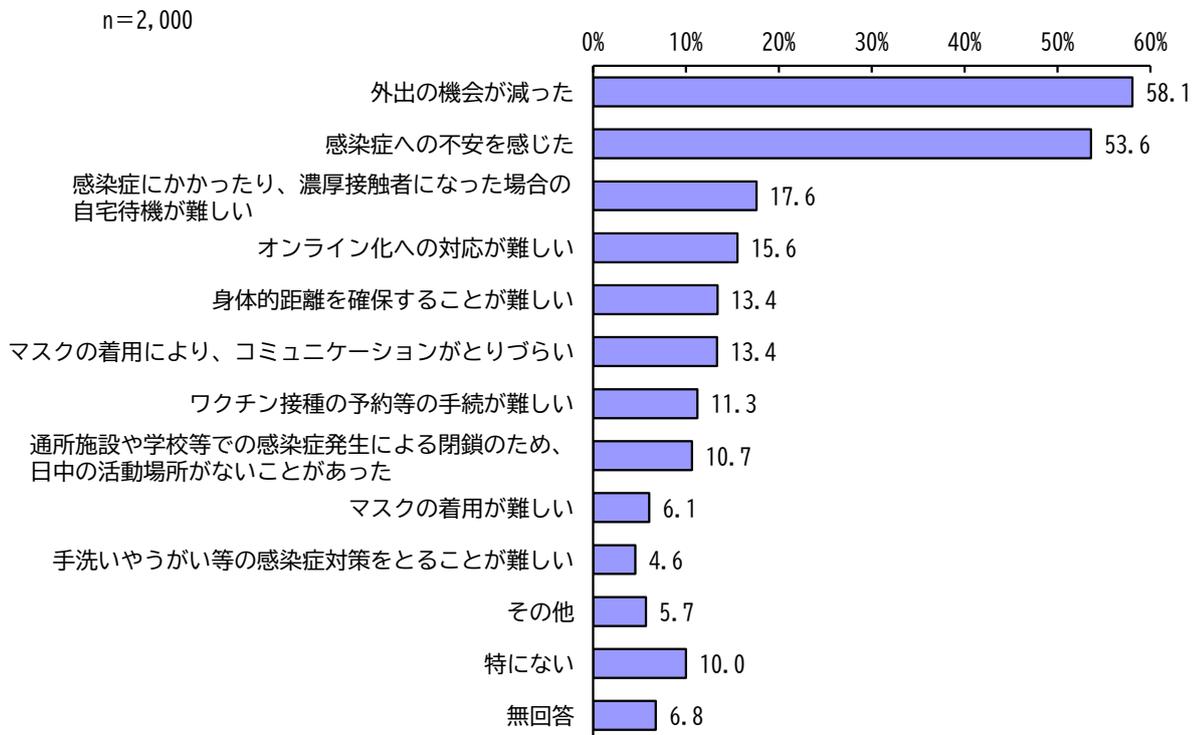
	n	家	職場	福祉施設・ 障害福祉 サービス事 業所	お店などの 民間事業者	住んでいる 地域や住民	公共施設	区役所など の行政機関
(単位:%)								
全体	2,000	1.7	5.8	0.8	5.2	2.9	1.8	4.1
障害別								
肢体不自由	283	1.8	2.1	0.4	7.8	2.5	1.4	3.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	5.2	1.3	1.3	6.5	3.9	2.6	2.6
視覚障害	144	2.1	1.4	0.7	7.6	0.7	2.1	6.3
聴覚・平衡機能障害	146	1.4	4.1	0.0	10.3	1.4	1.4	2.7
内部障害	278	1.1	3.2	0.4	4.7	2.2	1.8	2.2
知的障害	231	0.9	4.3	1.7	6.5	3.5	3.9	2.6
発達障害	187	3.2	9.6	2.7	4.8	7.0	3.7	4.8
精神障害	464	4.3	11.9	1.1	4.1	5.8	0.9	5.4
高次脳機能障害	44	0.0	9.1	2.3	11.4	2.3	2.3	2.3
難病（特定疾病）	632	1.1	4.6	0.3	5.9	0.9	2.1	4.4
その他	35	5.7	5.7	5.7	5.7	5.7	0.0	0.0

	n	医療機関	交通機関	保育園、幼 稚園、学校	その他	特に感じた ことはない	無回答
(単位:%)							
全体	2,000	2.1	8.4	1.7	2.6	48.9	14.4
障害別							
肢体不自由	283	0.7	11.7	1.1	2.1	44.5	20.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	1.3	7.8	2.6	1.3	40.3	23.4
視覚障害	144	0.7	7.6	1.4	3.5	44.4	21.5
聴覚・平衡機能障害	146	4.8	5.5	0.7	2.1	52.1	13.7
内部障害	278	1.8	8.3	0.4	1.8	55.0	17.3
知的障害	231	2.6	8.7	4.8	2.2	39.4	19.0
発達障害	187	3.2	9.1	3.2	4.8	35.3	8.6
精神障害	464	3.7	8.0	0.4	3.9	40.5	10.1
高次脳機能障害	44	2.3	9.1	0.0	2.3	43.2	13.6
難病（特定疾病）	632	0.8	9.5	2.1	2.2	52.4	13.8
その他	35	5.7	5.7	2.9	11.4	25.7	20.0

障害別にみると、“肢体不自由”では「交通機関」が、“聴覚・平衡機能障害”と“高次脳機能障害”では「お店などの民間事業者」が、“精神障害”では「職場」がそれぞれ1割を超えています。

(7) 感染症について

(7-1) 感染症発生時の困りごと(問 39)



感染症発生時の困りごとは、「外出の機会が減った」が58.1%、「感染症への不安を感じた」が53.6%と5割を超え、次いで「感染症にかかったり、濃厚接触者になった場合の自宅待機が難しい」が17.6%、「オンライン化への対応が難しい」が15.6%と続いています。

一方、「特にない」は10.0%となっています。

【クロス集計】障害別

	n	外出の機会が減った	身体的距離を確保することが難しい	感染症への不安を感じた	手洗いやうがい等の感染症対策をとることが難しい	通所施設や学校等での感染症発生による閉鎖のため、日中の活動場所がないことがあった	感染症にかかったり、濃厚接触者になった場合の自宅待機が難しい	マスクの着用が難しい
(単位:%)								
全体	2,000	58.1	13.4	53.6	4.6	10.7	17.6	6.1
障害別								
肢体不自由	283	60.1	15.9	53.7	8.8	9.5	19.4	6.4
音声・言語・そしゃく機能障害	77	51.9	22.1	51.9	15.6	22.1	23.4	10.4
視覚障害	144	46.5	17.4	38.2	4.9	6.9	13.9	6.3
聴覚・平衡機能障害	146	48.6	14.4	50.0	6.2	9.6	17.1	5.5
内部障害	278	63.3	11.9	60.4	2.9	4.7	21.6	5.4
知的障害	231	65.8	21.2	46.8	13.0	35.1	25.5	14.7
発達障害	187	59.4	15.5	50.3	4.3	22.5	19.8	9.6
精神障害	464	51.3	12.7	51.7	3.7	11.6	13.8	7.3
高次脳機能障害	44	68.2	22.7	52.3	11.4	20.5	20.5	11.4
難病(特定疾病)	632	62.5	13.1	60.6	3.6	6.8	20.3	3.0
その他	35	51.4	22.9	28.6	8.6	14.3	17.1	5.7

	n	マスクの着用により、コミュニケーションがとりづらい	オンライン化への対応が難しい	ワクチン接種の予約等の手続きが難しい	その他	特になし	無回答
(単位:%)							
全体	2,000	13.4	15.6	11.3	5.7	10.0	6.8
障害別							
肢体不自由	283	12.0	17.7	12.0	4.9	7.8	12.4
音声・言語・そしゃく機能障害	77	19.5	19.5	23.4	9.1	3.9	13.0
視覚障害	144	9.0	16.0	20.1	6.3	18.1	9.0
聴覚・平衡機能障害	146	39.7	21.2	11.6	6.8	9.6	9.6
内部障害	278	11.2	15.5	10.4	5.0	7.2	6.8
知的障害	231	10.4	22.5	16.9	5.2	10.4	5.6
発達障害	187	18.2	15.0	15.0	9.1	13.9	1.1
精神障害	464	12.3	16.6	12.7	10.3	12.1	4.1
高次脳機能障害	44	13.6	11.4	20.5	6.8	9.1	6.8
難病(特定疾病)	632	10.9	12.5	7.4	5.5	7.0	7.3
その他	35	14.3	28.6	14.3	17.1	11.4	17.1

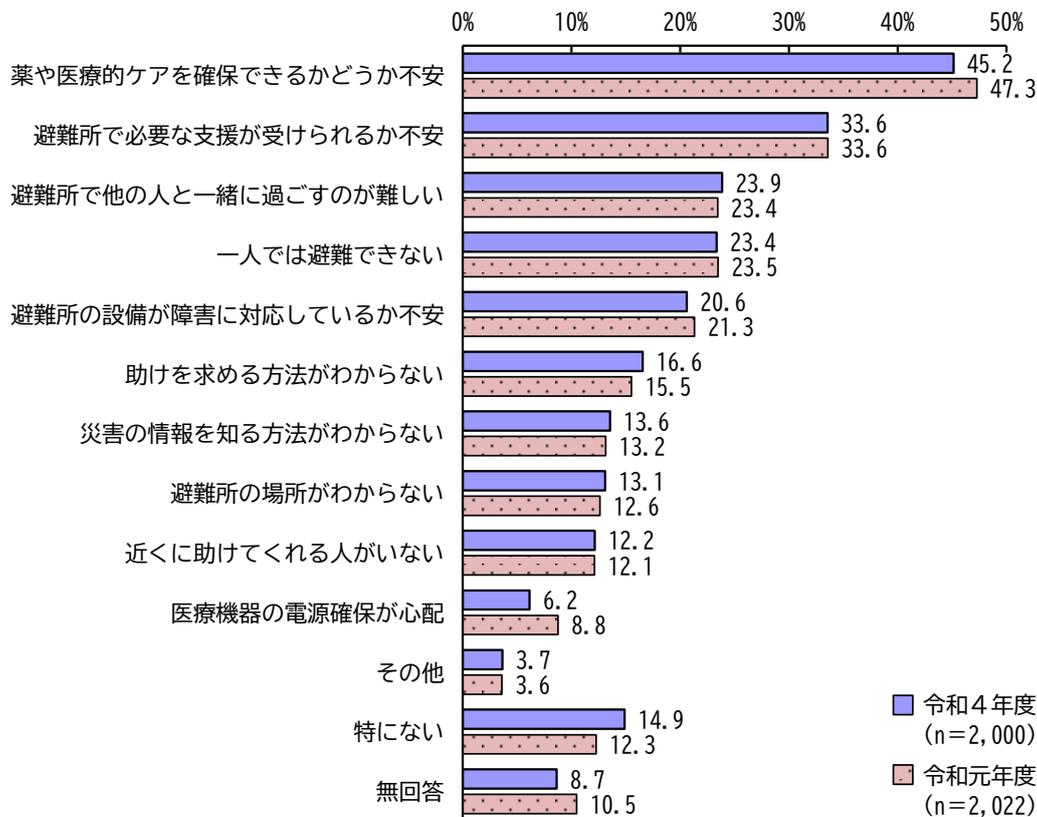
障害別にみると、いずれの障害でも「外出の機会が減った」と「感染症への不安を感じた」が上位2項目に入って高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“発達障害”、“高次脳機能障害”では、「通所施設や学校等での感染症発生による閉鎖のため、日中の活動場所がないことがあった」が2割を超えて高く、特に“知的障害”では35.1%と3割半ばで、他の障害よりも高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”では「マスクの着用により、コミュニケーションがとりづらい」が39.7%と約4割で、他の障害よりも高くなっています。

(8) 災害対策について

(8-1) 災害発生時の困りごと(問 40)



災害発生時の困りごとは、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が45.2%と4割半ばで最も高く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が33.6%、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が23.9%、「一人では避難できない」が23.4%と続いています。

一方、「特にない」は14.9%となっています。

令和元年度と比較すると、「医療機器の電源確保が心配」が2.6ポイント、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が2.1ポイント下がっているなど、項目ごとに増減はありますが、大きな差はなく、全体的な傾向にあまり変化はありません。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	災害の情報を 知る方法が わからない	助けを求め る方法がわ からない	避難所の場 所がわから ない	近くに助け てくれる人 がいない	一人では避 難できない	避難所の設 備が障害に 対応してい るか不安	避難所で必 要な支援が 受けられる か不安
全体	2,000	13.6	16.6	13.1	12.2	23.4	20.6	33.6
障害別								
肢体不自由	283	11.7	14.8	12.0	13.8	45.6	33.6	39.9
音声・言語・そしゃく機能障害	77	22.1	32.5	11.7	14.3	48.1	39.0	45.5
視覚障害	144	14.6	20.8	18.1	11.8	36.1	29.9	34.0
聴覚・平衡機能障害	146	28.1	23.3	12.3	11.0	26.7	24.7	39.0
内部障害	278	12.2	14.4	12.6	10.4	19.8	23.0	37.1
知的障害	231	29.9	35.1	21.6	12.6	56.7	31.6	41.6
発達障害	187	20.3	27.3	18.7	17.1	25.7	26.2	38.0
精神障害	464	11.9	17.5	14.2	22.0	16.6	17.9	33.8
高次脳機能障害	44	11.4	22.7	11.4	6.8	43.2	29.5	36.4
難病（特定疾病）	632	8.4	10.3	10.9	7.3	15.2	15.0	31.0
その他	35	14.3	17.1	11.4	11.4	20.0	22.9	31.4

(単位:%)	n	避難所で他 の人と一緒 に過ごすの が難しい	薬や医療的 ケアを確保 できるかど うか不安	医療機器の 電源確保が 心配	その他	特になし	無回答
全体	2,000	23.9	45.2	6.2	3.7	14.9	8.7
障害別							
肢体不自由	283	23.7	41.3	9.5	4.6	11.3	12.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	32.5	44.2	9.1	2.6	7.8	13.0
視覚障害	144	21.5	26.4	4.9	4.9	18.8	10.4
聴覚・平衡機能障害	146	17.1	32.9	10.3	3.4	15.8	11.0
内部障害	278	18.7	54.3	10.8	3.6	12.6	9.7
知的障害	231	36.4	32.0	5.2	2.2	10.0	9.5
発達障害	187	42.8	38.5	4.3	3.7	17.6	5.3
精神障害	464	37.1	52.2	3.0	4.1	14.0	5.8
高次脳機能障害	44	22.7	36.4	2.3	0.0	6.8	15.9
難病（特定疾病）	632	15.0	56.5	6.8	3.3	13.9	9.0
その他	35	11.4	40.0	8.6	11.4	14.3	17.1

障害別にみると、「肢体不自由」、「音声・言語・そしゃく機能」、「視覚障害」、「高次脳機能障害」では、「一人では避難できない」が最も高く、特に「知的障害」では56.7%と5割を超えて他の障害よりも高くなっています。

「聴覚・平衡機能障害」では、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が最も高くなっています。また、いずれの障害でも高い割合となっており、「音声・言語・そしゃく機能障害」と「知的障害」では4割を超えています。

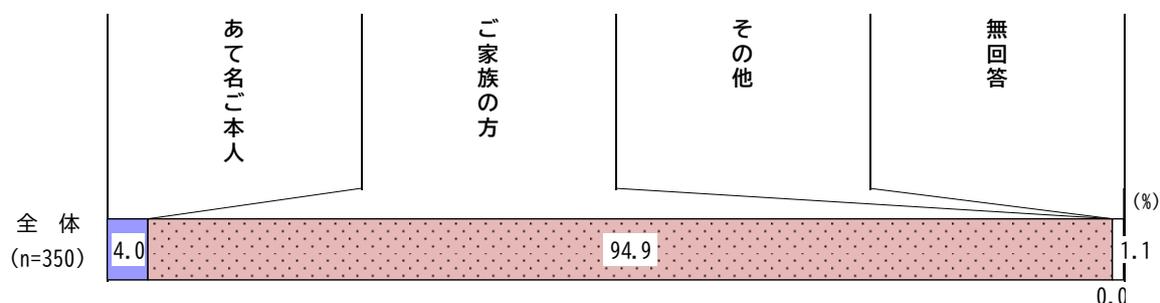
「発達障害」では、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が42.8%と最も高くなっています。また「音声・言語・そしゃく機能障害」、「知的障害」、「精神障害」でも3割を超えています。

「内部障害」、「精神障害」、「難病（特定疾病）」では、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が最も高くなっており、特に「内部障害」、「精神障害」、「難病（特定疾病）」では5割を超えています。

○ 18歳未満の方を対象にした調査

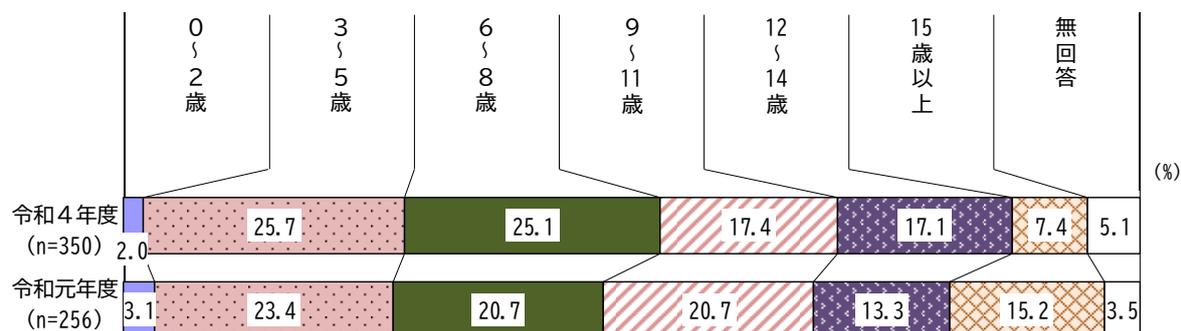
(1) 対象者特性

(1-1) 回答者(問1)



調査の回答者は、「ご家族の方」が94.9%と9割半ばを占めており、「あて名ご本人」は4.0%となっています。

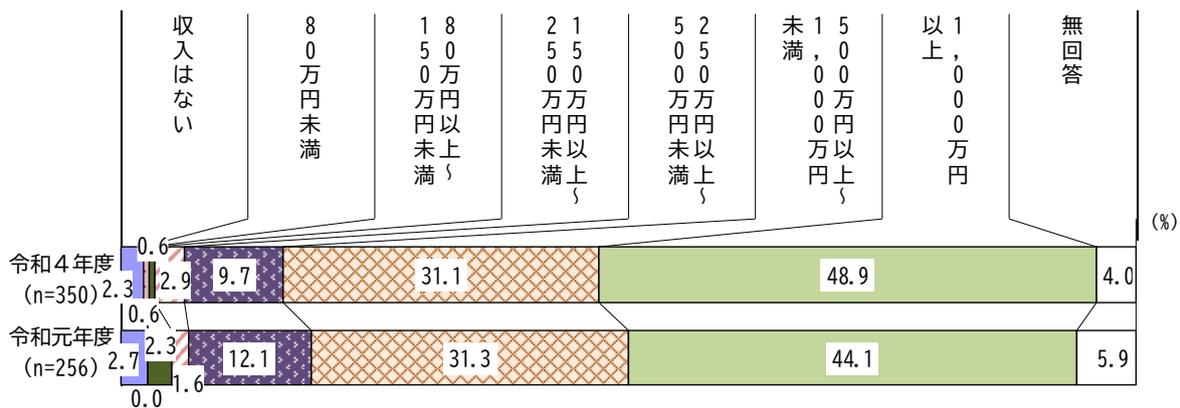
(1-2) 年齢(問2)



障害者本人の年齢は、「3～5歳」が25.7%、「6～8歳」が25.1%の2つで全体の半数以上を占め、次いで「9～11歳」が17.4%、「12～14歳」が17.1%、「15歳以上」が7.4%、「0～2歳」が2.0%と続いています。

令和元年度と比較すると、「15歳以上」が7.8ポイント、「9～11歳」が3.3ポイント下がっており、また、「0～2歳」も1.1ポイントやや下がっています。それ以外の年齢はいずれも令和元年度より上がっています。

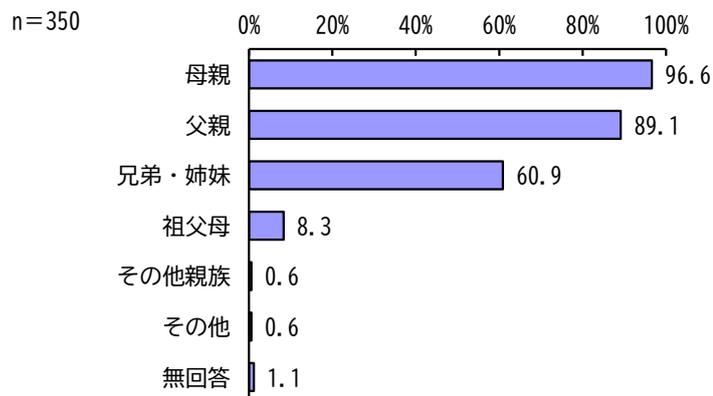
(1-3)世帯主の年収(問3)



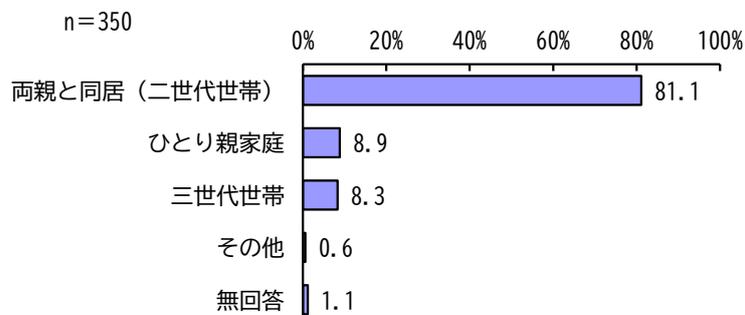
世帯年収は、「1,000万円以上」が48.9%と最も高く、次いで「500万円以上～1,000万円未満」が31.1%と続いており、500万円以上で全体の8割を占めています。

令和元年度と比較すると、「1,000万円以上」が4.8ポイント上がっており、反対に「250万円以上～500万円未満」が2.4ポイント下がっています。

(1-4)同居家族(問4)



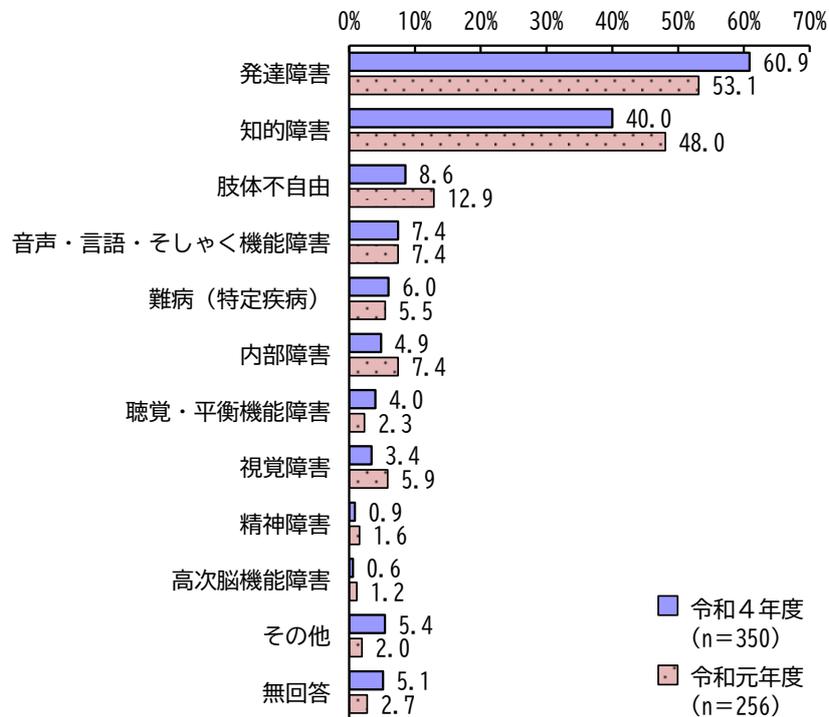
同居している家族は、「母親」が96.6%と9割半ばを超えて最も高く、次いで「父親」が89.1%、「兄弟・姉妹」が60.9%と続いています。



同居家族の世帯を4区分に分けてみると、「両親と同居 (二世帯世帯)」が81.1%と最も高くなっています。

(2) 障害と健康について

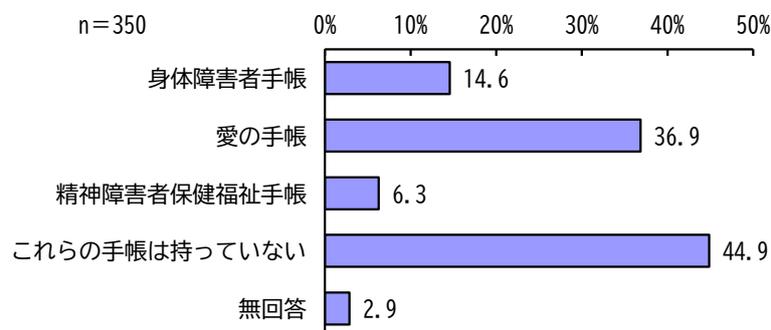
(2-1)障害の種類(問 5)



障害の種類は、「発達障害」が60.9%と最も高く、次いで「知的障害」が40.0%が続いています。それ以外の障害はいずれも1割を下回っています。

令和元年度と比較すると、「発達障害」が7.8ポイント上がっていますが、反対に「知的障害」が8.0ポイント、「肢体不自由」が4.3ポイント下がっています。

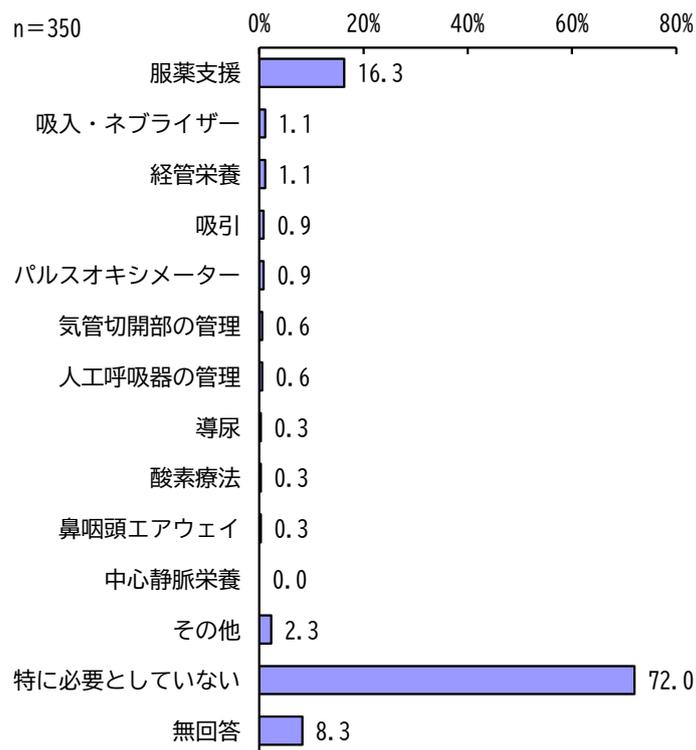
(2-2)手帳の所持状況(問 6)



手帳の所持状況は、「愛の手帳」が36.9%と最も高く、次いで「身体障害者手帳」が14.6%、「精神障害者保健福祉手帳」が6.3%が続いています。

一方、「これらの手帳は持っていない」は44.9%と全体の4割半ばを占めています。

(2-3)必要な医療的ケア(問 12)

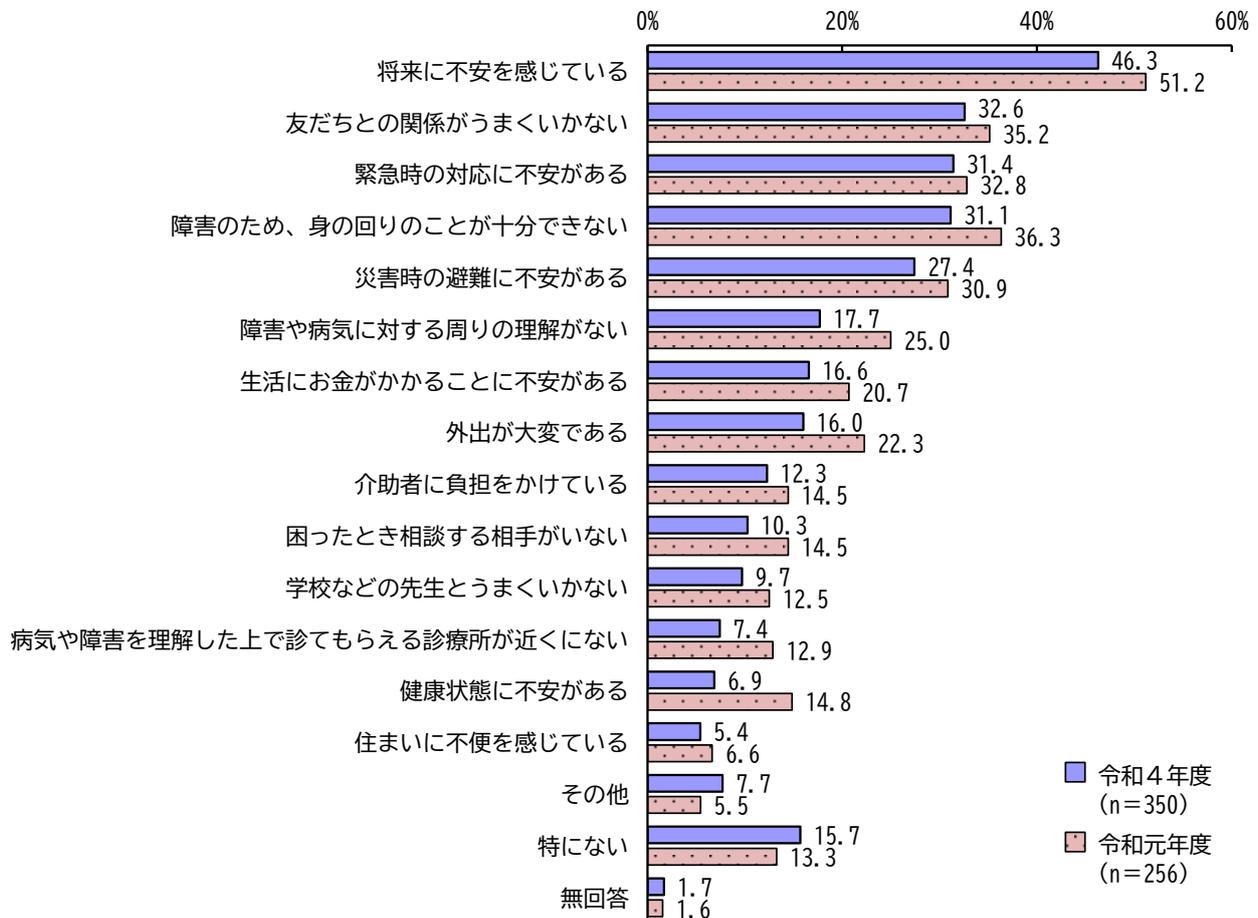


必要とする医療的ケアは、「服薬支援」が16.3%と1割半ばを超えて最も高く、それ以外の項目では「吸入・ネブライザー」と「経管栄養」のみが1%を上回っています。

一方、「特に必要としていない」は72.2%と7割を超えています。

(3) 相談や福祉の情報について

(3-1)日常生活で困っていること(問16)



日常生活で困っていることは、「将来に不安を感じている」が46.3%と最も高く、次いで「友だちとの関係がうまくいかない」が32.6%、「緊急時の対応に不安がある」が31.4%、「障害のため、身の回りのことが十分できない」が31.1%と続いています。

一方、「特にない」は15.7%となっています。

令和元年度と比較すると、いずれの項目も下がっており、特に「健康状態に不安がある」、「障害や病気に対する周りの理解がない」、「外出が大変である」、「病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くにない」、「障害のため、身の回りのことが十分できない」は5ポイント以上下がっています。

【クロス集計】 家族構成別

(単位:%)	n	健康状態に不安がある	障害のため、身の回りのことが十分できない	介助者に負担をかけている	外出が大変である	住まいに不便を感じている	災害時の避難に不安がある
全体	350	6.9	31.1	12.3	16.0	5.4	27.4
家族構成別							
両親と同居	284	7.0	29.2	12.0	16.2	4.9	27.5
ひとり親家庭	31	3.2	32.3	12.9	16.1	6.5	29.0
三世代	29	6.9	41.4	13.8	13.8	10.3	27.6
その他	2	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	50.0

(単位:%)	n	緊急時の対応に不安がある	学校などの先生とうまくいかない	友だちとの関係がうまくいかない	障害や病気に対する周りの理解がない	困ったとき相談する相手がいない	病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くにない
全体	350	31.4	9.7	32.6	17.7	10.3	7.4
家族構成別							
両親と同居	284	31.3	10.2	32.0	16.9	10.6	7.4
ひとり親家庭	31	38.7	9.7	22.6	29.0	6.5	6.5
三世代	29	24.1	6.9	48.3	13.8	13.8	6.9
その他	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

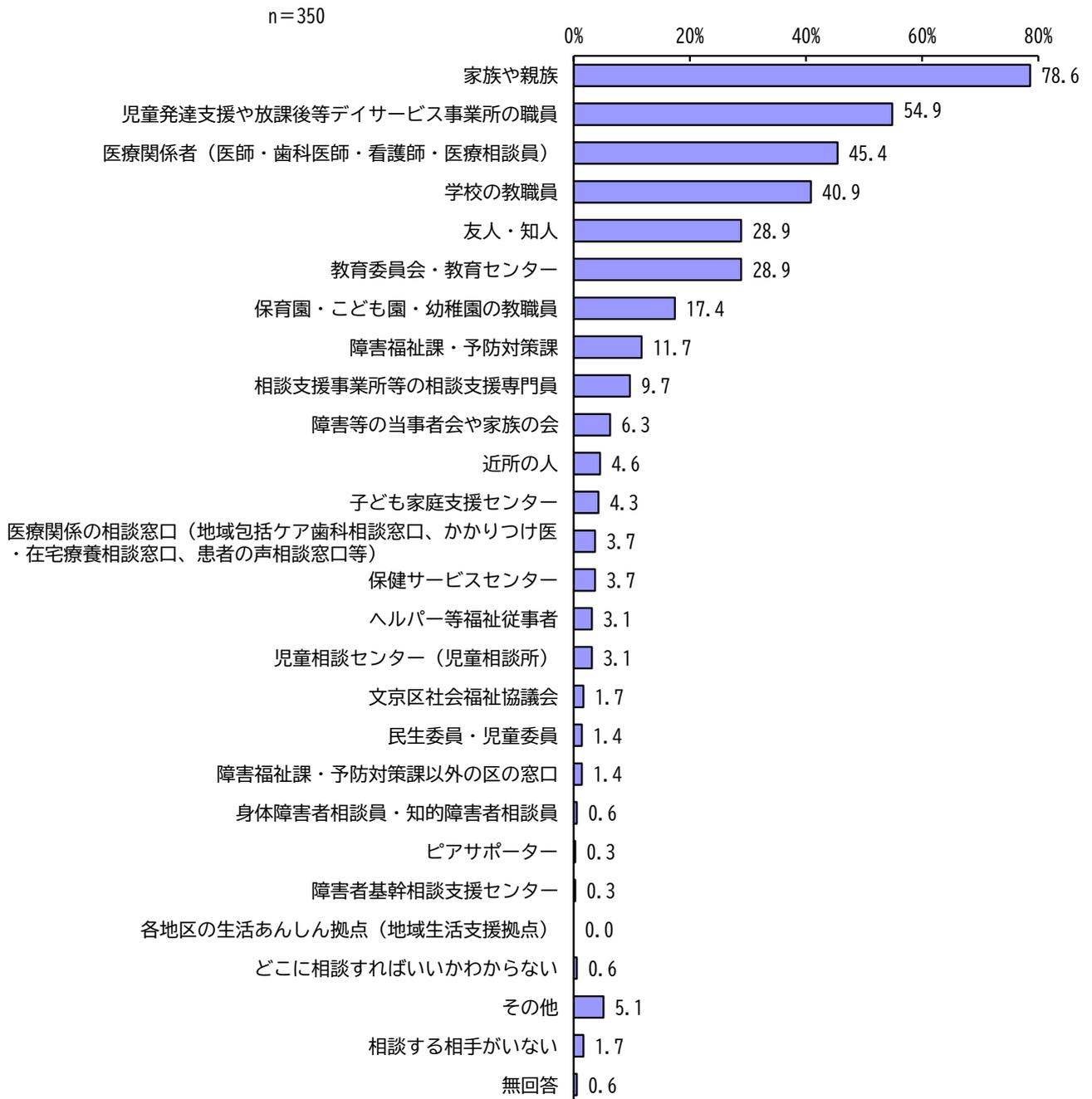
(単位:%)	n	生活にお金がかかることに不安がある	将来に不安を感じている	その他	特にない	無回答
全体	350	16.6	46.3	7.7	15.7	1.7
家族構成別						
両親と同居	284	16.2	44.7	9.2	16.2	1.8
ひとり親家庭	31	25.8	54.8	0.0	19.4	3.2
三世代	29	13.8	51.7	3.4	10.3	0.0
その他	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

家族構成別にみると、“その他”以外のいずれの家族構成も「将来に不安を感じている」が最も高く、特に“ひとり親家庭”と“三世代”では5割を超えています。

“ひとり親家庭”では、「障害や病気に対する周りの理解がない」や「生活にお金がかかることに不安がある」が他の家族構成よりも高くなっています。

“三世代”では、「障害のため、身の回りのことが十分できない」、「友だちとの関係がうまくいかない」が4割を超えて、他の家族構成よりも高くなっています。

(3-2)困った時の相談相手(問 17)



本人や保護者が困ったときの相談相手は、「家族や親族」が78.6%と最も高く、次いで「児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員」が54.9%、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」が45.4%、「学校の教職員」が40.9%と続いています。

一方、「どこに相談すればいいかわからない」は0.6%、「相談する相手がない」は1.7%となっています。

【クロス集計】障害別

	n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	学校の教職員	保育園・子ども園・幼稚園の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	身体障害者相談員・知的障害者相談員
(単位:%)										
全体	350	78.6	4.6	28.9	0.3	40.9	17.4	1.4	6.3	0.6
障害別										
肢体不自由	30	86.7	3.3	26.7	0.0	46.7	6.7	0.0	13.3	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	92.3	3.8	26.9	0.0	46.2	7.7	0.0	19.2	0.0
視覚障害	12	83.3	16.7	33.3	0.0	41.7	8.3	0.0	8.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	85.7	7.1	7.1	0.0	50.0	14.3	0.0	21.4	0.0
内部障害	17	70.6	0.0	17.6	0.0	23.5	5.9	0.0	17.6	0.0
知的障害	140	77.9	5.0	32.1	0.0	53.6	10.7	0.7	12.1	1.4
発達障害	213	75.6	4.2	25.8	0.5	45.1	15.0	2.3	2.8	0.9
精神障害	3	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	100.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
難病（特定疾病）	21	90.5	0.0	19.0	0.0	52.4	0.0	0.0	19.0	0.0
その他	19	94.7	10.5	47.4	0.0	21.1	47.4	0.0	5.3	0.0

	n	ヘルパー等福祉従事者	児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	医療関係の相談窓口	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター
(単位:%)										
全体	350	3.1	54.9	9.7	45.4	3.7	11.7	1.4	3.7	0.3
障害別										
肢体不自由	30	16.7	33.3	10.0	60.0	6.7	26.7	3.3	3.3	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	7.7	46.2	7.7	46.2	0.0	15.4	3.8	3.8	0.0
視覚障害	12	16.7	16.7	8.3	50.0	8.3	25.0	0.0	8.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	7.1	14.3	7.1	57.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
内部障害	17	5.9	5.9	5.9	64.7	17.6	11.8	5.9	5.9	0.0
知的障害	140	5.0	61.4	12.1	50.7	3.6	12.9	2.1	2.9	0.7
発達障害	213	1.4	63.8	11.7	42.7	2.8	10.8	1.9	3.3	0.5
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	4.8	42.9	9.5	76.2	0.0	23.8	0.0	0.0	0.0
その他	19	5.3	57.9	10.5	52.6	5.3	10.5	0.0	5.3	0.0

	n	各地区の生活あんしん拠点(地域生活支援拠点)	子ども家庭支援センター	教育委員会・教育センター	児童相談センター（児童相談所）	文京区社会福祉協議会	どこに相談すればいいかわからない	その他	相談する相手がない	無回答
(単位:%)										
全体	350	0.0	4.3	28.9	3.1	1.7	0.6	5.1	1.7	0.6
障害別										
肢体不自由	30	0.0	0.0	6.7	3.3	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0	11.5	0.0	0.0
視覚障害	12	0.0	8.3	33.3	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
内部障害	17	0.0	0.0	17.6	5.9	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0
知的障害	140	0.0	2.1	18.6	2.1	2.1	0.7	5.7	4.3	0.7
発達障害	213	0.0	5.6	34.3	3.8	2.3	0.9	5.6	0.5	0.5
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	0.0	0.0	19.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
その他	19	0.0	0.0	36.8	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0

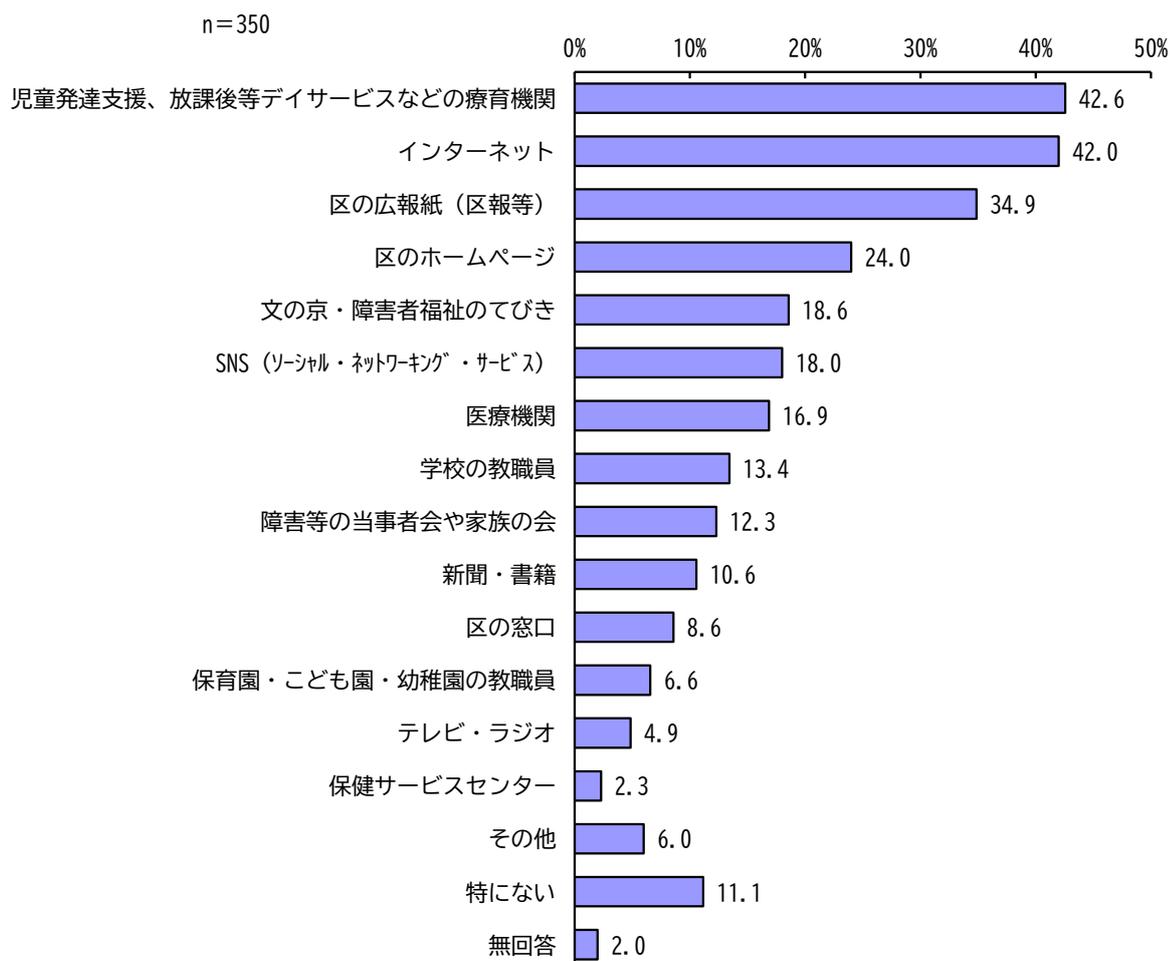
障害別にみると、回答数が10件以上のいずれの障害でも、「家族や親族」が最も高く、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」も4割を超えて高くなっています。

“知的障害”と“発達障害”では、「児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員」が6割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

“視覚障害”と“発達障害”では、「教育委員会・教育センター」が3割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

“内部障害”では、「相談する相手がない」が11.8%と1割を超えています。

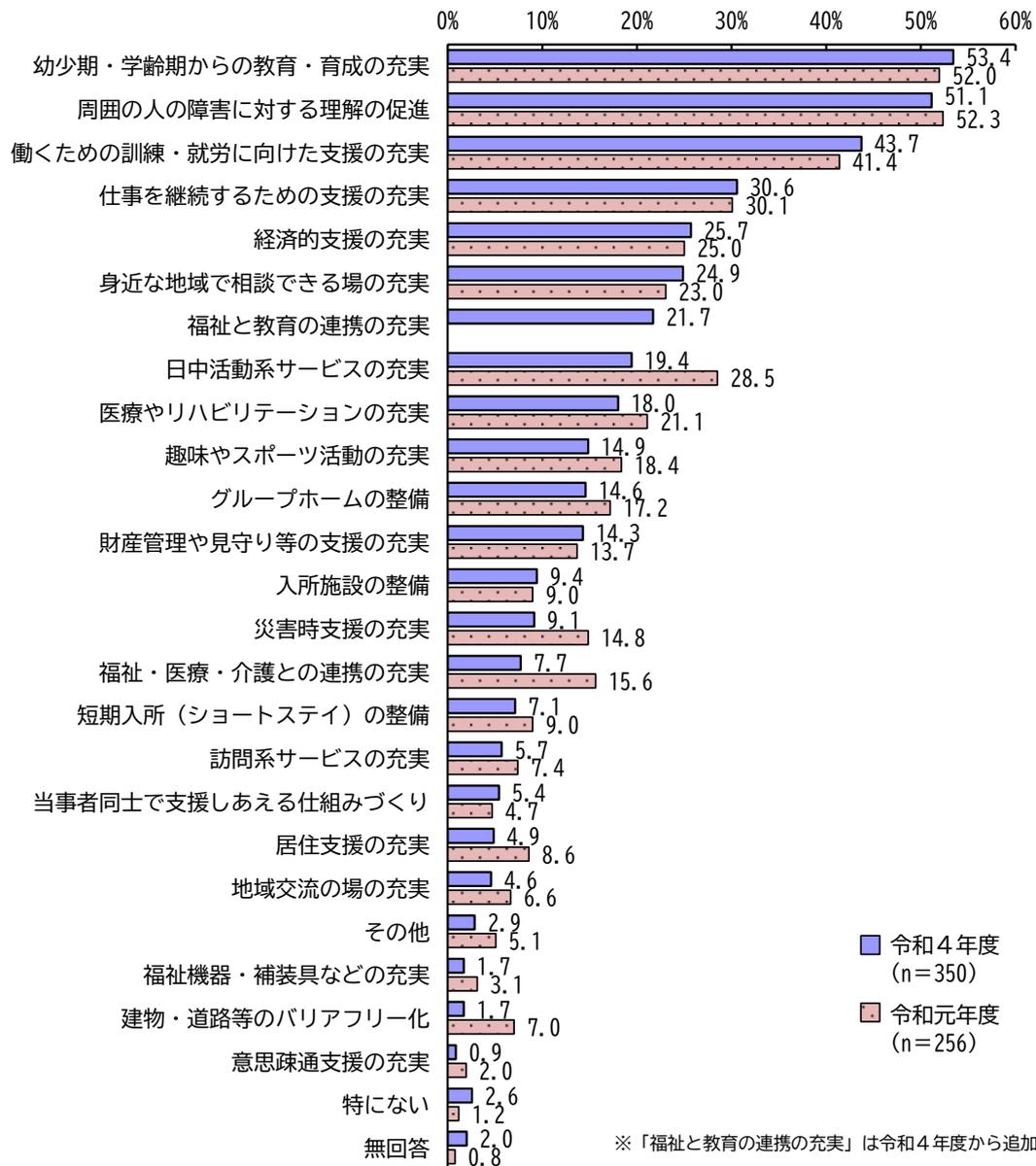
(3-3)福祉情報の入手先(問 18)



福祉情報の入手先は、「児童発達支援、放課後等デイサービスなどの療育機関」が42.6%、「インターネット」が42.0%と4割台となっており、「区の広報紙(区報等)」が34.9%、「区のホームページ」が24.0%と続いています。

一方、「特にない」は11.1%となっています。

(3-4)地域で安心して暮らすために必要な施策(問 20)



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が53.4%、「周囲の人の障害に対する理解の促進」が51.1%と5割を超えており、次いで「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が43.7%、「仕事を継続するための支援の充実」が30.6%と続いています。

令和元年度と比較すると、「日中活動系サービスの充実」、「福祉・医療・介護との連携の充実」、「災害時支援の充実」、「建物・道路等のバリアフリー化」が5ポイント以上下がっています。

【クロス集計】年代別

(単位:%)	n	周囲の人の障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実	日中活動系サービスの充実	短期入所の整備
全体	350	51.1	18.0	53.4	43.7	30.6	24.9	5.7	19.4	7.1
0～2歳	7	42.9	28.6	85.7	57.1	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0
3～5歳	90	56.7	20.0	70.0	38.9	22.2	22.2	3.3	13.3	5.6
6～8歳	88	51.1	13.6	69.3	47.7	28.4	26.1	9.1	20.5	5.7
9～11歳	61	52.5	14.8	47.5	49.2	31.1	31.1	4.9	18.0	8.2
12～14歳	60	48.3	18.3	23.3	46.7	46.7	25.0	1.7	21.7	8.3
15歳以上	26	34.6	15.4	7.7	34.6	34.6	19.2	15.4	30.8	15.4

(単位:%)	n	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実
全体	350	0.9	1.7	14.6	9.4	4.9	1.7	5.4	14.9	14.3
0～2歳	7	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	28.6
3～5歳	90	1.1	0.0	12.2	8.9	3.3	2.2	2.2	7.8	11.1
6～8歳	88	0.0	0.0	9.1	8.0	2.3	1.1	5.7	20.5	12.5
9～11歳	61	0.0	1.6	13.1	9.8	6.6	1.6	1.6	16.4	13.1
12～14歳	60	1.7	5.0	26.7	13.3	10.0	0.0	8.3	20.0	16.7
15歳以上	26	3.8	3.8	19.2	7.7	7.7	0.0	7.7	11.5	26.9

(単位:%)	n	経済的支援の充実	災害時支援の充実	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	その他	特になし	無回答
全体	350	25.7	9.1	4.6	7.7	21.7	2.9	2.6	2.0
0～2歳	7	28.6	0.0	14.3	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0
3～5歳	90	25.6	5.6	2.2	6.7	23.3	2.2	3.3	2.2
6～8歳	88	20.5	12.5	6.8	5.7	27.3	1.1	2.3	0.0
9～11歳	61	29.5	3.3	3.3	3.3	19.7	1.6	3.3	1.6
12～14歳	60	33.3	15.0	5.0	10.0	11.7	3.3	3.3	3.3
15歳以上	26	23.1	11.5	7.7	19.2	3.8	3.8	0.0	7.7

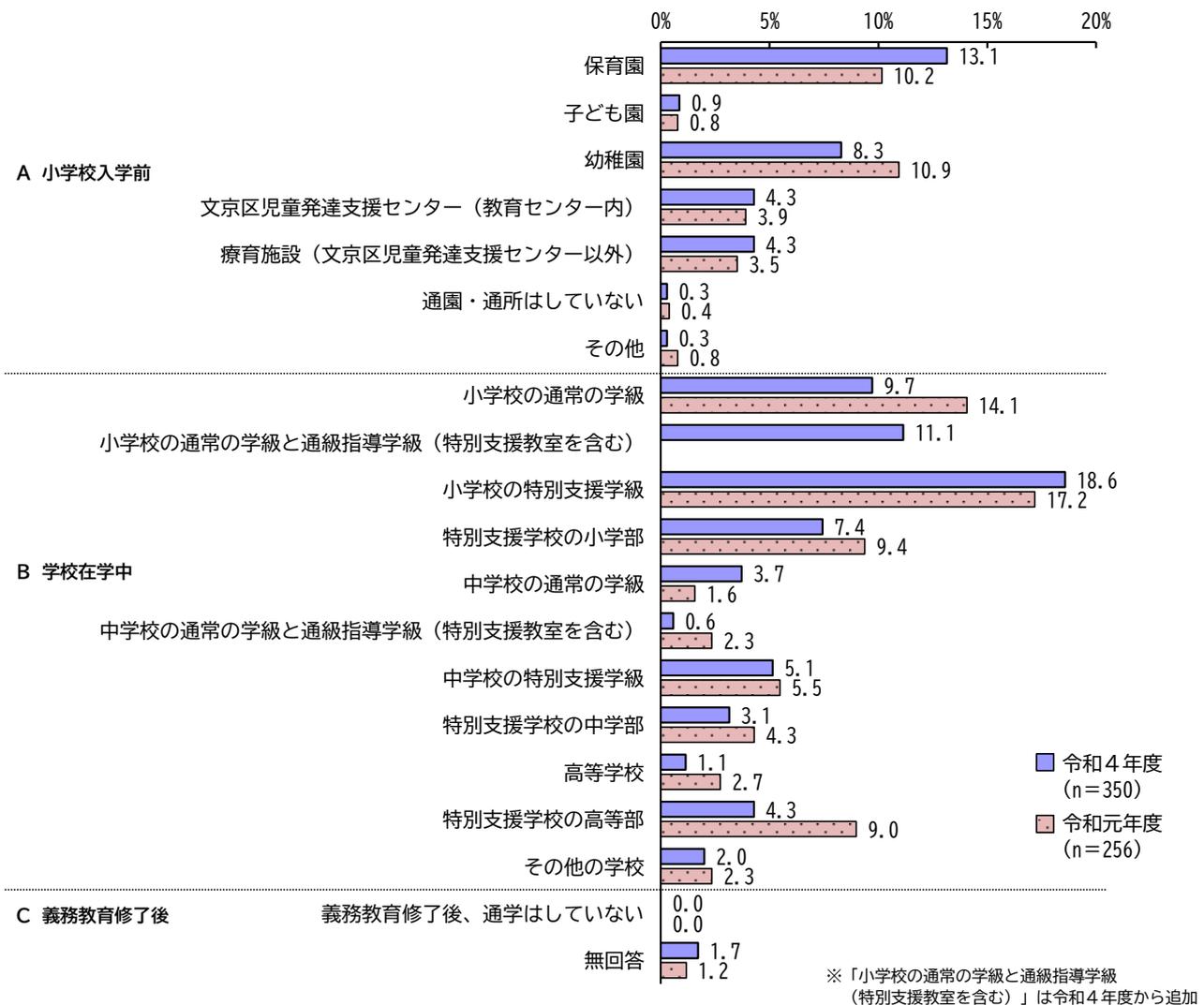
年代別にみると、0～8歳までの年代では「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が最も高く、年代が上がるにつれて低くなる傾向にあります。

9歳以上では「周囲の人の障害に対する理解の促進」が最も高くなっています。また、3～11歳の年代では5割を超えています。

また、いずれの年代でも「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が3割以上、「経済的支援の充実」が2割以上となっています。

(4) 教育・保育について

(4-1)主な通園・通学先(問 26)



主な通園・通学先は、「小学校の特別支援学級」が18.6%と最も高く、次いで「保育園」が13.1%、「小学校の通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）」が11.1%と続いています。

また、「義務教育修了後、通学はしていない」という回答はありませんでした。

令和元年度と比較すると、小学校入学前は、「保育園」が2.9ポイント上がっており、反対に「幼稚園」が2.6ポイント下がっています。

学校在学中は、「特別支援学校の高等部」が4.7ポイント、「小学校の通常の学級」が4.4ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

【A 小学校入学前】

	n	保育園	子ども園	幼稚園	文京区児童発達支援センター(教育センター内)	療育施設(文京区児童発達支援センター以外)	通園・通所はしていない	その他
(単位:%)								
全体	350	13.1	0.9	8.3	4.3	4.3	0.3	0.3
障害別								
肢体不自由	30	3.3	0.0	3.3	10.0	10.0	3.3	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	11.5	0.0	7.7	3.8	3.8	3.8	0.0
視覚障害	12	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	14.3	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	7.1
内部障害	17	11.8	11.8	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0
知的障害	140	10.0	0.0	4.3	4.3	4.3	0.7	0.0
発達障害	213	10.8	0.5	7.5	5.2	2.3	0.5	0.0
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	4.8	4.8	0.0	4.8	9.5	4.8	0.0
その他	19	52.6	0.0	15.8	0.0	5.3	0.0	0.0

【B 学校在学中】

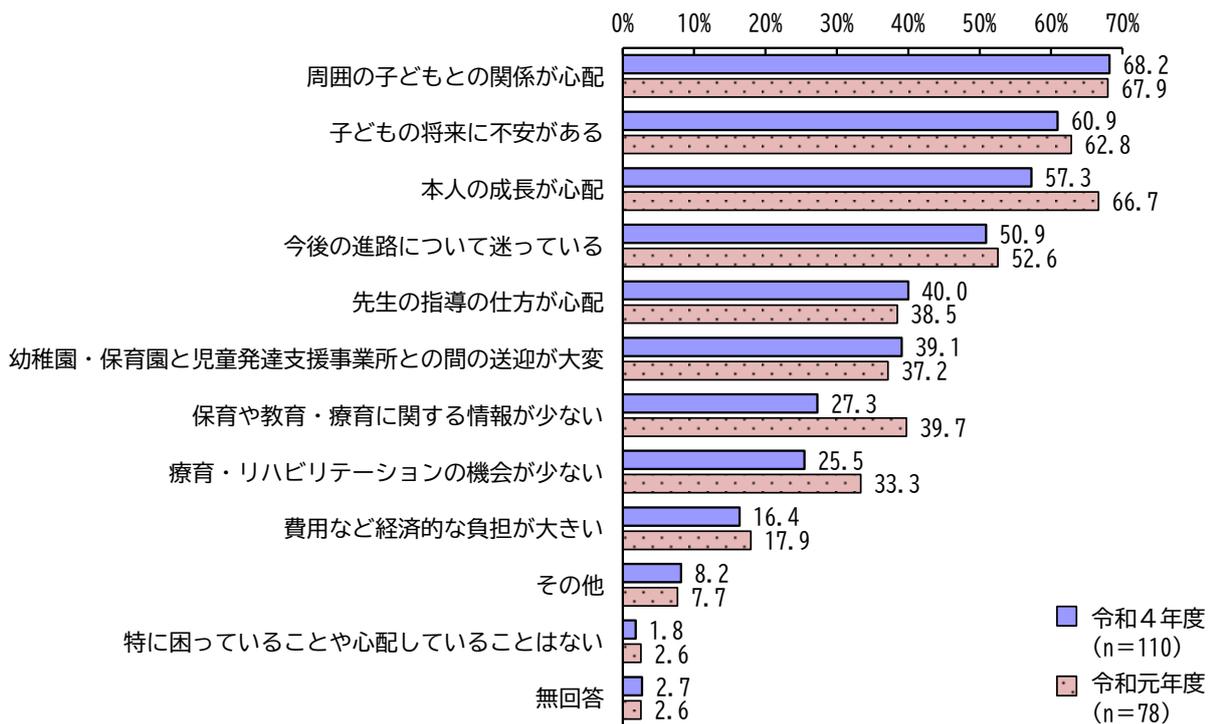
	n	小学校の通常の学級	小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)	小学校の特別支援学級の小学部	特別支援学校の小学部	中学校の通常の学級	中学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)	中学校の特別支援学級
(単位:%)								
全体	350	9.7	11.1	18.6	7.4	3.7	0.6	5.1
障害別								
肢体不自由	30	6.7	0.0	10.0	16.7	3.3	0.0	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	3.8	0.0	19.2	23.1	3.8	0.0	0.0
視覚障害	12	0.0	8.3	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	7.1	28.6	7.1	0.0	0.0	0.0
内部障害	17	41.2	5.9	5.9	0.0	11.8	0.0	0.0
知的障害	140	2.1	2.1	28.6	17.1	2.9	0.0	10.0
発達障害	213	9.9	15.5	20.7	6.1	4.7	0.9	4.2
精神障害	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	0.0	4.8	14.3	23.8	9.5	0.0	4.8
その他	19	0.0	10.5	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0

	n	特別支援学校の中学部	高等学校	特別支援学校の高等部	その他の学校
(単位:%)					
全体	350	3.1	1.1	4.3	2.0
障害別					
肢体不自由	30	20.0	0.0	10.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	7.7	0.0	7.7	3.8
視覚障害	12	16.7	8.3	8.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	7.1	0.0	7.1	0.0
内部障害	17	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	140	4.3	0.0	7.1	2.1
発達障害	213	1.4	0.9	3.8	2.8
精神障害	3	0.0	33.3	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	4.8	0.0	9.5	0.0
その他	19	0.0	0.0	0.0	0.0

【A 小学校入学前】を障害別にみると、“肢体不自由”と“難病(特定疾病)”以外の、回答数が10件以上の障害はいずれも、「保育園」が最も高くなっています。

【B 学校在学中】を障害別にみると、“肢体不自由”では「特別支援学校の中学部」、「視覚障害」と“難病(特定疾病)”では「特別支援学校の小学部」、「内部障害」では「小学校の通常の学級」が最も高く、それ以外の障害はいずれも「小学校の特別支援学級」が最も高くなっています。

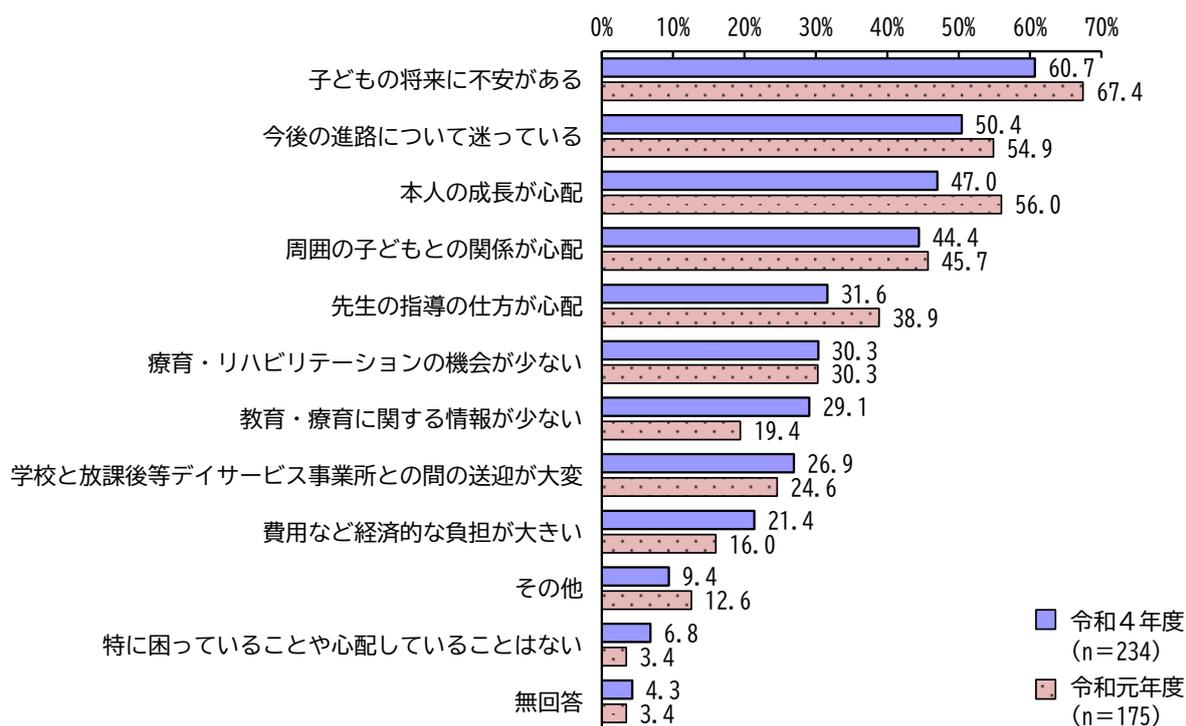
(4-2)通園生活等の困りごと(問 27)



小学校入学前児童の通園生活等の困りごとは、「周囲の子どもとの関係が心配」が 68.2%、「子どもの将来に不安がある」が 60.9%と 6 割台になっており、次いで「本人の成長が心配」が 57.3%、「今後の進路について迷っている」が 50.9%と続いています。

令和元年度と比較すると、「保育や教育・療育に関する情報が少ない」が 12.4 ポイント、「本人の成長が心配」は 9.4 ポイント、「療育・リハビリテーションの機会が少ない」が 7.8 ポイント下がっています。

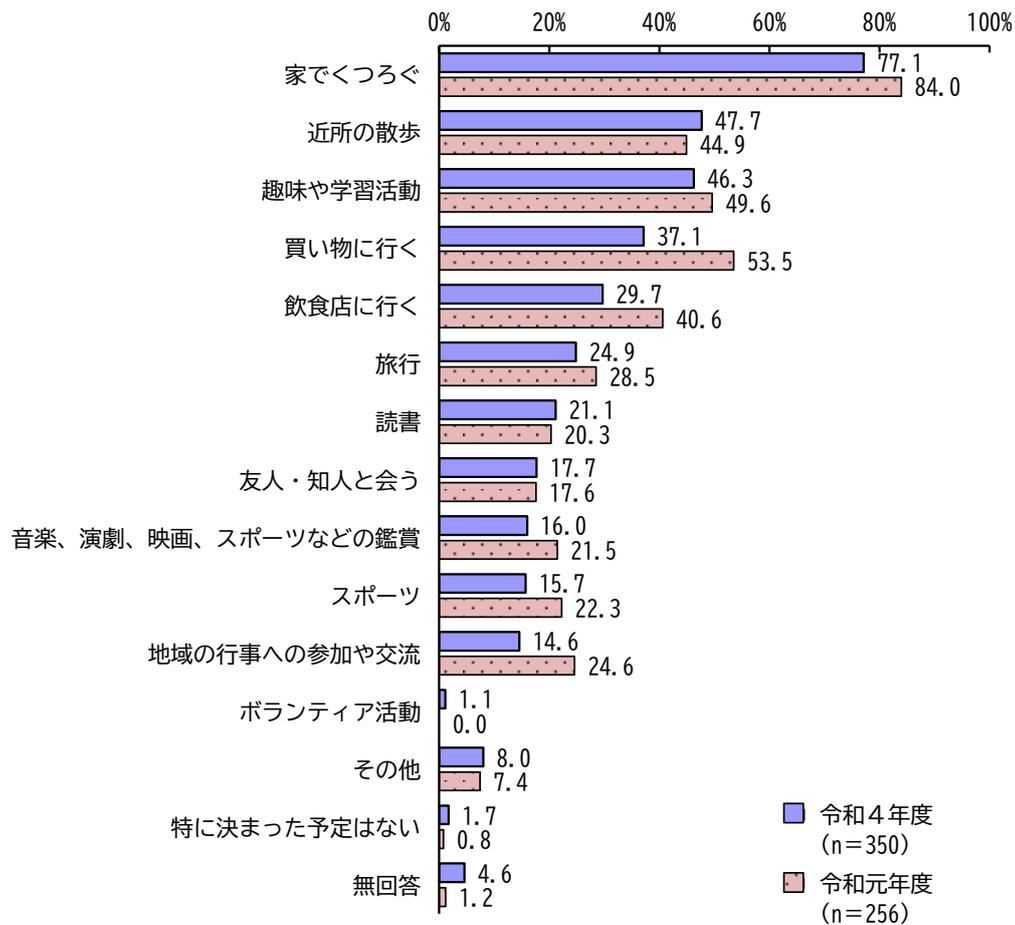
(4-3)通学生活等で困っていること(問 29)



学校在学中の児童の通学生活等の困りごとは、「子どもの将来に不安がある」が60.7%と唯一6割に達し最も高く、次いで「今後の進路について迷っている」が50.4%、「本人の成長が心配」が47.0%と続いています。

令和元年度と比較すると、「教育・療育に関する情報が少ない」が9.7ポイント、「費用など経済的な負担が大きい」が5.4ポイント上がっており、反対に「本人の成長が心配」は9.0ポイント、「先生の指導の仕方が心配」は7.3ポイント、「子どもの将来に不安がある」は6.7ポイントと5ポイント以上下がっています。

(4-4)休日の過ごし方(問 34)



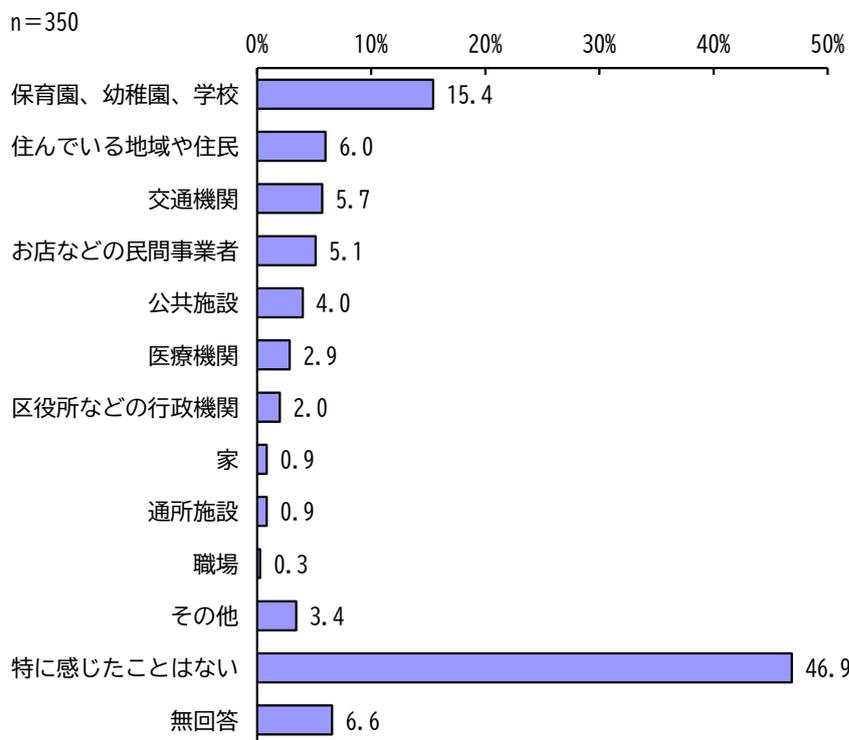
休日の過ごし方は、「家でくつろぐ」が77.1%と最も高く、次いで「近所の散歩」が47.7%、「趣味や学習活動」が46.3%、「買い物に行く」が37.1%と続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は1.7%となっています。

令和元年度と比較すると、「その他」と「特に決まった予定はない」を除いた12項目中8項目が下がっており、特に「買い物に行く」が16.4ポイント、「飲食店に行く」が10.9ポイント、「地域の行事への参加や交流」が10.0ポイントと、10ポイント以上下がっています。

(5) 権利擁護・差別解消について

(5-1) 地域で差別や合理的配慮の不提供を感じる場面(問 38)

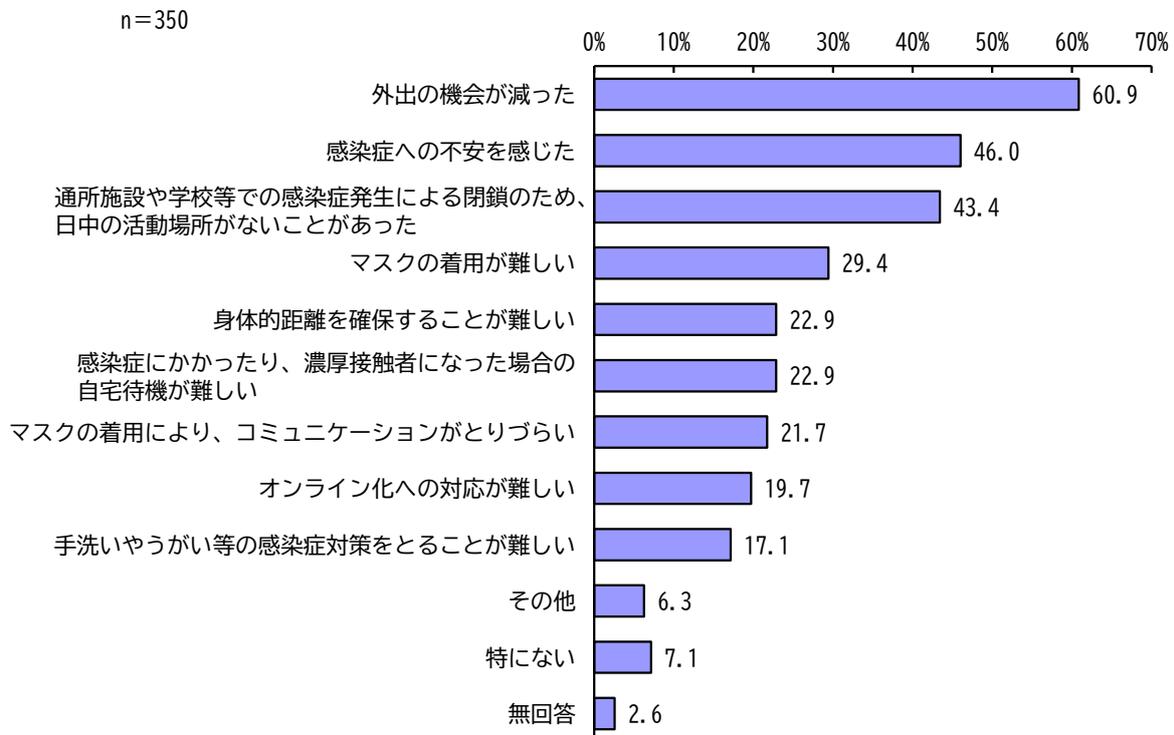


地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「保育園、幼稚園、学校」が15.4%と最も高く、次いで「住んでいる地域や住民」が6.0%、「交通機関」が5.7%と続いています。

一方、「特に感じたことはない」は46.9%となっています。

(6) 感染症について

(6-1) 感染症発生時の困りごと(問42)



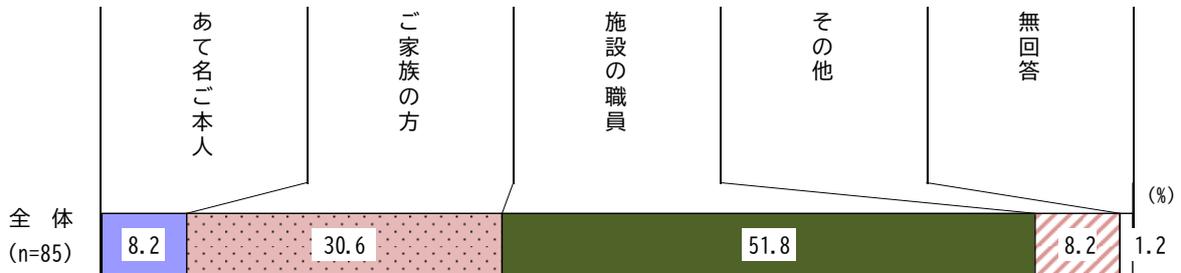
感染症発生時の困りごとは、「外出の機会が減った」が60.9%と最も高く、次いで「感染症への不安を感じた」が46.0%、「通所施設や学校等での感染症発生による閉鎖のため、日中の活動場所がないことがあった」が43.4%と4割台が続いています。

一方、「特にない」は7.1%となっています。

○ 施設に入所している方を対象にした調査

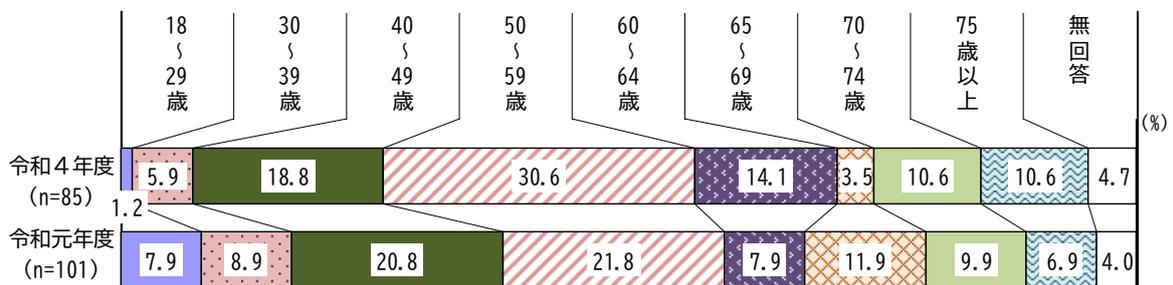
(1) 対象者特性

(1-1)回答者(問1)



調査の回答者は、「施設の職員」が 51.8%と 5 割を超えており、次いで「ご家族の方」が 30.6%、「あて名ご本人」が 8.2%となっています。

(1-2)年齢(問2)

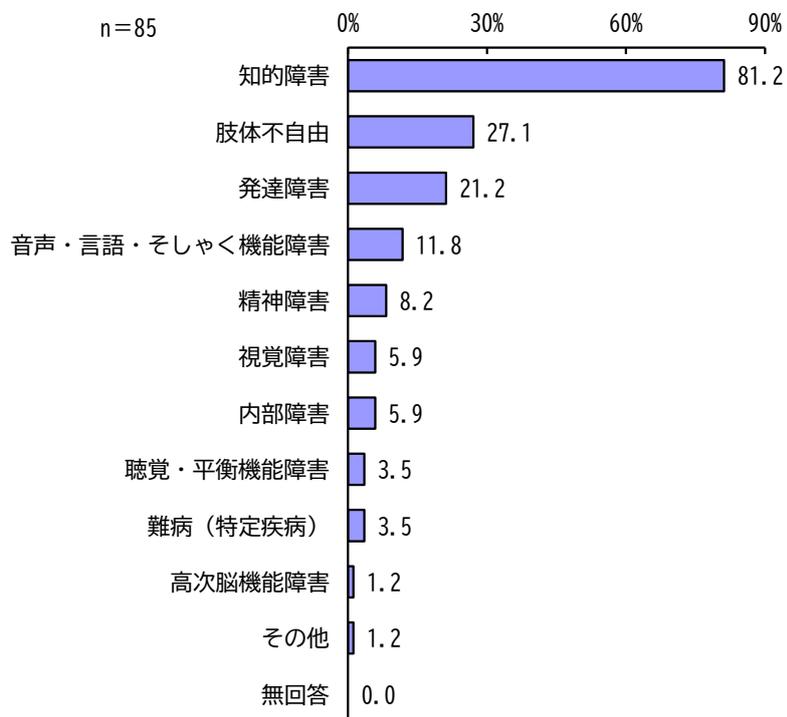


障害者本人の年齢は、「50～59 歳」が 30.6%と 3 割を占めて最も高く、次いで「40～49 歳」が 18.8%、「60～64 歳」が 14.1%と続いています。

令和元年度と比較すると、「50～59 歳」が 8.8 ポイント、「60～64 歳」が 6.2 ポイント上がっており、反対に「65～69 歳」が 8.4 ポイント、「18～29 歳」が 6.7 ポイント下がっています。

(2) 障害の状況について

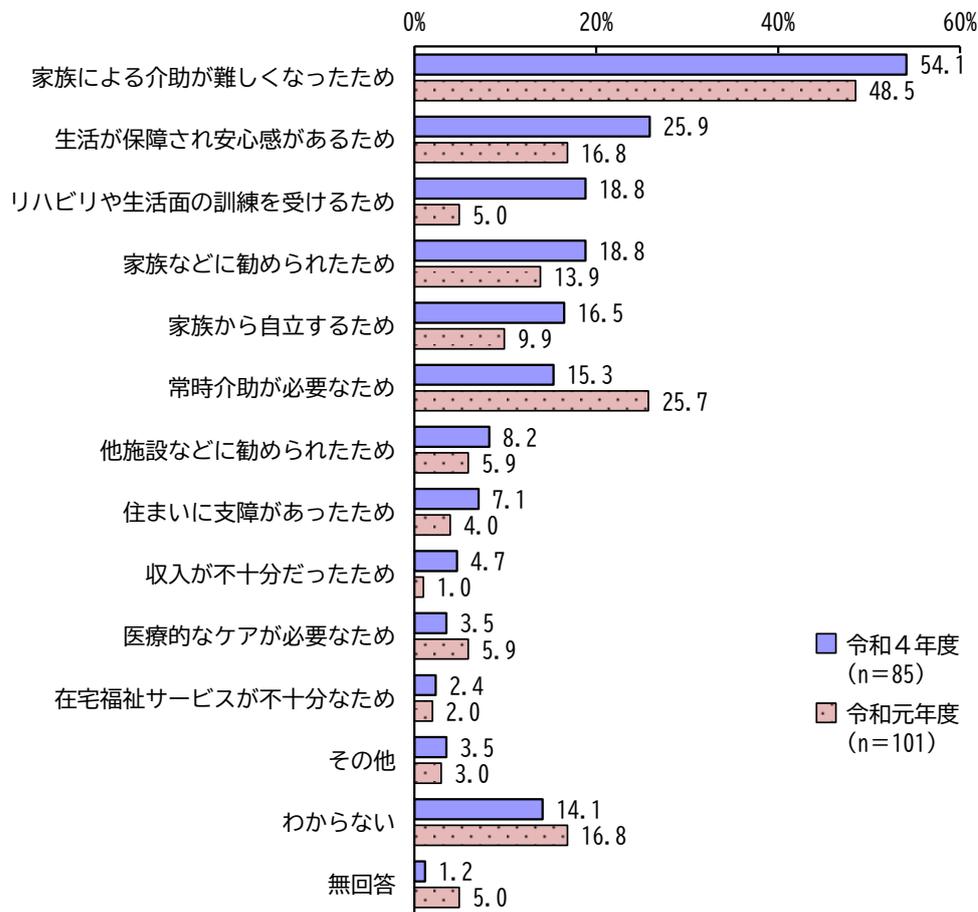
(2-1) 障害の種類(問 5)



障害の種類は、「知的障害」が 81.2%と 8割を超えて最も高く、次いで「肢体不自由」が 27.1%、「発達障害」が 21.2%、「音声・言語・そしゃく機能障害」が 11.8%と続いています。

(3) 施設入所について

(3-1) 施設入所の理由(問10)



現在の施設に入所した理由は、「家族による介助が難しくなったため」が54.1%と5割半ば近くで最も高く、次いで「生活が保障され安心感があるため」が25.9%、「リハビリや生活面の訓練を受けるため」と「家族などに勧められたため」が18.8%、「家族から自立するため」が16.5%と続いています。

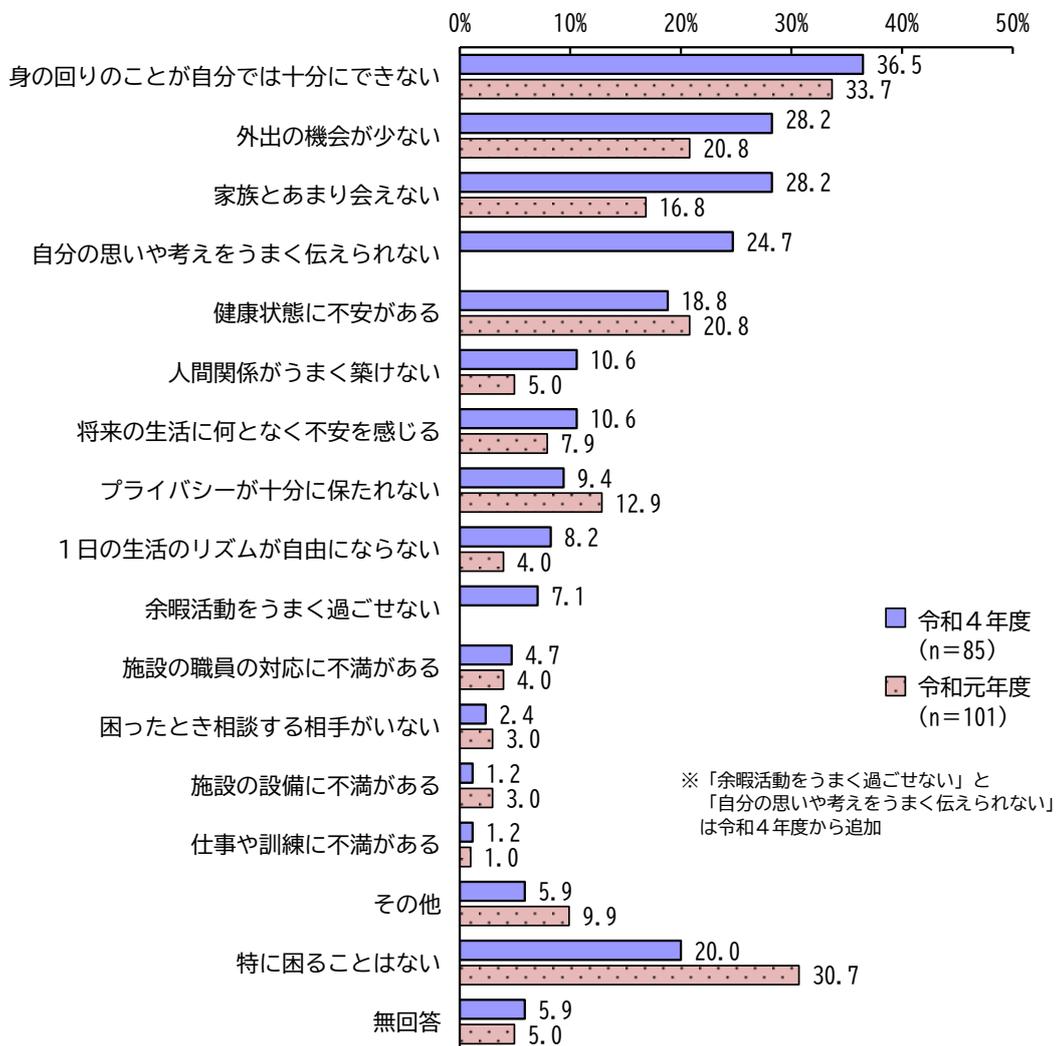
一方、「わからない」が14.1%と1割半ば近くを占めています。

令和元年度と比較すると、「常時介助が必要なため」が10.4ポイント下がっています。

また、「常時介助が必要なため」、「医療的なケアが必要なため」、「わからない」以外の項目はいずれも令和元年度を上回っており、特に「リハビリや生活面の訓練を受けるため」が13.8ポイント、「生活が保障され安心感があるため」が9.1ポイント上がっています。

(4) 施設での生活について

(4-1)現在の生活での困りごと(問13)

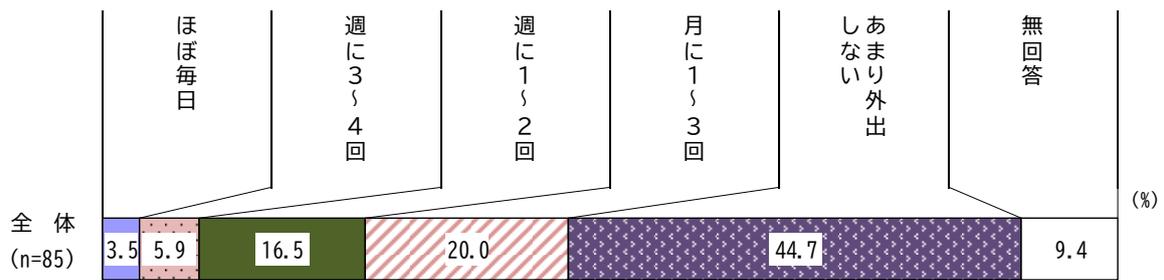


現在の生活での困りごとは、「身の回りのことが自分では十分にできない」が36.5%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「外出の機会が少ない」と「家族とあまり会えない」がともに28.2%、「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が24.7%と2割を超えて続いています。

一方、「特に困ることはない」は20.0%と2割を占めています。

令和元年度と比較すると、「家族とあまり会えない」が11.4ポイント、「外出の機会が少ない」が7.4ポイント、「人間関係がうまく築けない」が5.6ポイントと5ポイント以上、令和元年度より上がっています。反対に「特に困ることはない」が10.7ポイント下がっています。

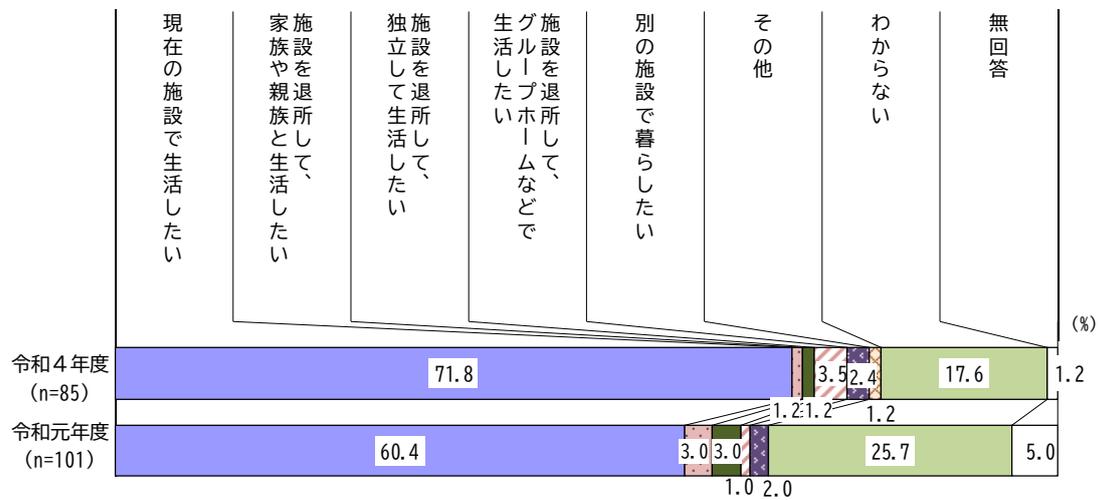
(4-2)外出の頻度(問 17)



外出の頻度は、「あまり外出しない」が44.7%と4割半ばを占めて最も高く、次いで「月に1～3回」が20.0%、「週に1～2回」が16.5%と続いています。

(5) 今後の暮らし方について

(5-1) 今後希望する生活(問 18)

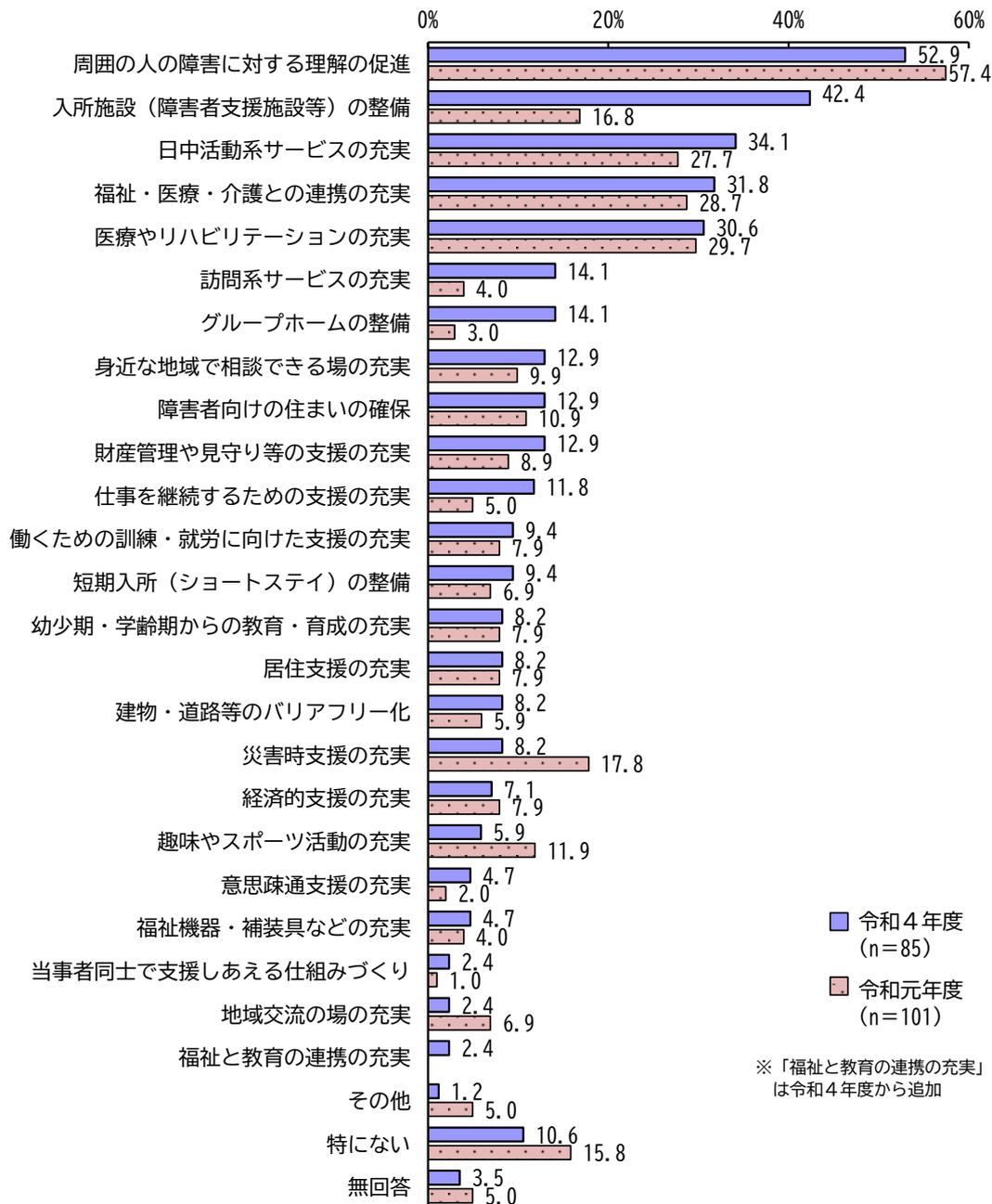


今後希望する生活は、「現在の施設で生活したい」が71.8%と7割を超えて最も高く、次いで「施設を退所して、グループホームなどで生活したい」が3.5%、「別の施設で暮らしたい」が2.4%と続いています。

一方、「わからない」は17.6%と1割半ばを超えています。

令和元年度と比較すると、「現在の施設で生活したい」が11.4ポイント上がっており、反対に「わからない」が8.1ポイント下がっています。

(5-2)地域で安心して暮らすために重要な施策(問 19)

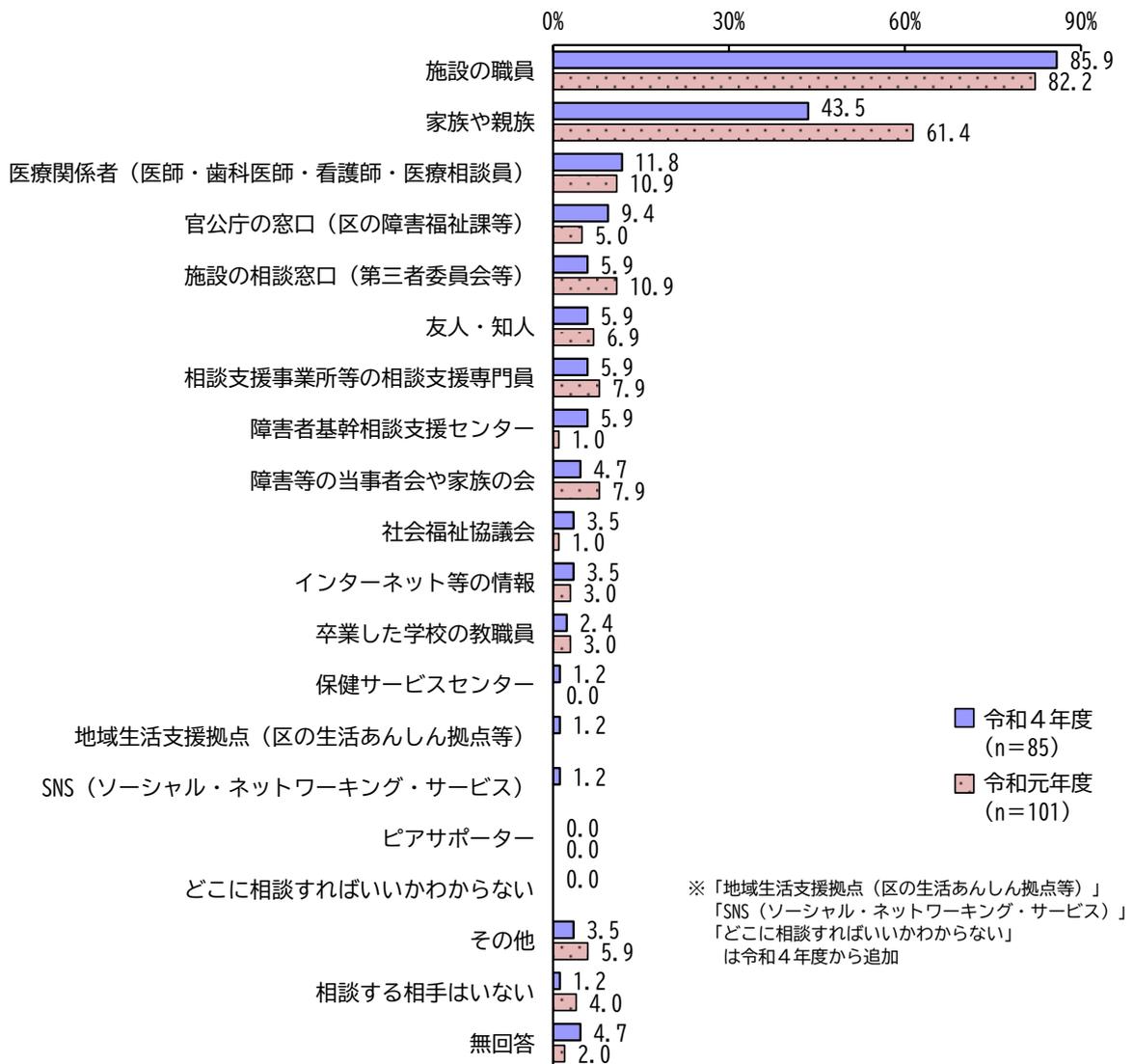


地域で安心して暮らすために重要な施策は、「周囲の人の障害に対する理解の促進」が52.9%と5割を超えて最も高く、次いで「入所施設(障害者支援施設等)の整備」が42.4%、「日中活動系サービスの充実」が34.1%、「福祉・医療・介護との連携の充実」が31.8%、「医療やリハビリテーションの充実」が30.6%と3割を超えて続いています。

令和元年度と比較すると、「その他」と「特にない」を除く24項目中19項目で令和元年度を上回っており、特に「入所施設(障害者支援施設等)の整備」が25.6ポイント、「グループホームの整備」が11.1ポイント、「訪問系サービスの充実」が10.1ポイントと10ポイント以上上がっています。

(6) 相談や福祉の情報について

(6-1) 困ったときの相談相手(問 20)



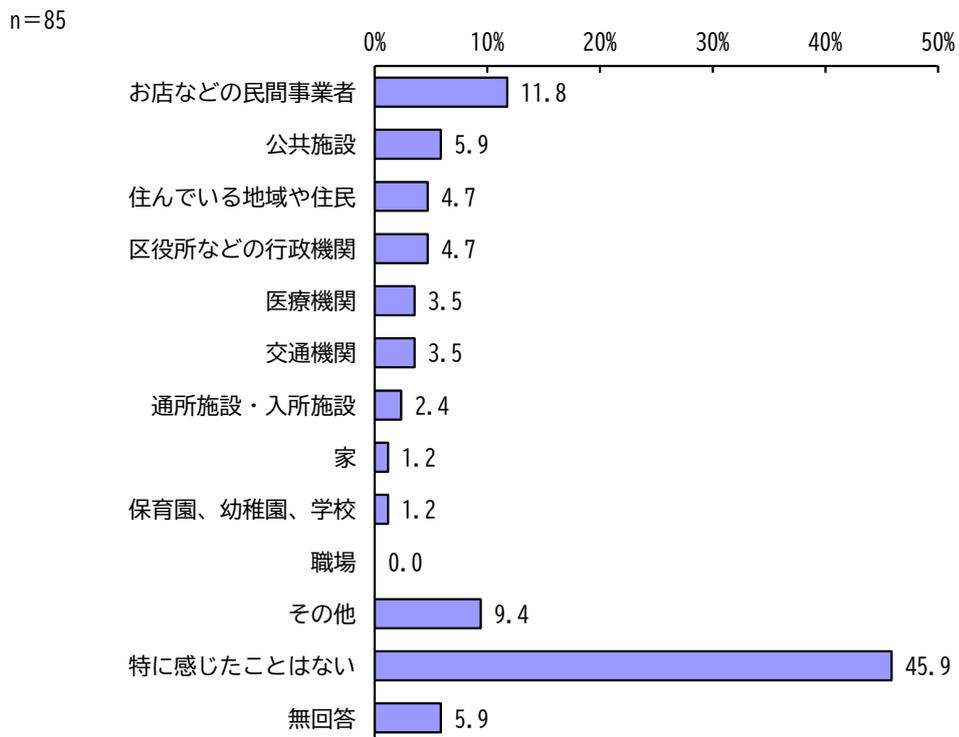
困ったときの相談相手は、「施設の職員」が85.9%と8割半ばで最も高く、次いで「家族や親族」が43.5%、「医療関係者 (医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」が11.8%と続いており、それ以外の項目は1割を下回っています。

一方、「相談する相手がいらない」は1.2%となっています。

令和元年度と比較すると、「家族や親族」が17.9ポイント令和元年度より下がっており、「施設の相談窓口 (第三者委員会等)」も5.0ポイント下がっています。

(7) 権利擁護・差別解消について

(7-1) 地域で差別や合理的配慮の不提供を感じる場面(問 24)

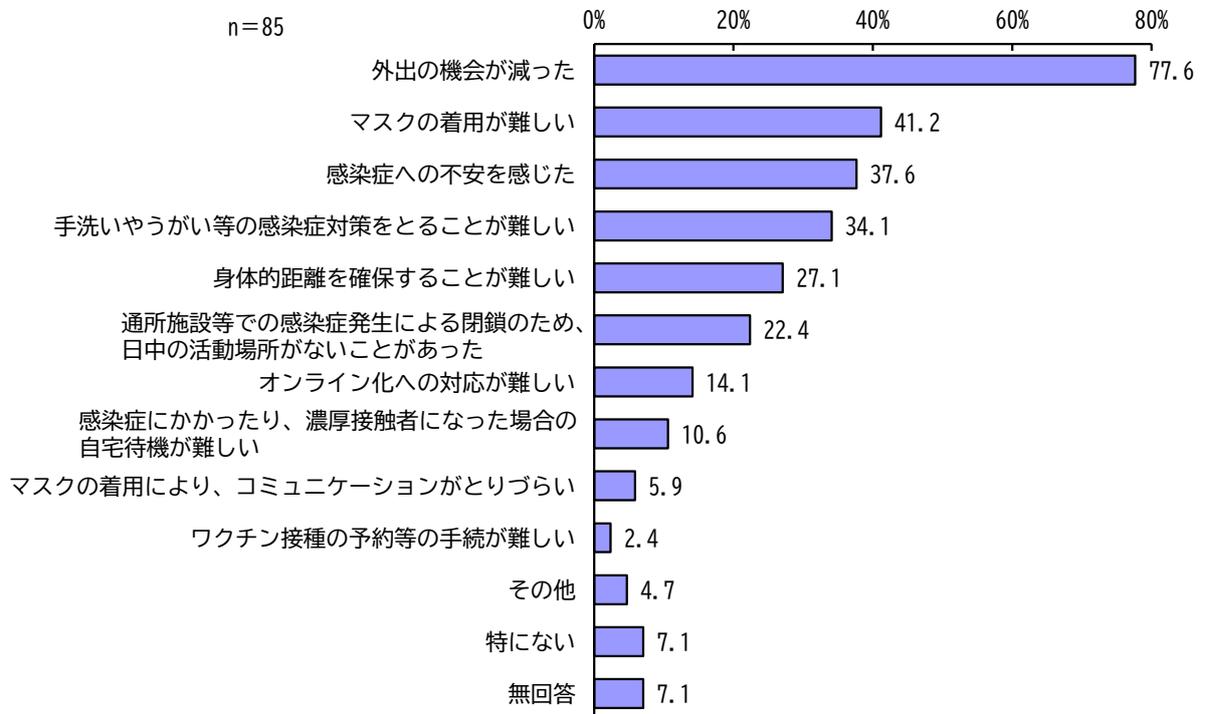


地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「お店などの民間事業者」が11.8%と唯一1割を超えて最も高く、次いで「公共施設」が5.9%、「住んでいる地域や住民」と「区役所などの行政機関」がともに4.7%と続いています。

一方、「特に感じたことはない」は45.9%と4割半ばを占めています。

(8) 感染症について

(8-1) 感染症発生時の困りごと(問 28)



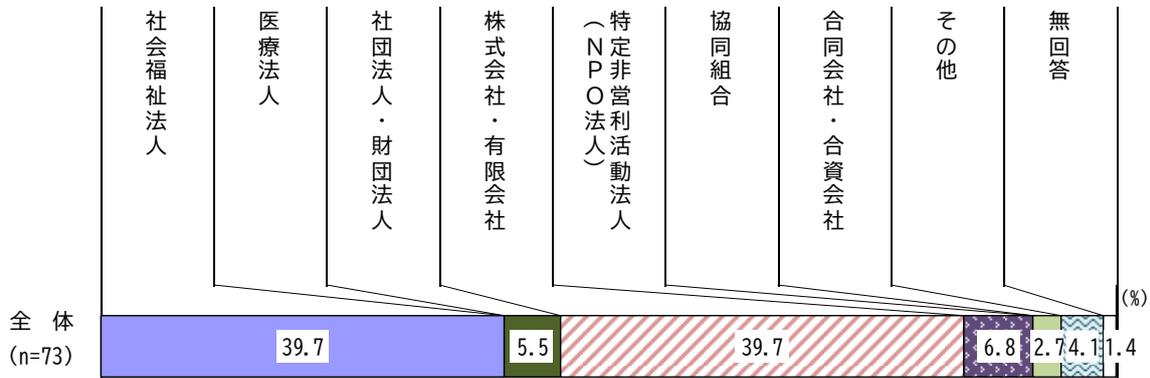
感染症発生時の困りごとは、「外出の機会が減った」が77.6%と7割半ばを超えて最も高く、次いで「マスクの着用が難しい」が41.2%、「感染症への不安を感じた」が37.6%、「手洗いやうがい等の感染症対策をとることが難しい」が34.1%と3割を超えて続いています。

一方、「特にない」は7.1%となっています。

○ サービス事業所の方を対象にした調査

(1) 事業運営について

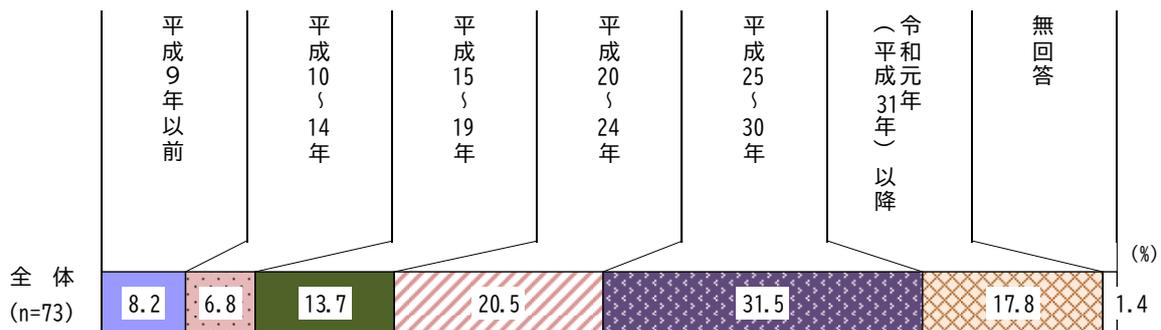
(1-1) 経営主体(問1)



回答事業所の経営主体は、「社会福祉法人」と「株式会社・有限会社」がともに39.7%と4割を占めて最も高く、次いで「特定非営利活動法人 (NPO法人)」が6.8%、「社団法人・財団法人」が5.5%、「合同会社・合資会社」が2.7%、「その他」が4.1%となっています。

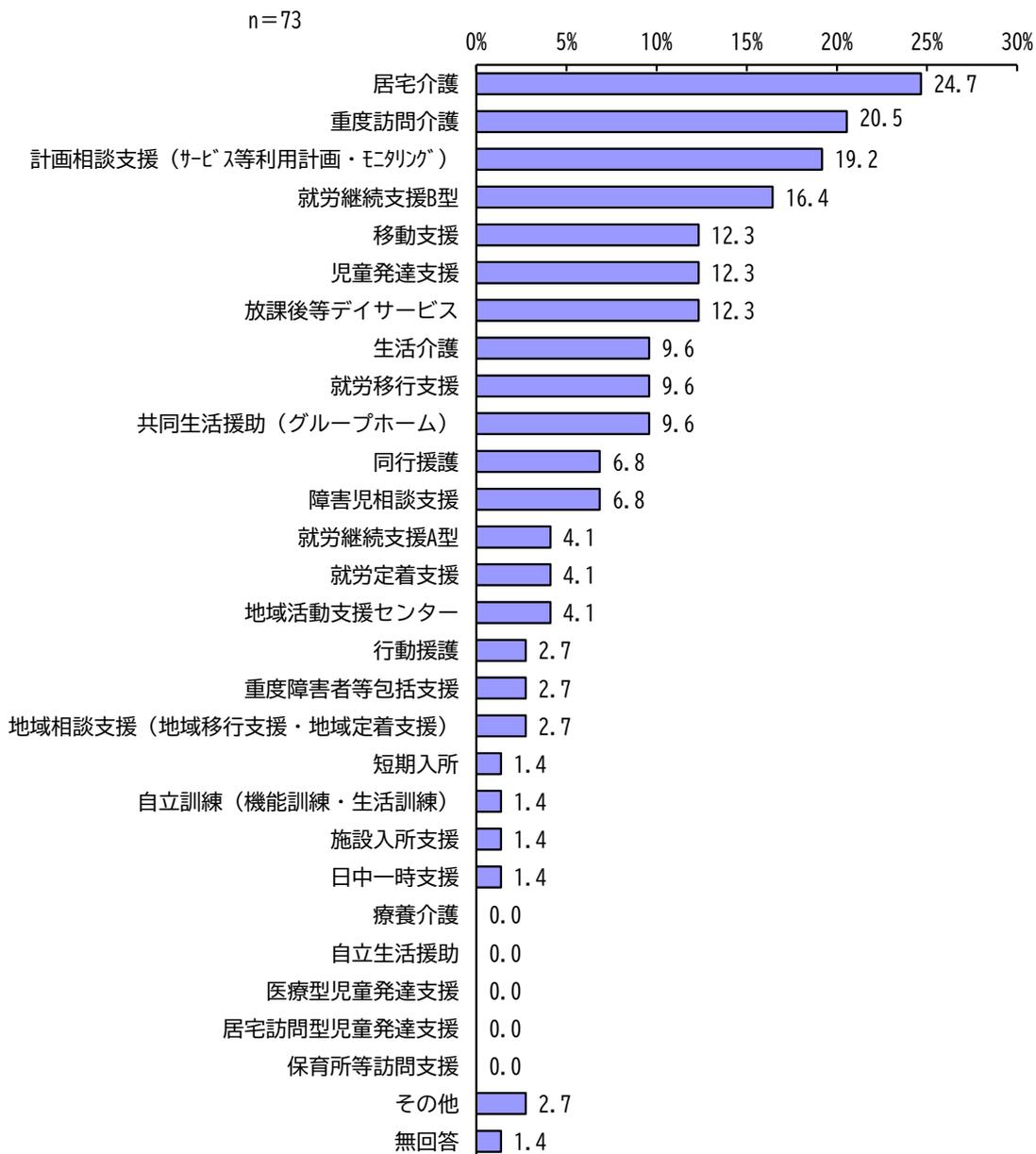
また、「医療法人」と「協同組合」についての回答はありませんでした。

(1-2) 開業年(問2)



開業年は、「平成25～30年」が31.5%と3割を超えて最も高く、次いで「平成20～24年」が20.5%、「令和元年 (平成31年) 以降」が17.8%と続いています。

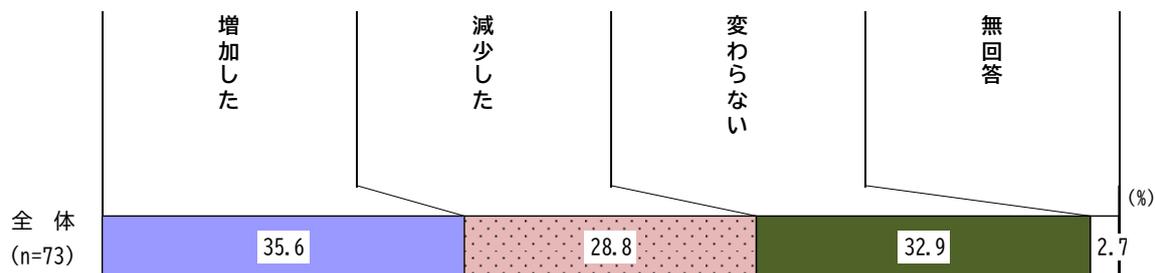
(1-3)提供しているサービス(問3)



提供しているサービスは、「居宅介護」が24.7%で最も高く、次いで「重度訪問介護」が20.5%、「計画相談支援(サービス等利用計画・モニタリング)」が19.2%、「就労継続支援B型」が16.4%と続いています。

(1-4)収支状況(問 6)

【収入】

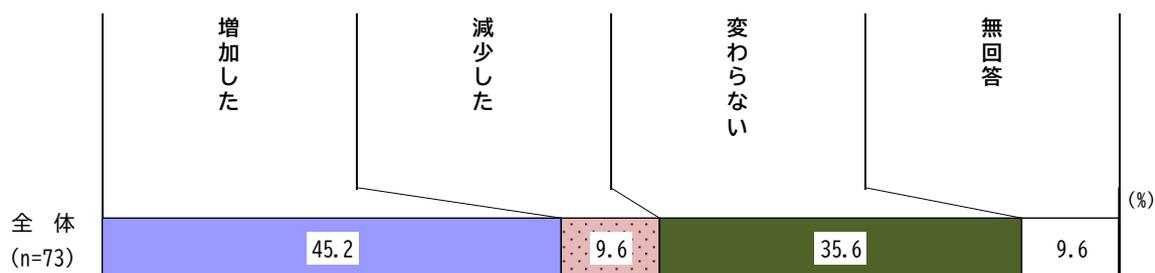


前年度と比較した収入の状況は、「増加した」が35.6%と3割半ばを占めて最も高く、次いで「変わらない」が32.9%、「減少した」が28.8%と続いています。

増加した割合(%)を回答した26事業所の平均増加率は26.6%でした。

減少した割合(%)を回答した21事業所の平均減少率は10.6%でした。

【支出】



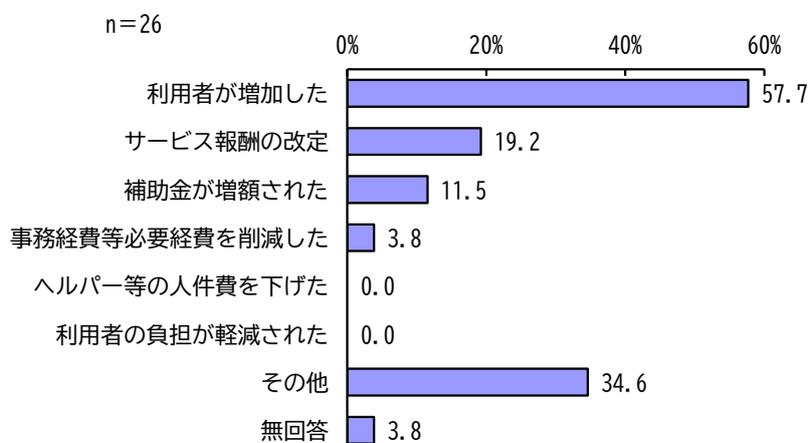
前年度と比較した支出の状況は、「増加した」が45.2%と4割半ばを占めて最も高く、次いで「変わらない」が35.6%、「減少した」が9.6%と続いています。

増加した割合(%)を回答した33事業所の平均増加率は20.7%でした。

減少した割合(%)を回答した7事業所の平均減少率は7.0%でした。

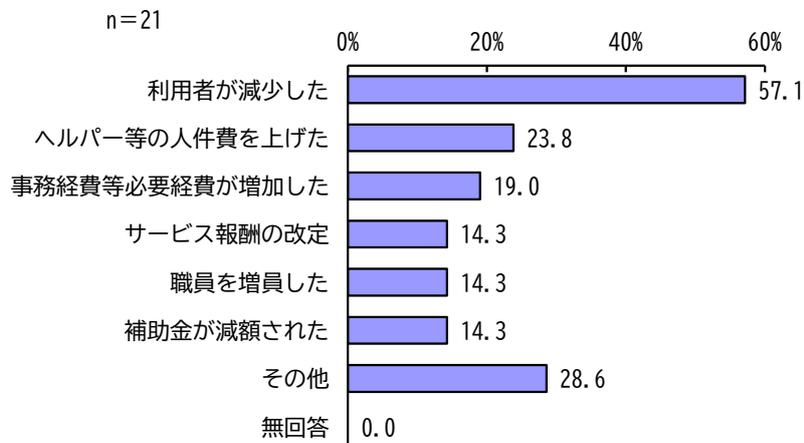
(1-5)増収または減収の理由(問 6-1)

【増収の理由】



増収の理由は、「利用者が増加した」が57.7%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「サービス報酬の改定」が19.2%、「補助金が増額された」が11.5%と続いています。

【減収の理由】

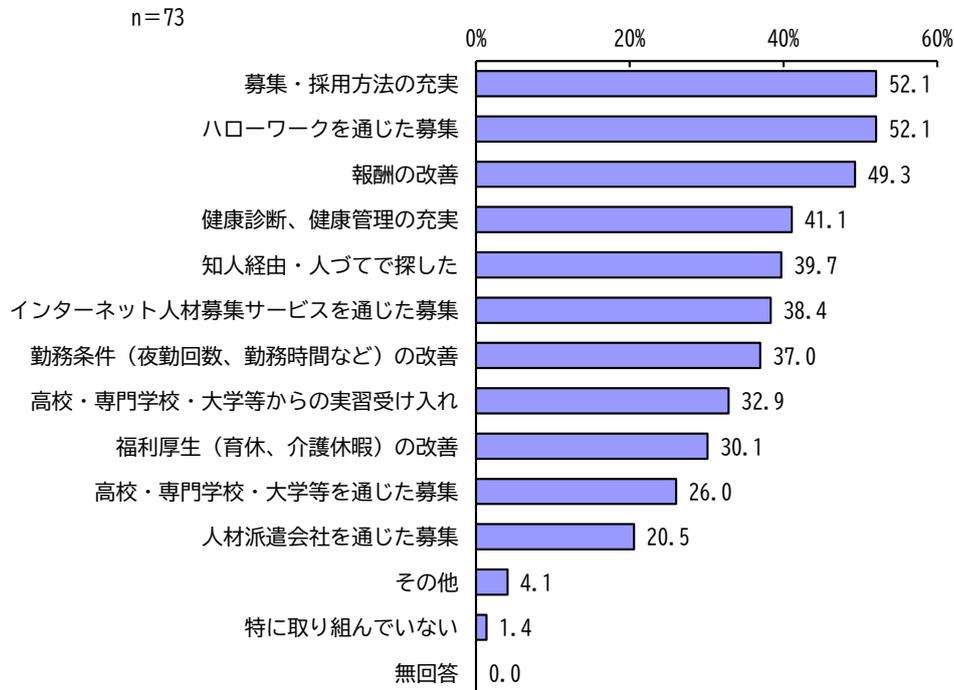


減収の理由は、「利用者が減少した」が57.1%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「ヘルパー等の人件費を上げた」が23.8%、「事務経費等必要経費が増加した」が19.0%と続いています。

(2) 職員について

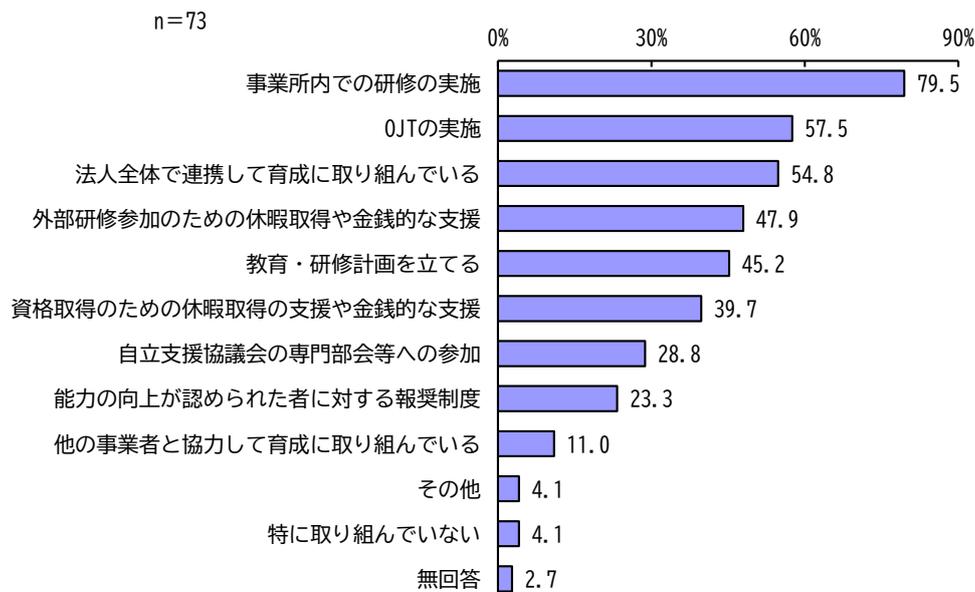
(2-1)人材確保・人材育成の取り組み(問 13)

【人材確保の取り組み】



人材確保の取り組みは、「募集・採用方法の充実」と「ハローワークを通じた募集」がともに 52.1%と5割を超えて最も高く、次いで「報酬の改善」が49.3%、「健康診断、健康管理の充実」が41.1%と続いています。

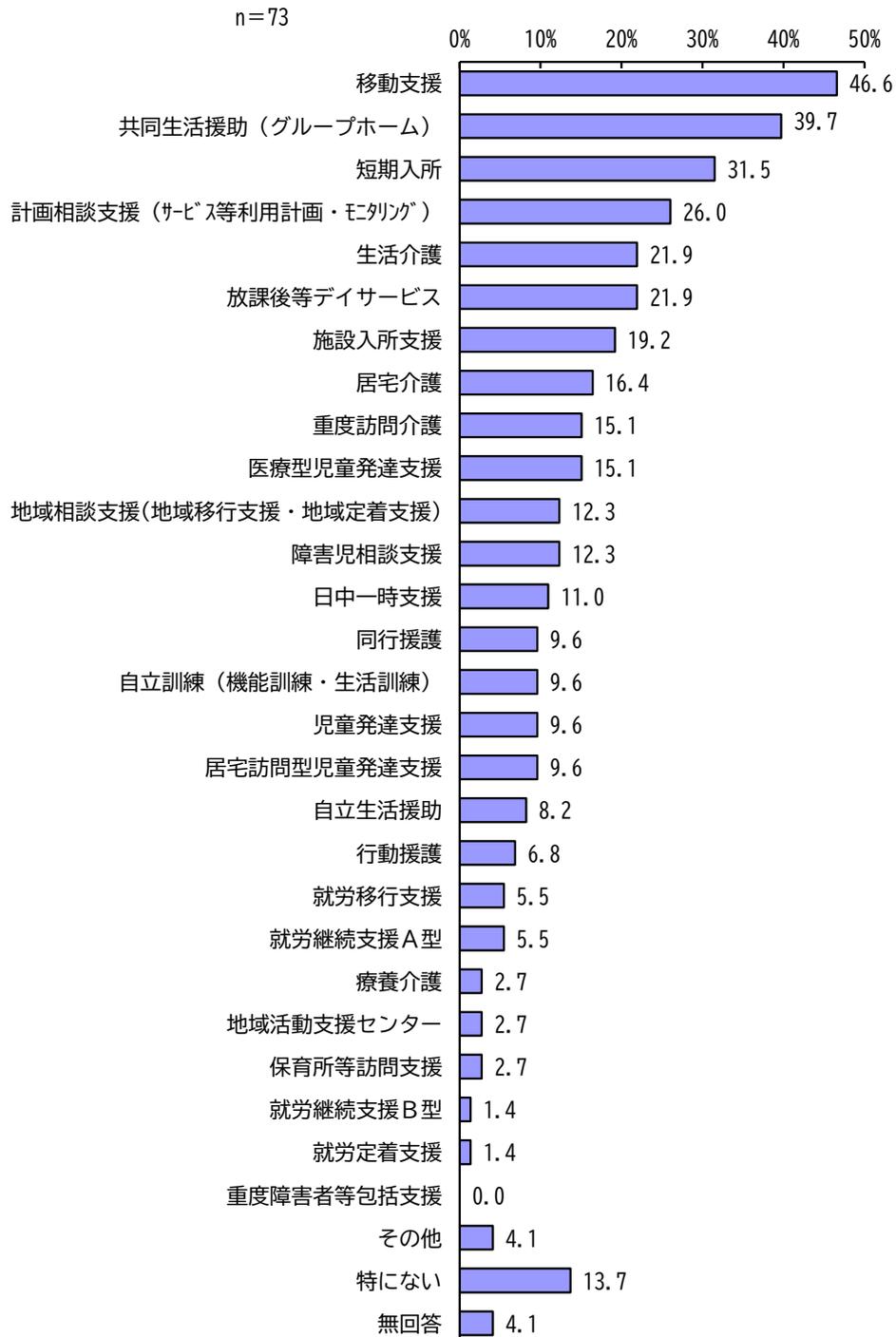
【人材育成の取り組み】



人材育成の取り組みは、「事業所内での研修の実施」が79.5%と約8割で最も高く、次いで「OJTの実施」が57.5%、「法人全体で連携して育成に取り組んでいる」が54.8%と5割を超えて続いています。

(3) サービス提供について

(3-1) 区に不足している障害福祉サービス等(問 20)



現在区に不足している障害福祉サービス等は、「移動支援」が 46.6%と 4 割半ばを超えて最も高く、次いで「共同生活援助 (グループホーム)」が 39.7%、「短期入所」が 31.5%と 3 割台が続いています。

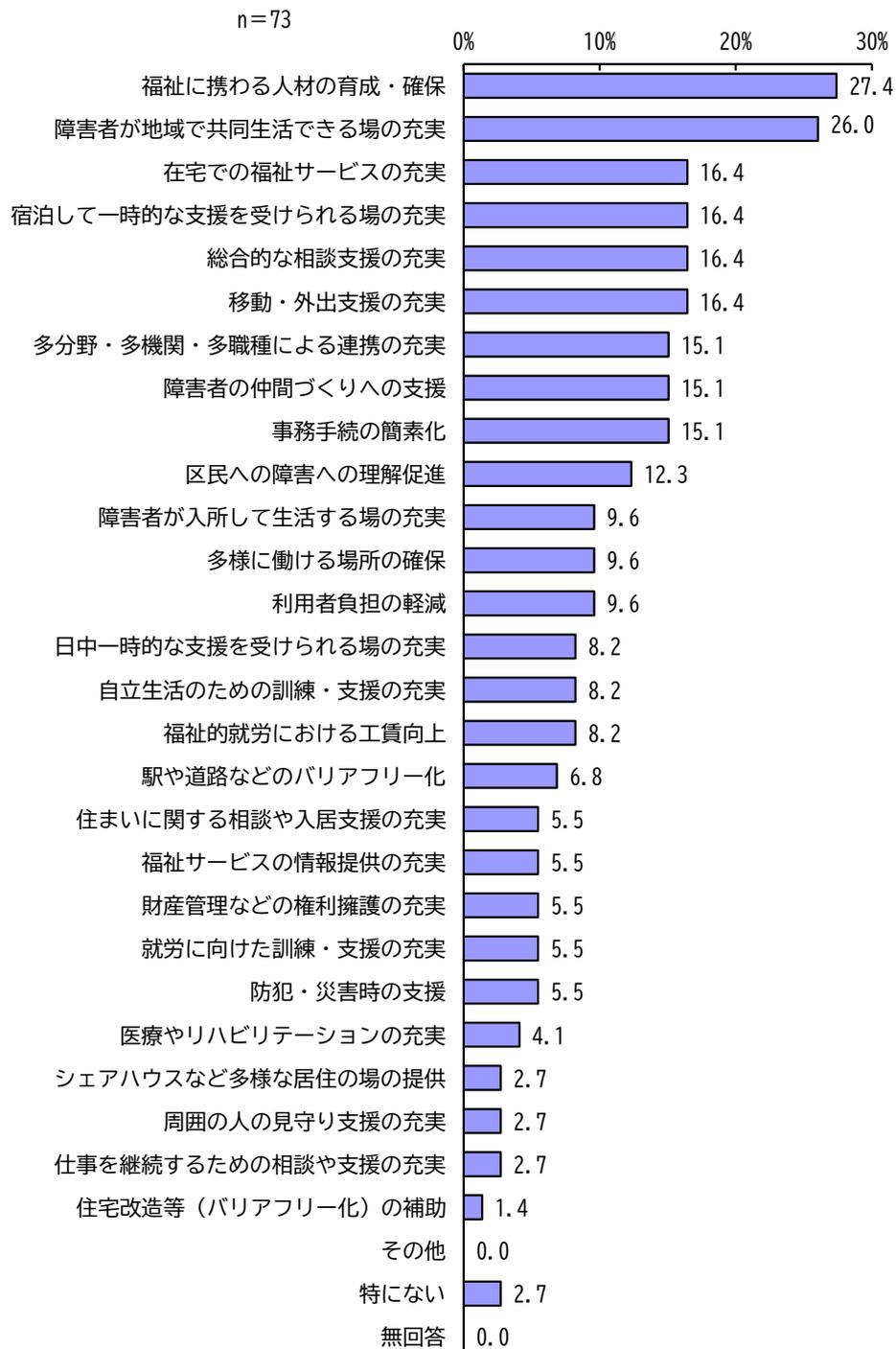
(3-2)今後参入を考えているサービス等(問21)



今後参入を考えているサービス等は、「その他」を除くと「放課後等デイサービス」が12.3%と1割を超えて最も高く、次いで「共同生活援助(グループホーム)」が5.5%が続いています。

一方、「参入は考えていない」は64.4%と6割半ば近くを占めています。

(3-3)今後の障害福祉施策充実に必要なこと(問 25)

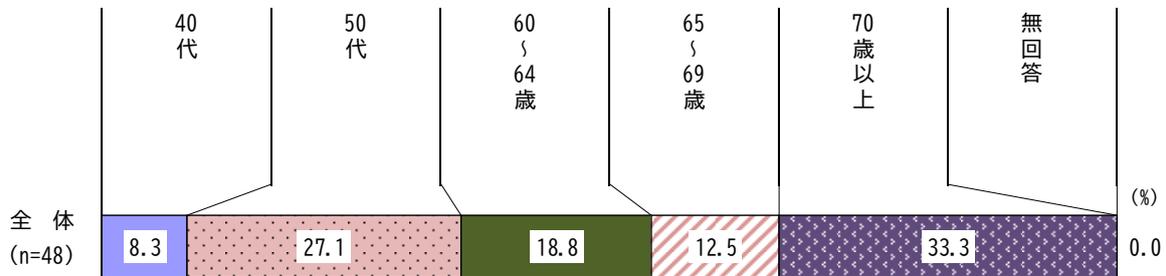


今後の障害福祉施策充実に向けて必要なことは、「福祉に携わる人材の育成・確保」が27.4%と最も多く、「障害者が地域で共同生活できる場の充実」と続いています。

○ 長期入院施設を対象にした調査

(1) 長期入院施設を対象にした調査

(1-1)年代(問2)



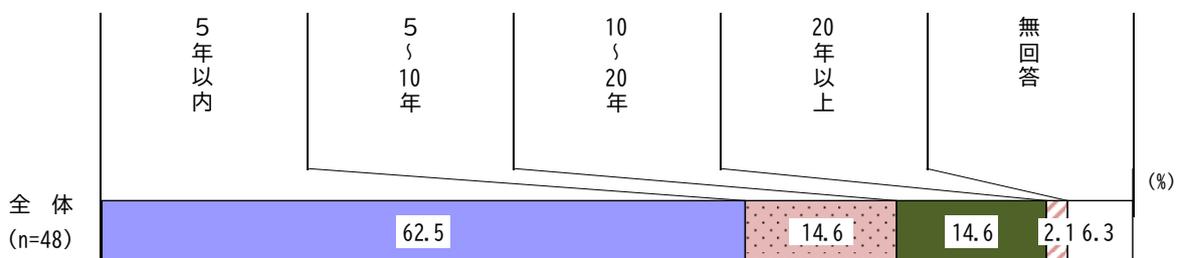
精神疾患で1年以上入院している患者の年代は、「70歳以上」が33.3%と3割を超えて最も高く、次いで「50代」が27.1%、「60～64歳」が18.8%と続いています。「10代」、「20代」、「30代」の回答はありませんでした。

(1-2)病名(問3)

入院患者の病名は下表の通りです。

病名	件数	病名	件数
統合失調症	34	アルコール性認知症	1
双極性感情障害	4	認知症に重なったせん妄	1
アルコール依存症	2	精神病症状を伴う重症うつ病エピソード	1
重度MR	1	うつ病	1
認知症	1	てんかん	1

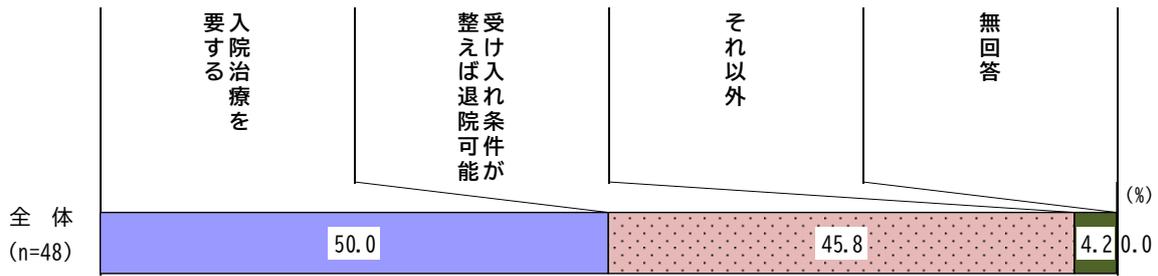
(1-3)在院期間(問6)



入院患者の在院期間は、「5年以内」が62.5%と6割を超えて最も高く、「5～10年」と「10～20年」がともに14.6%となっています。

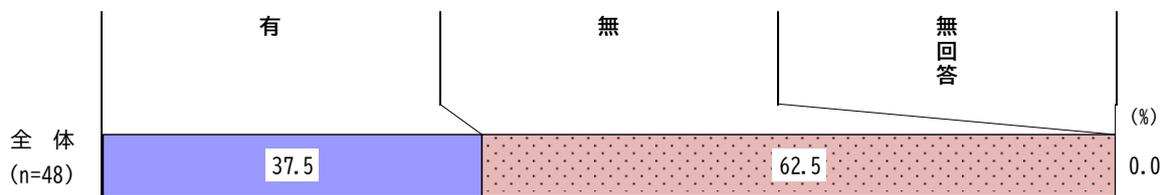
また、「20年以上」については2.1%となっています。

(1-4)入院の状況(問 7)



入院患者の入院の状況は、「入院治療を要する」が 50.0%と半数を占め、「受け入れ条件が整えば退院可能」が 45.8%となっています。

(1-5)病院から見た退院の見通し(問 8)



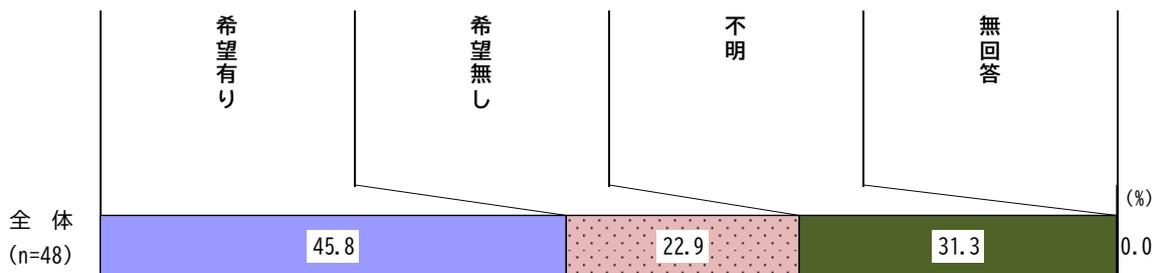
病院から見た入院患者の退院の見通しは、「有」が 37.5%、「無」が 62.5%となっています。

(1-6)退院を想定した場合の帰宅先(問 9)



退院を想定した場合の帰宅先は、「有」が 33.3%、「無」が 66.7%となっています。

(1-7)退院に向けた本人の意(問 10)



退院に向けた入院患者本人の意思は、「希望有り」が 45.8%と 4 割半ばを占めており、「希望無し」が 22.9%、「不明」が 31.3%となっています。

◆ 質的調査(インタビュー調査)

(1) 質的調査の概要

これまで、量的調査(アンケート調査)だけでは汲み取りづらい障害者の思いやニーズを可視化する試みとして、質的調査(インタビュー調査)は、区内通所施設やグループホームを利用している知的障害者・精神障害者を対象に実施してきたところです。今回の調査では、それらに加えて都外の入所施設についてもインタビュー調査を実施しました。

インタビューについては、障害福祉を学ぶ東洋大学社会学部社会福祉学科の3、4年生が、同学科の高山直樹教授、志村健一教授及び同大学大学院社会福祉学研究科の勝又健太氏の指導の下に調査を行い、障害者の現状や実態を把握するとともに、対応策等を検討したものです。

(2) 調査対象

- (1) 区内の通所施設を利用する18歳以上の愛の手帳所持者
- (2) 区内の通所施設を利用する18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者
- (3) 区内の共同生活援助(グループホーム)を利用する18歳以上の愛の手帳所持者
- (4) 区内の共同生活援助(グループホーム)を利用する18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者
- (5) 都外の入所施設を利用する18歳以上の愛の手帳所持者

合計 94 名

対象施設 17 か所

【主に知的障害者が利用する施設 10 か所】

施設名	サービス種別	施設名	サービス種類
1 大塚福祉作業所	就労継続支援 B 型	6 陽だまりの郷	共同生活援助
2 本後福祉センター (若駒の里)	生活介護	7 ワークショップやまどり	就労継続支援 B 型
3 エルムンド小石川	共同生活援助	8 工房わかぎり	就労継続支援 B 型
4 エルムンド千石	共同生活援助	9 ドリームハウス	共同生活援助
5 は〜と・ピア2	生活介護	10 ワークプレイスぶんぶん	就労継続支援 B 型

【主に精神障害者が利用する施設 5 か所】

施設名	サービス種別	施設名	サービス種類
1 銀杏企画	就労継続支援 B 型	4 文京ホームアンダンテ	共同生活援助
2 ホームいちょう	共同生活援助	5 Abeam (アビーム)	就労継続支援 B 型
3 エナジーハウス	地域活動支援センター		

【主に知的障害者が入所する都外入所施設 2 か所】

※施設名については、個人情報保護の観点から明らかにしていません。

(3) 調査対象

面接法（グループ・インタビュー）

(4) 調査内容

属性、日中及び施設での楽しみ、余暇の過ごし方、相談相手、区サービスの利用状況、地域との交流、将来の希望等

(5) 調査時期

令和4年8月～12月

(6) 現状・課題と対応策（一部抜粋）

(1) 主に精神障害者が利用する通所施設（就労継続支援B型事業所及び地域活動支援センター）のインタビュー調査結果

現状・課題	考えられる対応策
相談相手が限られている	<ul style="list-style-type: none">・大学生との交流等、対等な関係の友人ができる環境づくり・他区との連携を図ることで、より円滑な支援体制の構築
地域との交流が少ない	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍の収束状況を鑑みながら、地域資源（大学、寺社等）と協力して地域のイベントの開催
他の施設との連携の充実が必要	<ul style="list-style-type: none">・施設同士の連携を図るため、ネットワークの活発化を図る（例：自立支援協議会の機能強化など）

(2) 主に知的障害者が利用する就労継続支援B型事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	考えられる対応策
友人が少ない	<ul style="list-style-type: none">・学生が主体となったイベント企画を行う・スポーツ交流の場など気軽に繋がれる機会をつくる
災害時の具体的な行動が分からない	<ul style="list-style-type: none">・事業所内での災害時の訓練の実施・サービス等利用計画の中に災害時の対応についても盛り込み、本人・関係者で共有する
通所先が限定され、他者との関係性が薄い	<ul style="list-style-type: none">・他の就労継続支援B型事業所との連携により、交流の機会を拡大・学校を卒業後しても、教師や同級生とつながることができるコミュニティづくり

(3) 主に知的障害者が利用する生活介護事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	考えられる対応策
コロナウイルスの影響で、外出を望む利用者が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・施設向けの費用補助等の旅行支援の実施 ・ガイドヘルパーの充実
相談相手が限られている	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の大学との連携 ・対等な関係性の友人ができる環境づくり
仕事の種類が限られており、希望通りの仕事できていない	<ul style="list-style-type: none"> ・就労体験の場を設けて、作業の選択肢を増やし、利用者自身で仕事を選択できる場の拡大

(4) 共同生活援助(グループホーム)事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	考えられる対応策
日常生活への満足感を得ている	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの量的拡大により、区内の利用者の増加をねらう
相談支援体制の充実が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームを中心とした相談ネットワークの確保
知的障害者はグループホームの生活に満足しており、精神障害者はグループホームを通過して、地域生活に移行していく	<ul style="list-style-type: none"> ・通過施設となるグループホームの充実により、居住者が流動化することで、新たな利用者の掘り起こし

(5) 主に知的障害者が利用する都外入所施設のインタビュー調査結果

現状・課題	考えられる対応策
友人や知人と関係継続・再会する場の設定の必要	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した交流を実現するための支援や環境づくり ・区による訪問の機会の確保や定期的な連絡
生活体験の機会拡大による意向の模索	<ul style="list-style-type: none"> ・区内グループホーム等への宿泊や外出の機会を設ける等、体験の機会の創出
プライバシーを確保した居場所となり得る居室環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが思い思いの生活を過ごすことができる環境設定(多床室→一人部屋への転換等)
本人から音信不通な親族の居所に対する心配の声	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の強みを活かした緊急時等の迅速な連絡体制の構築
施設完結に留まらない自立生活の総合支援計画の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者が一堂に会し、本人の今後の生活について考える意思決定支援会議の開催
対象者の規模を広げた継続調査の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した聞き取りの実施

文京区障害者(児)実態・意向調査報告書 概要版

令和5年3月

印刷物番号:E0322057

編集・発行 文京区 福祉部障害福祉課
〒112-8555 東京都文京区春日1-16-21
電話 03-3812-7111 (代表)
調 査 株式会社アイアールエス